

建設経済委員会・分科会 会議記録

- 1 期 日 令和 2 年 3 月 16 日 (月)
午前 9 時 25 分 開会
午後 5 時 43 分 閉会
- 2 場 所 第 3 委員会室
- 3 出席委員 委員長 浅田 徹
副委員長 芦田 竹彦
委員 青山 憲司、上田 倫久、
椿野 仁司、土生田仁志、
松井 正志、村岡 峰男
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 (別紙のとおり)
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主幹兼庶務係長 小林 昌弘
- 8 会議に付した事件 (別紙のとおり)

建設経済委員長・分科会長 浅田 徹

建設経済委員会 次第

日時：2020年3月16日(月) 9:30 ～

場所：第3委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 付託案件の審査について

～別紙付託分類表及び審査日程表のとおり～

(2) その他

4 閉 会

令和2年第1回豊岡市議会（定例会）議案付託分類表

【建設経済委員会】

- 報告第2号 専決処分したものの承認を求めることについて
専決第5号 令和元年度豊岡市太陽光発電事業特別会計補正予算（第2号）
報告第4号 令和元年度豊岡市農業共済事業特別会計予算に係る弾力条項の適用について
第3号議案 市道路線の認定について
第5号議案 農業委員会の委員の認定農業者過半数要件の例外適用につき同意を求めることについて
第16号議案 豊岡市森林環境基金条例制定について
第20号議案 豊岡市公営企業の設置等に関する条例の一部を改正する条例制定について
第21号議案 豊岡市集落排水処理施設等の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
第28号議案 令和元年度豊岡市太陽光発電事業特別会計補正予算（第3号）
第29号議案 令和元年度豊岡市水道事業会計補正予算（第4号）
第30号議案 令和元年度豊岡市下水道事業会計補正予算（第5号）
第31号議案 令和元年度豊岡市農業共済事業特別会計補正予算（第1号）
第39号議案 令和2年度豊岡市太陽光発電事業特別会計予算
第41号議案 令和2年度豊岡市水道事業会計予算
第42号議案 令和2年度豊岡市下水道事業会計予算

予算決算委員会付託議案に係る分科会分担表

【建設経済分科会】

- 報告第2号 専決処分したものの承認を求めることについて
専決第2号 令和元年度豊岡市一般会計補正予算（第6号）
専決第3号 令和元年度豊岡市一般会計補正予算（第7号）
専決第4号 令和元年度豊岡市一般会計補正予算（第8号）
第22号議案 令和元年度豊岡市一般会計補正予算（第9号）
第32号議案 令和2年度豊岡市一般会計予算
第43号議案 令和元年度豊岡市一般会計補正予算（第10号）
第44号議案 令和2年度豊岡市一般会計補正予算（第1号）

建設経済委員会・分科会 審査日程表

審査日程	所管部課名	審査区分	予想時間
3月16日(月) 9:30~	【農業委員会】	分第32号議案（一般会計予算）＜説明・質疑＞ ・主要事業等の予算説明 ・債務負担行為、地方債の説明	9:30 ～ 12:00
	【環境経済部】 環境経済課 大交流課	分第32号議案（一般会計予算）＜説明・質疑＞ ・主要事業等の予算説明 ・債務負担行為、地方債の説明	
	【各振興局】 地域振興課（地域振興担当） 城崎温泉課	分第32号議案（一般会計予算）＜説明・質疑＞ ・主要事業等の予算説明 ・債務負担行為、地方債の説明	
	【コウノトリ共生部】 農林水産課 コウノトリ共生課 地籍調査課	分第32号議案（一般会計予算）＜説明・質疑＞ ・主要事業等の予算説明 ・債務負担行為、地方債の説明	13:00 ～ 14:50
	コウノトリ共生課	○第39号議案（太陽光発電事業特別会計予算） ＜説明・質疑・討論・表決＞	
	【都市整備部】 建設課 都市整備課 建築住宅課 用地課	分第32号議案（一般会計予算）＜説明・質疑＞ ・主要事業等の予算説明 ・債務負担行為、地方債の説明	15:00 ～ 16:00

審 査 日 程	所 管 部 課 名	審 査 区 分
3月17日(火) 9 : 30～ 第3委員会室	【各振興局】 地域振興課（地域振興担当） 【環境経済部】 環境経済課 大交流課 【コウノトリ共生部】 農林水産課 コウノトリ共生課、 地籍調査課 【都市整備部】 建設課 都市整備課、 建築住宅課 【上下水道部】 水道課 下水道課 【農業委員会】	《付託案件》 ＜個別に説明・質疑・討論・表決＞ 分報告第2号 専決第2号 第3号 第4号 ○報告第2号 専決第5号 ○報告第4号 ○第3号議案 ○第5号議案 ○第16号議案 ○第20号議案 ○第21号議案 分第22号議案 ○第28号議案～第31号議案 分第43号議案～第44号議案 《委員会（分科会）審査意見、要望のまとめ》

※ 全部署そろって午前9:30開始で、全部署の終了をもって退席します。

建設経済委員会名簿(3/16)

=3/16建設経済委員会出席不要

2019年11月12日現在

【委 員】

職 名	氏 名
委 員 長	浅 田 徹
副 委 員 長	芦 田 竹 彦
委 員	青 山 憲 司
委 員	上 田 倫 久
委 員	椿 野 仁 司
委 員	土生田 仁 志
委 員	松 井 正 志
委 員	村 岡 峰 男

8名

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
環境経済部長	坂本 成彦	環境経済課長	柳沢 和男	大交流課参事	吉本 努
環境経済部参事	小林 辰美	大交流課長	谷口 雄彦	大交流課参事	藤原 孝行
コウノトリ共生部長	水嶋 弘三	農林水産課長	石田 敦史	地籍調査課長	西谷 英
		農林水産課参事	川端 啓介	農業共済課長	志水 保之
		コウノトリ共生課長	宮下 泰尚		
都市整備部長	澤田 秀夫	建設課参事	井垣 敬司	用地課長	上野 吉弘
都市整備部参事 (兼建設課長)	河本 行正	都市整備課長	富森 靖彦		
		建築住宅課長	山本 正明		
城崎振興局長	熊毛 好弘	地域振興課参事	丸谷 祐二	城崎温泉課長	植田 教夫
竹野振興局長	瀧下 貴也	地域振興課参事	榎本 啓一		
日高振興局長	小谷 士郎	地域振興課参事	中川 光典		
出石振興局長	榮木 雅一	地域振興課長	阪本 義典		
但東振興局長	羽尻 泰広	地域振興課参事	午菴 晴喜		
上下水道部長	米田 眞一	水道課長	岡田 光美	水道課参事	和田 哲也
		下水道課長	石津 隆	下水道課参事	川崎 隆
				下水道課参事	堀田 政司
農業委員会事務局		農業委員会事務局長	宮崎 雅巳		

35名

【議会事務局】

職 名	氏 名
主幹兼庶務係長	小林 昌弘

44名

午前9時25分 委員会開会

○委員長（浅田 徹） 皆さん、おはようございます。

定刻になりましたので、ただいまから建設経済委員会を開会いたします。

窓の外を見ますと、春の嵐ですか、戻り寒波で白いものが舞っております。きょう一日こういう荒れた天気になるそうです。

予定どおり、コロナウイルスの関係で、小・中・高、小・中ですが、きょうから登校が始まります。規模を縮小してということですが、それぞれ小・中とも卒業式までを、卒園式等も予定どおりということで、それより、子供たちにとってはいろんなことがありましたけど、気持ちよく門出の式といたしますか、それをきっちりやっぱりやっただくという形でよかったかなと思っています。

特にことしは暖冬というふうなことで、除雪等での待機をされておりました請負業者さんが、さらにはコロナウイルスということで景気の後退といえますか、非常に大変な事態になっております。特に建設経済委員会、当委員会につきましては、それぞれが大きな課題が与えられているという認識持っております。これから矢継ぎ早にいろんな国、県、そしてまた市というふうな格好で、対策、施策が出てくると思います。十分にという、情報も早目に開示していただいて、一丸になってこの難局に対応していきたいなど、そんな思いをしておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、早速ですが、それぞれ次第の協議事項のほうに入っていきたいと思います。

それでは、協議事項の1番、付託案件の審査に入りたいと思います。

審査につきましては、お手元に配付しております審査日程表のとおり、議案審査の順序を入れかえまして、本日は令和2年度各会計予算案の説明、質疑、討論、表決及び委員会・分科会の審査意見、要望の取りまとめまでを行います。ご協力よろしくお願いいたします。

明日、17日でございますけれども、その他の議案

の説明、質疑、討論及び表決を行った後、議案全体についての委員会・分科会意見、要望の取りまとめを行うことにしたいと思います。

これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（浅田 徹） 異議なしということで、そのように決定いたしました。

なお、当局の説明は、基本的には部単位で組織順といたしますけれども、スムーズに進行したいので、審査日程表のとおり、午前の日程を一部変更しております。午前は、農業委員会の後、環境経済部と各振興局を一括して審査を行いたいと思いますので、よろしく願います。午後につきましては、コウノトリ共生部、都市整備部、上下水道部の順に審査を行っていきたいというふうに考えております。

なお、委員の質問につきましては、丁寧な対応につきましてよろしくお願いをしておきます。

また、委員会での発言は、委員長の指名の後に発言者の名前を名乗って、マイクを使用してから行っていただきますように、これもお願いをしておきます。

それでは、委員の皆さん、当局の皆さん、質疑、答弁に当たりましては、くれぐれも要点を押さえて簡潔明瞭に行うなど、スムーズな議事の進行に格別のご協力をお願いいたします。

ここで、委員会を暫時休憩したいと思います。

午前9時29分 委員会休憩

午前9時29分 分科会開会

○分科会長（浅田 徹） ただいまより建設経済分科会を開会したいと思います。

それでは、付託されております第32号議案、令和2年度豊岡市一般会計予算を議題といたします。

当局の行いました新規の事業、前年度からの大きな変更になった事業及び主要事業等の議会の説明を要する事業について、その概要を簡潔に説明願いたいと思います。

なお、順番は、歳出、歳入、債務負担行為、地方債の順にお願いをしたいと思います。

それでは、まず農業委員会から説明をお願いします。説明に当たりましては、必要に応じて資料のページ番号をお知らせいただければありがたいと思います。

では、よろしく。

農業委員会、宮崎局長、お願いします。

○農業委員会事務局長（宮崎 雅巳） 予算書の210ページをごらんください。210ページの説明の欄、上から2段目のところです。農業委員会事務局が所管する予算につきましては、農業委員と農地利用最適化推進委員の報酬等の人件費と、事務局運営経費でございます。

農業委員会の中心となる業務は、農地法に基づく農地の権利移転の許可の事務、あるいは担い手への農地の集積、集約化、遊休農地の発生防止解消等による農地利用の最適化が中心となります。

農地法に基づく許可等につきましては、毎月1回開催する総会にて決定いたします。総会は農業委員が出席して会議を行います。

農地の集積・集約、遊休農地の発生防止、解消等の活動は、担当地区を限定しています農地利用最適化推進委員を中心に農業委員と連携して活動することとなっております。

また、新しく人・農地プランなどにも農業委員はかかわることとなりまして、市の農林水産課、県の農地管理事務所等と連携した活動も行います。

令和2年度は、4月20日に新制度最初の委員が3年の任期を終え、新たな委員による1年目となります。前の委員等の活動を引き継ぎ、切れ目のない活動ができるように取り組みたいと考えております。

予算につきましては、委員1年目のため、作業服やその他活動のための消耗品が必要となり、前年度と比較して運営経費が増額となっております。

主なものを説明いたします。説明欄の中で、人件費の委員報酬でございます。委員報酬1,791万円、うち農業委員が795万円、19人分でございます。農地利用最適化推進委員996万円、25人分でございます。前年度と同額でございます。

次に、説明欄の真ん中より少し下の農業委員会費（農業委員会事務局費）のところを説明いたします。620万8,000円でございます。この部分が先ほど説明しましたとおり、委員1年目で、対前年度としましては157万3,000円の増となっております。

主なものを説明します。費用弁償99万1,000円は、農業委員と推進委員が行う視察研修費の旅費を含めます。任期3年目の元年度は日帰りでしたが、2年度予算は1泊で実施予定のため、69万4,000円の増となっております。

その3段下の消耗品93万円は、委員等の作業服、帽子、あるいは委員章、委員研修テキスト等の購入費が含まれておりまして、対前年度56万2,000円の増でございます。

次の印刷製本費53万8,000円は、農業委員会だよりの印刷代でございます。

下から2行目のOAソフト借り上げ料につきましては、農地台帳システムの使用料でございます。

次のページをごらんください。説明欄4行目の農業者年金事務費8万9,000円でございます。農業者年金の加入推進手続等に関する事務経費です。対前年度34万5,000円の減額です。年金基金からは人件費と事務費を対象とする委託料を歳入する予定です。従来、事務費は案分にて対象経費とするものを含めており、また予算上も区分しておりました。しかし、農業者年金基金の指導により、事務経費は案分によらない支出のみを委託経費とするよう指導があったため、その分、減額となっております。減額となった分は人件費を対象にする予定としております。

歳出は以上でございます。

次に、歳入を説明いたします。

46ページをごらんください。歳入の主なものです。46ページの3行目です。農業委員会交付金592万2,000円でございます。農業委員会等に関する法律に基づき、県により均等割あるいは農家戸数割、経営耕地面積割によって配分される交付金でございます。職員の人件費に充当いたしております。

す。

3 段下の機構集積支援事業費補助金 70 万円は、農地中間管理機構が担い手への農地の集積・集約化を推進するに当たって、農業委員会等が関連する業務を適切に実施できるよう補助されるものでございます。本市におきましては、農地法に基づく事務の適正実施のための事務費を対象としており、農地台帳システム整備運用に係る会計年度任用職員の報酬に充当いたしております。

少し下がっていただきまして、その 10 項目下です。農地利用最適化交付金 209 万 4,000 円につきましては、農地利用の最適化が必須業務となった新制度に合わせて新設された補助金でございます。農業委員、推進委員の活動が対象となり、委員等の報酬に充当いたしております。

その一つ下、金額は小さいのですが、国有農地等管理処分事業事務取扱交付金 4 万 6,000 円でございます。国有地の管理に関して県から交付されるものでございます。主な事務は、竹野地域にあります国有農地の使用料の徴収が主な事務となっております。

続いて、62 ページをごらんください。62 ページ中ほどの委託料というところでくくってある中の一番最初、農業者年金業務委託料です。80 万 6,000 円でございます。先ほど説明いたしました農業者年金基金からの委託料でございます。

歳入の主なものは以上でございます。

債務負担行為、地方債は、ございません。

以上簡単ですが、説明を終わります。

○分科会長（浅田 徹） 説明は終わりました。

質疑はございませんか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 予算で、農業委員会費の中に農業委員の活動費が初め入っているということなのですが、新しい農業委員会法によって 1 期 3 年が経過をしました。農業委員の過半数を認定農業者にということで、それができないんで、特例ということで議会にも今回も出とるわけですが、農業委員会の活動を推進していく上で、私、認定農業者って

うのは、農業そのものが非常に忙しい人たちが認定農業者に多くなるんですけども、どうでしょうか、活動推進の上で支障といったらおかしいけども、なかなか困難な部分が結構あったように思うんですね。特に今回も 1 泊 2 日の視察が組まれてますけども、参加率は、何か聞けばなかなか厳しいなということを開くんですけども、その辺の感想というんか思いがありましたらちょっと聞かせてください。

○分科会長（浅田 徹） 宮崎局長。

○農業委員会事務局長（宮崎 雅巳） ご質問の認定農業者ですが、過半数ですので、19 名ですから 10 名必要なところ、今、活動しているのは 6 名で活動いたしております。本来なら、認定農業者の意見をたくさん取り入れるために国がそのような制度をつくっております。国のほうの立場からした農業委員会の今の感想としましては、10 名にない 6 人の状態でも認定農業者等の意見、あるいは活動は遜色なくできているものと感じております。

反対に今ご質問のあった、認定農業者がなかなか忙しくて参加できないということにつきましては、皆さん忙しい中でも総会等にはほぼ出席していただいておりますし、視察につきましても、極力農業が忙しいからという理由での欠席ではない形で努力いただいているところですので、今のところ、さほどその影響はなく、うまく活動できているものと感じております。以上です。

○委員（村岡 峰男） 結構です。

○分科会長（浅田 徹） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（浅田 徹） それでは、質疑を打ち切ります。

それでは、ご苦労さまでした。局長については退席をしていただいて結構でございます。

それでは、続きまして、環境経済部、各振興局の説明をお願いしたいと思います。

なお、説明に当たっては、必要に応じ、先ほど申しましたが、資料のページ番号をお知らせください。

それでは、環境経済課、大交流課、各振興局及び

城崎温泉課の順で説明をお願いしたいと思います。

環境経済課、柳沢課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） それでは、環境経済課分からご説明をさせていただきます。

予算書の88ページをごらんください。環境経済課の予算につきましては、かなりボリュームがありますので、先ほどもありましたように基本的に昨年から変わった部分、あるいは重要施策として説明をさせていただく部分に限ってということをお願いをしたいというふうに思っております。

まず、88ページでございますけれども、基金管理費で環境経済課分がございます。内数になりますけれども、2億5,341万3,000円が環境経済課分でございます。こちらにつきましては、歳入のほうでまたご説明をしますけれども、コウノトリ豊岡寄附金、いわゆるふるさと納税の収入を基金のほうに積み立てるということでございます。寄附金の収入額から寄附金の推進事業費の部分を差し引きまして、さらに深さを持った演劇のまちづくりのほうの経費に充てる部分を引きまして、残りのものを、まずコウノトリ基金積立金でございますけれども、内訳の6行目でございます。こちらの2,100万円の内数でございますけれども、1,000万円、2,100万円のうちの1,000万円をこちらのほうに積み立てるということでございます。

そこから5つほど下でございます。地域振興基金積立金のほう、2億4,341万3,000円ということで積立金として計上をさせていただいております。

続きまして、92ページをごらんください。先ほどのコウノトリ豊岡寄附金の推進事業費でございます。一番上の項目でございます。こちらにつきましては2億4,458万7,000円ということで、返礼品でありますとか、あるいは業務委託料等々の経費として計上、必要な経費を計上させていただいております。ことしのふるさと納税は7億円弱が入ってくるかなというふうな見込みでございますけれども、その中で新年度につきましては5億円を見込んでおりまして、その2分の1以内ということで

事務費のほうを計上させていただいているところでございます。

業務委託料の中で、サイトを新年度は一つ、寄附の窓口でございますけれどもふやしたいということで、「ふるなび」というところを新たに契約して進めていきたいというふうに思っているところでございます。新規の方の獲得、あるいはリピーターの拡大を目指しまして、サイトを追加しますとともに見せ方も向上させていくこと等々しながら、財源の確保ということで市の事業を応援していただく方をふやしていきたいというふうに思っております。

続きまして、94ページでございます。上から2つ目の項目、地域おこし協力隊推進事業費でございます。こちらにつきましては、環境経済課が総合窓口となりまして、個々具体の隊員の対応等につきましては関係課のほうで対応していただいている状況でございます。ただ、全ての経費をここで計上しておりますので、環境経済課が一括してご説明をさせていただきます。ということで、新年度、8,968万円の予算を計上しております。

こちらにつきましては、現在継続して隊員の活動をしていただく方が11名ございます。新年度、新たに募集ということで、新規10名程度の隊員の予算を含めております。計21名の予算、人件費分と活動費の予算と、さらに、ちょうど地域おこし協力隊の事業費の真ん中あたりでございますけれども、募集に係る経費を業務委託料として150万円計上をいたしております。ことしから新規募集の隊員の獲得を強固にしたいということでカヤックLivingさんのほうに「SMOUT」というふうなサイトを利用して募集をさせていただいているところでございます。

一番下が補助金ということで、起業される方への補助金を3名ほど予定しております。200万円の3名分ということで600万円でございます。

続きまして、98ページでございます。一番下にエコハウス管理費ということで上げております。94万7,000円でございます。こちらにつきましては

ては、経費的には昨年と変わりませんが、アーティスト・クリエイター等の滞留拠点としての活用を進めていきたいということで、このエコハウスのすぐ近くにあります楽々むらの施設もお借りをするような想定をしながら、利用促進を図っていききたいというふうに思っております。

続きまして、128ページをごらんください。一番上の特産振興事業費でございます。574万5,000円を計上させていただいております。こちらにつきましては、豊岡鞆・豊岡財布の技術支援の向上を目指した部分として、豊岡財布生産能力育成事業費ということで、来年度、さらにもう一年度ということで、2カ年の支援ということで新たに支援をさせていただこうというふうに思っております。いわゆる財布スクールということで、年間2クール開催をさせていただいて、技術の向上、習得を図っていく、人材育成というふうなことで、まちづくり株式会社のほうに事業展開を支援しようということでございます。

さらに、補助金で豊岡鞆ブランドPR推進事業費ということで計上させていただいております。こちらは200万円ということで、東京の展示会等への支援ということで、首都圏等の販売力の拡大というところを狙っていききたいというふうなことでの支援でございます。

続きまして、その下、企業誘致推進事業費でございます。こちらにつきましては、従来の企業誘致推進事業に加えまして、IT企業に係る誘致を進めたいということで、紹介方式による事業展開を考えております。なかなか誘致活動をするに当たりまして、いい企業さんにめぐり会うというのは難しい状況がありますので、いわゆるつてをたどって誘致をするような形を考えていきたいというふうに思っております。協力者によりまして紹介をいただいた企業とのマッチングを進めていくというふうな経費として176万1,000円を予定しております。報奨金、費用弁償、手数料等がそれに当たります。

そのほかに補助金としまして、従来のIT関連事

業所の補助金でありますとか、高度IT起業家集積の補助金を従来どおり予定をしております。

続きまして、内発型産業育成の事業費でございます。4,523万7,000円でございます。こちらにつきましては、今年度、ビジネス相談窓口「IPPPO TOYOOKA」を開設しまして、起業あるいは新たな事業展開を考える方たちのビジネス相談に乗ってきております。なかなか好評で、稼働率も高い状況でございます。そういった中で、新たな創業等も出てきている状況でございますので、そういったところを来年度も支援をしていきたいというふうに思っております。

さらに、そこからステップアップをされる方、あるいは創業支援、創業される方等に実際に補助金を交付させていただいて支援をするというような形で補助金、ステップアップの支援事業費、創業支援の事業費ということで、トータル3,500万円ということで計上させていただいております。

一つ飛びまして、Iターン推進事業費でございます。1,025万6,000円を計上しております。こちらにつきましては、ワンストップの窓口、移住イベント等を展開するところでございますけれども、今年度から「まちのサードプレイス」ということで、第3の居場所というふうなことの事業を展開させていただいております。こちらのほう、来年度も引き続きということで考えておるところでございます。

そのほか、市民ライターの方による豊岡のリアルな生活の情報発信というふうなところの、飛んでるローカル豊岡編集部の運営業務を委託させていただいて、863万7,000円というふうな業務委託料となっておりますのでございます。

続きまして、その下でございます。高校生コミュニケーション教育等支援事業費でございます。こちらにつきましては、新年度から高校生を対象にしたコミュニケーション教育というのに取り組むというふうにしております。それに加えまして、従来の高校生への意識向上事業というふうなことで事業を加えてくくっております。871万6,000

円ということでございます。新たなコミュニケーション教育等支援事業につきましては、高校でコミュニケーションに係る授業を展開していただきまして、これまで市内の小学校、中学校からそういう取り組みをしておりますけれども、高校もそれに継続をしてするというふうなことでの仕立てをしております。

さらに、高校のダンス等で地域を探究する取り組みであるとか、市内企業を見学する取り組み等にも従来どおり支援をさせていただくと、新たに学校を離れまして高校生が活動をするような部分としての支援を考えております。今、ミュージシャン・イン・レジデンスというようなものを行っておりますけれども、ミュージシャンとかかわることで高校生が音楽イベントを企画する中で、ふるさと豊岡のことをより深く知ってもらう、意識するようなそういった取り組みにも展開をしていきたいというふうに思っております。

続きまして、130ページでございます。Uターン推進事業費でございます。680万1,000円を計上しております。こちらにつきましては、ことし3月12日に兵庫北部の合同企業説明会を予定しておりましたが、このコロナ感染症の関係で中止をさせていただきました。その北部合説を来年度も行いたいということで計上させていただいております。会場使用料の274万4,000円等がその分に当たるものでございます。何とかリアルな部分の説明会というのをさせていただきたいというふうに思っております。

ちょっと話は外れますけれども、今年度の事業の代替として、オンラインでの説明会というのに切りかえて今後展開をしていきたいというふうに思っております。

続きまして、その下、定住推進事業費でございます。540万円を計上しております。こちらは、補助金として定住促進事業費、いわゆる空き家改修等の、引っ越し代とかを含めての支援でございますけれども、それが500万円ということで計上させていただいております。

加えまして、下見等、豊岡を訪ねて移住に係る活動をしていただく際の宿泊代の補助につきましては、引き続きさせていただきたいと思っておりますし、新たに飛行機によりまして来られる方への支援ということで、伊丹―但馬間の航空運賃も新たに助成をしたいというふうに思っております。1人当たり8,000円というふうな往復の経費についての支援ということを考えております。

続きまして、ページがかなり飛びますけれども、230ページをごらんください。下のほうでございますけれども、中小企業金融対策事業費でございます。5億1,001万3,000円ということで、予算を計上しております。こちらにつきましては、補助金として暖冬対策融資保証料ということで1,000万円計上しております。暖冬に伴う雪不足により影響を受ける県内の中小企業者に対して、県が融資制度を1月末に設けました。この融資制度を活用された方への支援として、市のほうは信用保証料の補助ということで、2分の1、上限100万円ということで制度をつくってまいっております。1月31日に専決補正をさせていただきましたので、また、あすご報告をさせていただきたいと思っておりますけれども、今年度1,000万円を予定して、さらに新年度も1,000万円の経費で支援をしたいというふうに思っております。県の貸し付けの制度が5月29日融資実行分までということになっておりますので、その対応ということでございます。

その下、中小企業融資資金貸付金でございますけれども、こちらは例年各金融機関に預託をさせていただいて、セーフティーネットとして活用している資金でございます。この間、一般質問の最終日に補正予算でコロナ対策に係る利子補給の制度を提案させていただいております。そこでの活用の基本となるのがこの市の中小企業融資資金の貸付金で、ここにコロナ対策の枠を新たに設けて、そこを使っていた方に合わせて利子補給をさせていただくというような形で考えておまして、この貸付金を有効活用していきたいというふうに思っているところ

でございます。

続きまして、236ページをごらんください。下から2つ目の囲みでございます。豊岡商工施設管理費でございます。補修工事費ということで上げておりますまちなか交流館1925の分でございます。補修工事費73万円ということで、こちらにつきましては、腰壁、あるいは天井等の塗装の剥がれが激しく、これはちょっと放置をできないというところで、その手だてとしての工事費、修繕工事をやっていきたいというふうに思っておるところでございます。

続きまして、244ページをごらんください。一番上でございます。経済成長戦略推進事業費でございます。2,987万9,000円でございます。こちらにつきましては、経済成長戦略の推進ということで10年ほど進めてまいりまして、新年度、そのことについての検証をやっていきたいというふうに思っております。経済成長戦略会議というふうなことをもって進めてまいりましたけれども、岡山大学の中村先生に座長としてかかわっていただいて、いろいろと相談をしてきたところでございます。

そういった中で、中村先生にも再度加わっていただきまして、10年間の総括をしていきたいというふうに思っております。庁内関係課での検証というふうなことを考えておりまして、KPIであるとか、経済波及効果などを検証していくというふうな予定にしております。業務委託料として352万円ということで上げております。

さらに、今年度産業連関表の作成をしておりますので、その部分がまた出てまいりますので、その産業連関表に基づき、また産業の状況を明らかにする中で、新年度への施策の展開というふうなところにも進んでいきたいと思っておりますので、そういったところの検討も進めていきたいというふうに思っております。

続きまして、1つ飛びまして、真ん中より少し下でございます。中心市街地活性化事業費でございます。予算的には145万3,000円ということで計上しております。こちらにつきましては、引き続

きの支援でございますけれども、宵田元町地域まちなか再生協議会が今活動されております。その運営支援の補助金100万円と、あと具体的に商店街の再編事業費ということで、今、とゞ兵さんのあたりの動きが加速化してきております。あそこにテナント等が入るというふうな予定もありますので、県のこの商店街再編事業を活用しまして、市も随伴をさせていただいて、新たなテナントさん等の進出ということをサポートしていきたいというふうに思っております。これは引っ越し代の費用ということになります。

続きまして、246ページをごらんください。上の囲みの一番下でございます。産業用地整備事業費でございます。5,235万3,000円を計上しております。こちらにつきましては、県が高速道路に接続する県道但馬空港線を整備しておりますけれども、その整備に合わせて、その沿線に産業用地を整備するというものでございます。県の道路工事とのスケジュールを調整しながら進めてきておりまして、新年度は水道管の布設、それと産業用地の造成、これは調整池の水路ということになりますけれども、そういったところの事業。それと、水道設備に係る水道の減圧施設等々の用地の購入といったところの事業を展開していきたいというふうに思っております。

今年度から水道のほうは工事をしておりますけれども、引き続き第2期の工事ということで進めてまいりたいというふうに思っております。

ここにはございませんけれども、下水管の工事につきましては下水道課のほうで対応していただいて、上下水道の整備ということで今年度は進めていきたいというふうに思っているところでございます。

歳出については以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） 大交流課、吉本参事。

○大交流課参事（吉本 努） 大交流課につきましては、まず、私からが海外戦略、情報戦略、国内の誘客及び観光施設に関するところについてご説明させていただき、豊岡の演劇祭ですとか、文化芸術

に係るものを谷口から、アートセンターにつきましては、藤原参事からご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、最初に、歳出の132ページをごらんください。132ページの説明の中、5行目ぐらいにあります観光まちづくり推進事業費でございます。こちらの負担金、企業人派遣ですが、昨年度まで2名分という形になりましたが、2020年度からは企業人派遣1名という形に、2名から1名に減少します。その関係で金額を700万円という形で計上させていただいております。その関連で、補助金のプロパー人材派遣配置事業費ですが、昨年は1名分から、実際のプロパーを育成したいということで2名分に増額し、730万2,000円を計上いたしております。

続いて、海外戦略推進事業費でございます。こちらの業務委託料のうちウェブ広告運用業務につきましては、今年度から東アジアに対して繁体字圏、台湾ですとか香港を中心にプロモーションを実施いたしております。新年度分も、今までの欧米豪にプラスで、繁体字に対するウェブプロモーションの経費も計上をさせていただいております。

続きまして、観光レップ業務ですが、今までは欧米豪ということで、フランスとオーストラリアとアメリカにレップという代理店を置いておりましたが、東アジアのプロモーション強化のため、2020年度からは台湾にもそのレップを置いてプロモーションの活動をしたいと考えております。

続いて、事業委託料のうちSDGsツーリズム推進事業でございます。本市のコウノトリを中心とした環境やそういったものに対しての教育旅行ですとか、企業のCSR活動の受け入れというふうなことで、新たにSDGsツーリズムという名称をつけて積極的な展開をするということで事業の予算を計上させていただいております。

同じく事業委託料のうち、アジアプロモーションですが、先ほど言いましたように東アジア等も中心にするということと、東南アジアにも今までプロモーションをかけておりましたので、今までは4年間、

神鍋のインバウンドプロジェクトという名称でしておりましたが、市域全体に拡大するという意味合いも含めまして名称を変更して、アジアプロモーション事業という形に変えて、東アジア、東南アジアにプロモーションを行いたいということで、計上いたしております。

続きまして、情報戦略推進事業費です。224万円計上させていただいております。こちらは、2008年度から豊岡エキシビションということで2019年まで実施しておりましたが、事業の内容を変更いたしまして、豊岡のまちの魅力ですとか取り組みに共感をしていただいている豊岡のコアなファンを豊岡のほうにお集まりいただいて、交流会等を開催するというような形式に変更したいと考えております。こちらに伴う事業費として計上をさせていただいております。

続いて、政策アドバイザー推進事業費につきましては、2019年度からアドバイザーを3名という形にさせていただいて、来年度も3名の方にソーシャルビジネス、コミュニティビジネスの分野ですとか、まちづくりにおけるデザイン分野、データ分析とかマーケティングに関する分野について、市の課題に対するご助言をいただくというふうな形で計上をさせていただいております。

続きまして、飛んでいただきまして、234ページをごらんください。中段にございます観光事業費の中で、一般的なものは例年どおりの予算計上をさせていただいているんですが、最後のほう、補助金の中で観光協会につきましては、通常の観光協会に対する運営に対する補助という意味合いの部分に、2020年に関しましては城崎温泉の開湯1300年事業の補助金ということで、このうち200万円を計上させていただいております。

続きまして、236ページをごらんください。236ページの情報戦略推進事業費でございます。こちらのほう、本年の5月末をもちまして東京のアンテナショップの契約を満了いたします。そちらに伴いまして、建物の借り上げ料ですが、5月分の家賃、光熱費の3カ月分、換気料等というふうな形

の建物借り上げ料として68万8,000円を計上させていただきます。

続きまして、海外戦略推進事業費で、業務委託料のうち、ビジットキノサキ多言語翻訳業務を計上させていただきます。こちらの「Visit Kinosaki」というウェブサイト繁体字のページをつくるという形の中で、観光庁の観光地の「まちあるき」の満足度向上整備支援事業補助金を活用して、こちら2分の1の補助になりますが、整備をしたいということで新たにこちらの分で計上させていただきます。

続きまして、240ページになります。豊岡観光施設管理費につきましては、例年どおりの通常の経費として計上させていただいているという状況でございます。

続きまして、242ページをごらんください。242ページの中段、泉源管理費でございますけれども、こちらは、通常の維持管理、点検に係る費用を計上させていただいておりますが、事業用の備品で187万円供出させていただいております。こちらのほう、市が今管理をしております泉源について、計画的に湯上げのポンプを購入して対応しているという状況で、来年度につきましては神鍋の湯上げのポンプの購入というふうな予定を立てておりまして、187万円計上させていただいております。

続きまして、玄武洞公園の整備事業費です。910万1,000円を計上させていただいております。こちら今、本年度基本計画を作成いたしております。来年度、2020年では実施設計と、それらの実施設計の監修の業務ということで、こちらの金額を計上させていただいております。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 谷口課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 私のほうからは、観光文化戦略室関係の負担について説明させていただきたいと思っています。

予算書130ページをお開きいただけますでしょうか。一番下の欄でございますけれども、専門職大学誘致推進事業費で1,925万5,000円計上させていただきます。これにつきましては、

本年8月の設置認可に向けて兵庫県において進められております専門職大学の誘致設置に関する取り組みを共同で行うものの市としての負担分でございます。

まず、報奨金360万円計上させていただいておりますが、これにつきましては、もともと市から県に派遣をして、2018年度から県参事として採用を進め、専門職大学の設立に取りかかっております川目兵庫県参事の市としての負担分として360万円の予算を引き続き計上させていただいております。

一番下の欄でございますけれども、負担金、専門職大学開設準備費ということで、1,450万円を計上させていただいております。これにつきましては、県が進めます専門職大学設置に関しますソフト事業の一部を市として負担をするものでございまして、合計9,600万円余りの県のソフト事業の中で、1,450万円の負担をさせていただいております。具体的には、高校生向けのプレカレッジの開催であったり、進学相談会、それから市民に向けた公開講座などを200万円、それから高校生やその保護者、高校の進路指導員等への広報活動に関する費用として、2,500万円のうち1,250万円を負担する予算でございます。

続きまして、予算書の134ページをお開きいただけますでしょうか。一番上の段でございますけれども、豊岡演劇祭共同開催事業費として5,732万円を計上させていただいております。これにつきましては、その多くは9月に開催予定をしています第1回の豊岡演劇祭の実行委員会の負担金として5,700万円計上させていただいているところでございます。

その下の段でございますけれども、演劇のまちづくりの推進事業費として400万5,000円を計上させていただいております。この予算につきましては、演劇祭を通じてさまざまなステークホルダーを呼び込んで、地域内外の企業との協働によるまちづくりを積極的に進めるための予算でございます。具体的には、第0回からかかわっていただいております。

ますように、トヨタ・モビリティ基金でありますとか、KDDI、それから日本航空などに加えて、企業等の演劇祭のまちづくりの参画を促進をさせたり、それから、企業版ふるさと納税の獲得推進支援などを想定している予算でございます。

私のほうからは以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） 藤原参事。

○大交流課参事（藤原 孝行） 城崎国際アートセンターに関する予算につきましてご説明申し上げます。

お手元資料の90ページをごらんください。中段下、城崎国際アートセンター管理費として掲げております。これは経常的な経費の部分で上げているもので、消費税が10%適用されてますので、若干その経費的には全体が底上げになっているという状況でございます。

それから、次に、130ページになります。これも中段、城崎国際アートセンター事業費として掲げております。これは別冊で配っております地方創生の取り組み概要のほうでご説明申し上げたほうがわかりやすいと思いますので、ごらんいただいてよろしいでしょうか。地方創生事業、資料ナンバー3の1ですか。地方創生の取り組み概要というほうの冊子ですが、地方創生の取り組み概要の57ページになります。よろしいでしょうか。

それでは、57ページのナンバー32ですが、事業費として一つくくっておりますものは、4つの事業をまとめて計上いたしております。57ページのナンバー32に上げております城崎国際アート、よろしいですか。

○分科会長（浅田 徹） はい、お願いします。

○大交流課参事（藤原 孝行） 申しわけありません。

改めて57ページのナンバー32の事業でございます。アートセンターの事業として掲げております。これは毎年行われております豊岡アートシーズンに参加する事業でございます。具体的には、事業内容の1、2、3というふうに上げておりますが、特にことし特徴的なものは、1番のおんぶの祭典との共同企画として開催する内容でございます。おん

ぶの祭典のほうも、ベートーベン生誕250年という年を迎えるに当たって、こちらと何とか共同コラボができないかというふうなことで事業を進めておる内容でございます。

次に、58ページのナンバー33ですが、アートマネジメント等業務委託です。現在、既にご案内のとおり、吉田雄一郎というプログラム・ディレクターにプログラム・ディレクター業務というのを委託しております。今後の可能性をさらに拡大するために、一般社団法人をこの吉田雄一郎さんが設立をされて、専門的な業務をこの一般社団法人のほうに委託をするということでございます。具体的な事業内容は、現在行っている内容を具体的に掲げたことになって、特に新しいことは出てまいりませんが、（1）事業運営ほか、（2）、（3）で掲げております内容でございます。当然1人では無理な話ですので、数人雇用するような格好になりますので、その分の経費を含めての計上でございます。

次に、59ページのナンバー34でございます。アーティスト・イン・レジデンス事業、これにつきましても例年行っておるものですが、特に変わっておりますのは、事業内容の（4）でございます。アーティスト・イン・レジデンス活動を通じた国際文化交流促進事業の実施、これは文化庁のほうで旗を振ってます。国内のレジデンス施設が、国内にとどまらずに海外の団体と連携しなさい、それについては10分の10の助成金を出しますからというふうなことの条件に、文化庁のほうからも声がけをいただいて、来年度参加をしたいという内容でございます。具体的には、今、準備をしておりますのは、イギリスの同じようなアーティスト・イン・レジデンス施設、あるいは2つ目は韓国、オーストラリアのほうを拠点にしておりますレジデンス施設との相互交流、アーティストのやりとりであったり、情報の交流であったりというふうな事業を行ってまいります。金額は個別では上げておりませんが、これに係る費用が300万円を予定しております。これについては先ほど申し上げましたように文化庁の10分の10の事業ですので、300万円程

度入ってくるというふうな見込みでございます。

それから、次に、60ページのナンバー35です。これにつきましても、例年情報発信として掲げているものですが、特に来年度は、掲げておりますウェブページ、2015年にアートセンターが開館して、当時はまだ指定管理だったんですが、そのときにつくったウェブページで、まだ現在も運用しておるという状況でございます。既にご案内のとおり、国内外で非常に注目されている施設のウェブページに見合うような格好に見直す費用を掲げております。

あっち行きこっち行きいたしました、以上4つの施設をまとめて、予算書の130ページのアートセンター事業費として3,479万8,000円としてまとめておるものでございます。以上です。

○分科会長（浅田 徹） それでは、続きまして、城崎振興局の丸谷参事、お願いします。

○城崎振興局地域振興課参事（丸谷 祐二） それでは、88ページをござんください。ページの上から4行目でございます。基金管理費のうち、城崎振興課に係る部分でございます。3行下にございます市債管理基金積立金370万円のうち、180万円が城崎夢花火事業費600万円の30%相当額でございます。こちらが城崎振興局分となります。

続きまして、108ページをござんください。真ん中の枠の下から9行目、城崎振興局プロジェクト事業費でございます。城崎振興局プロジェクトといたしましては、桜や柳並木の整備、それから太鼓橋の美装化、それから夢花火事業への補助金という3つの柱でもって推進をいたしております。そのうち、20年度につきましては、5行下、補修事業費でございます。平成30年、2018年度から実施しております太鼓橋の美装化を、いよいよ3年目ということになりまして、これに加えて、大谿川のパラペットにつきましてもその表面の補修及び美装化を進めていく予定といたしております。あわせて670万円の事業費を計上いたしております。

続きまして、238ページをござんください。上から4行目、城崎文芸館管理費でございます。5行下の補修工事費についてでございます。これにつき

ましては、更新時期を迎えました変圧器等の更新を行うもので、550万円を計上いたしております。

続きまして、268ページをござんください。上の枠の中の最後の行になります。城崎駐車場管理費でございます。これの補修工事でございますが、駐車場の経年劣化によりまして、精算機のすぐ下のアスファルト舗装が非常に傷みがひどくなってきておりまして、精算機のセンサーにちょっとふぐあいが生じているという状況でございます。場所としましては鴻の湯駐車場になります。こちらの舗装の修繕を行うもので、195万5,000円を計上いたしております。

城崎振興局からは以上です。

○分科会長（浅田 徹） それでは、竹野振興局、榎本参事。

○竹野振興局地域振興課参事（榎本 啓一） 110ページをござんください。説明欄中段あたり、竹野振興局プロジェクト事業費です。

修繕料は振興局管内の道路、水路等の修繕に係る費用です。

その下、プロジェクションマッピング事業は、ことしの夏の事業として、御用地館で障子やふすまをスクリーンとして地元の資源を盛り込んだ映像を映し出し、夏の観光客や市民、盆の帰省者等に鑑賞していただくものです。期間はことしの7月末から8月中旬までを予定しております。

その下、補助金の地域情報発信事業は、竹野の情報を効果的に宣伝するため、マスコミなどへの情報提供や観光パンフレット作成などの活動について事業主体である竹野観光協会に補助するものです。

その下の補助事業につきましては、竹野の知名度向上及び地域経済活性化のため行われる事業に補助するもので、事業主体は事業を主催する実行委員会及び竹野観光協会です。

続きまして、その下のほう、川湊再生プロジェクト事業は、地域内の団体で構成する川湊再生プロジェクト運営協議会と協働して昨年度から取り組んでいる事業でございます。今年度は、事業の核となっている竹野港海町マーケットを6回開催し、約2,

600人の来場者がありました。5年後の2024年度には、年間回数26回とし、来場者2万6,000人を目標に規模を拡大していきたいと考えております。

補助金は、海町マーケットの規模拡大に必要なテント、テーブル、椅子の購入費用などとして川湊再生プロジェクト運営協議会へ補助するものです。

また、ことしから会場を但馬漁業竹野支所のほか、河口付近の駐車場や竹野北前館など、さまざまな場所で開催することを予定しております。

続きまして、238ページをごらんください。竹野北前館管理費です。修繕料につきましては、温泉機器の部品交換及び温泉貯湯槽の漏水補修などに必要な費用で、その他、主なものとしては指定管理料を計上しております。以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） それでは、日高振興局、中川参事。

○日高振興局地域振興課参事（中川 光典） それでは、予算書112ページをごらんください。真ん中あたりよりやや下部分ですが、日高振興局プロジェクトの主なものを説明させていただきます。

報奨金につきましては、日高地域の先輩に学ぶ授業の講師謝礼8万円、東西中学校で各2回の開催を予定しております。例年どおりでございます。

また、溶岩流活用地域振興事業において、ガイド養成講座の講師謝礼6万3,000円、さらに道の駅機能強化のためのコーディネーター謝礼25万円を計上しております。

その下、修繕料につきましては、道路、水路等区内環境改善事業で、地域の緊急的な要望に対応するためのものがございます。

その下の整備工事費は、民間宿泊施設誘致支援事業の関係です。これは道の駅神鍋高原の隣接地に、ホテル建設誘致のためインフラ整備を予定しているもので、整備内容は上下水道の布設、それから消火栓の設置工事を予定しております。ホテルの誘致ということなんですけども、建設地の決定発表は従来3月下旬というようなことでしたけども、今度の新型コロナウイルスの影響で6月ごろになるとい

うふうに聞いております。

その下、補助金につきましては、溶岩流活用地域振興プロジェクト会議へのガイドマニュアル作成の補助金を計上しております。

また、日高地域文化芸術によるまちづくり事業においては、江原河畔劇場を中心としたまちづくり後援会などの講師謝礼の補助金を計上しております。

次に、120ページをごらんください。説明欄のほぼ中段あたりの電源立地地域対策交付金事業費でございます。これは例年の事業ではございますが、発電用施設周辺の地域を中心に道路、水路補修工事等を行うもので、電源立地地域対策事業費交付金を財源としております。

続いて、238ページをごらんください。観光施設管理費です。ちょうど中段あたりの神鍋温泉ゆとりぎの修繕料につきましては、浴槽のろ材交換を予定しております。

その下、道の駅「神鍋高原」の最下段、補修工事費につきましては、駐車場の街路灯7基のうち、特に老朽化した4基の更新工事を行うものです。

その下、湯の原温泉オートキャンプ場の修繕料につきましては、露天風呂のろ材交換42万3,000円、また、湯沸かしボイラーの排気管修繕工事10万1,000円を予定しております。

その他の歳出につきましては、昨年度と大きな変更はございません。

歳出は以上です。

○分科会長（浅田 徹） 出石振興局、阪本課長。

○出石振興局地域振興課長（阪本 義典） それでは、ページの114をごらんください。ちょうどページの中ほどになりますけども、そこより少し下のところに、出石振興局のプロジェクト事業ということで1,156万1,000円を計上しております。

本年度の新たな事業といたしまして、業務委託料の中に交通環境改善計画策定支援業務を計上しております。547万8,000円でございます。この事業は、出石の中心市街地の繁忙期、特にゴールデンウィーク、シルバーウィーク、カニシーズン等におきまして、出石の町の中では大渋滞が引き起こ

ります。ちょうど出石の中心部の交通環境の実態というものを調査いたしまして、車の流入、それから流出の動き等を確認し、周辺地域にどのような影響があるか分析を行いまして、来訪者や地域住民への意向調査も含めて実施を行い、課題の抽出を行って、また分析をしたいというふうに考えております。

次に、補助金でございます。出石お城まつり事業費といたしまして、250万円を計上しております。まちの活性化や観光の発展に資するため事業補助を行うもので、今年度記念すべき第50回を迎えるというふうなことになります。

そのほかにつきましては、例年計上しております施設等の維持管理費等でございますので、説明につきましては割愛をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○分科会長（浅田 徹） 但東振興局、午菴参事。

○但東振興局地域振興課参事（午菴 晴喜） それでは、引き続きまして、予算書116ページをごらんください。説明欄中段より少し下、但東振興局プロジェクト事業費についてご説明申し上げます。

例年取り組んでおります教育民泊推進事業や移住促進住宅運営事業に加えまして、新たに但東地域活性化支援事業委託料といたしまして、200万円を計上しております。これは但東地域の認知度をより向上させ、但東への移住・定住者をふやしていくため、地域コミュニティと協働しながら、ウェブ活用により移住等に関心のある方にターゲットを絞り込んだ情報を直接発信するなど、ほか、地域の自然を生かした新たなイベントの創出などを支援しようとするものでございます。

続きまして、238ページをごらんください。下から7行目、但東シルク温泉やまびこ管理費でございます。修繕料の300万円につきましては、それぞれ老朽化した設備の改修となりますが、一つは、薬注機といいまして温泉を塩素で消毒をするということが必要となりますので、その部分の修繕、それと、火災報知機が誤作動を起こしたりもしておりますので、その関係を、館内のものを修繕させていただきたいと。

一番下、整備工事費でございますけれども、現在、屋外でバーベキューを今年度から本格的にやっておりますが、それが好調であったりしますので、それをより充実をさせということの中から、屋外にトイレを設け、売り上げ増につなげていきたいというふうに考えております。

なお、この屋外トイレにつきましての整備後の維持管理につきましては、全部指定管理者のほうで負担していただくというふうな中で、工事費を計上させていただきますいております。

続きまして、242ページをごらんください。中段より少し上でございます。但東観光施設管理費の中で、これは中段になりますが、補助金、たんとうチューリップまつり開催事業費として400万円を計上させていただいております。チューリップまつりの補助につきましては、今までも従来からあったわけですが、但東振興局のほうからフラワーアートに関するもの、それから農林水産課のほうから特産振興の面で球根生産振興というようなことで、2つの補助を合わせていたんですが、次年度から1本に合わせまして但東振興局予算として計上をさせていただいております。

なお、たんとうチューリップまつりにつきましては、本日の午後、実行委員会を開催し、今年度の分の開催について協議を進めていくというふうな中で、なかなか先行きが読めないんですけども、そのようなことで考えております。

その他のものにつきましては、昨年度と大きな変更はございませんので、説明は以上のとおりでございます。

○分科会長（浅田 徹） それでは、城崎温泉課の植田課長、お願いします。

○城崎温泉課長（植田 教夫） 230ページをごらんください。私のほうからご説明させていただくのは1点です。上の枠の一番下のところの城崎町湯島財産区特別会計繰出金でございます。これは入湯税の一部を源泉管理のために3,000万円繰り出すものでございます。以上です。

○分科会長（浅田 徹） それでは、説明は終わり

ました。

説明に対して質疑はございませんか。（「歳入」と呼ぶ者あり）ああ、ごめんなさい。失礼しました。

それでは、引き続き、また環境経済課のほうから、歳入について説明をお願いします。

柳沢課長、お願いします。

○環境経済課長（柳沢 和男） それでは、歳入のほうを環境経済課分、説明をさせていただきます。

まず、24ページをごらんください。使用料及び手数料の中の総務管理使用料でございます。説明欄の4行目でございます。行政財産目的外使用料ということで、中核工業団地の関係で、関西電力の電力柱等々の関係がございまして、35万6,000円、内数ですけれども、入っております。

続きまして、34ページをごらんください。下から2つ目の囲みでございます。国庫支出金の商工費、国庫補助金でございます。地域経済循環創造事業交付金ということで、2,500万円を計上しております。こちらにつきましては、前年は2件ということで5,000万円計上しておりましたけれども、今年度1件分ということで、10分の10の事業に対しての予定ということでさせていただいているところでございます。

めくっていただきまして、36ページでございます。一番下の欄でございます。地方創生推進交付金でございます。この中の内数としまして、環境経済課分として1ターン推進事業費255万円、それと高校生コミュニケーション教育等支援事業費で435万8,000円ということで、内数ですけれどもございます。

続きまして、50ページをごらんください。上の囲みの下でございます。県支出金のひょうご地域創生交付金でございます。こちらも内数でございますけれども、内発型産業育成事業の関係で、700万円という歳入を入れております。

続きまして、下の囲みの4つ目でございます。県支出金統計調査費委託金の中の5つ目、ちょうど真ん中でございますけれども、工業統計調査事務委託金で46万9,000円、その一番下で経済センサス

調査事務委託金38万5,000円がでございます。

めくっていただきまして、52ページでございます。財産収入の中の土地建物貸付収入、一番上の囲みでございます。建物貸付収入で、内数でございますけれども200万円、地場産の関係でございます。

めくっていただきまして、54ページでございます。財産収入の生産物売払収入の中の、上の囲みのちょうど真ん中より少し下でございますけれども、エコハウス太陽光発電ということで、6,000円計上させていただいております。

続いて、下の囲みの2つ目の項目でございます。寄附金の総務管理費寄附金ということで、コウノトリ豊岡寄附金でございます。こちら5億円ということで、計上をさせていただいております。

めくっていただきまして、56ページでございます。真ん中の囲み、繰入金でございます。一番上の財政調整基金繰入金でございます。内数でございますけれども、産業用地整備事業費としまして5,230万円をここで計上させていただいております。

その囲みの下から2つ目でございます。地域振興基金繰入金でございます。こちら内数でございますけれども、内発型産業育成事業費で2,000万円、高校生コミュニケーション教育等推進事業費で400万円ということで、計上させていただいております。

めくっていただきまして、58ページでございます。下の欄、囲みです。諸収入の中の上から3つ目です。労働諸費貸付金元利収入ということで、勤労者住宅誘致の資金の貸し付けの関係でございます。上から3番目、7,257万円でございます。

その下、中小企業普通融資資金貸付金元利収入ということで、こちらは5億円ということで、例年どおりの金額を計上させていただいております。

続きまして、64ページをごらんください。諸収入の雑入でございます。上から7行目、参加者負担金の中で、兵庫県北部合同企業説明会の出展に係る経費としまして、市内の企業あるいは市外の企業70社が出展をしますけれども、その出展費用の収入として230万円見込んでおります。

その下、利用者負担金の中で、7つ目ですかね、ジョブナビ豊岡ということで、就職に係る企業情報等を提供しておりますけども、そこに掲載をする企業から利用者負担ということで200万円、2万円の100社ということで計上させていただいております。

続きまして、72ページをござんください。上の囲みの市債でございますけれども、過疎対策事業債の過疎地域自立促進特別事業分でございます。こちら内数でございますけども、商工振興事業費の1,020万円、それと特産振興事業費の50万円ということで計上をさせていただいております。

以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） 大交流課、吉本参事。

○大交流課参事（吉本 努） 私のほうからは、まず24ページをござんください。24ページの真ん中の総務管理使用料のうち、行政財産目的外使用料です。こちらのほう、玄武洞公園に設置しております自動販売機の使用料ということで、20万1,000円、内数ですが、計上いたしております。

一番下の欄、商工使用料のうち、温泉使用料、1,015万7,000円を計上いたしております。こちら竹野温泉、神鍋温泉、出石温泉、シルク温泉からの使用料ということで、計上いたしております。

続きまして、34ページをござんください。34ページ、下から2つ目の枠、商工費補助金でございます。そのうちの観光地の「まちあるき」の満足度向上整備支援事業補助金ということで、歳出で説明した繁体字のウェブサイトの多言語化の部分に対する2分の1補助ということで、49万9,000円を計上いたしております。

続きまして、36ページ、一番下の欄、地方創生推進交付金でございますが、内数ですが、大交流課分として城崎国際アートセンターの事業費、専門職大学の推進事業費、観光事業費、観光まちづくり推進事業費、政策アドバイザーの推進事業費、アーティスト・クリエイターの移住の事業費、演劇祭の事業費、演劇のまちづくり推進事業費、大交流課分合わせて6,140万4,000円分を地方創生交付

金という形で計上いたしております。

続きまして、50ページをござんください。下から7つ目、商工費委託料です。こちら、自然歩道施設管理委託料ということで、県のほうから切浜と香林会館のトイレの清掃の委託に対して、41万2,000円委託料という形でいただいているものを計上いたしております。

続きまして、52ページです。真ん中の枠の上から2つ目、利子及び配当金です。こちら、日和山観光に対して1,300株を保有いたしております、そちらに対する配当金ということで、3万8,000円を計上いたしております。

続きまして、56ページの真ん中の枠の下から2つ目、地域振興基金繰入金ですが、こちら、大交流課分ということで、アートセンターの管理費や事業費、専門職大学の推進事業費、海外戦略推進事業費、豊岡演劇祭の共同開催事業費、演劇のまちづくり推進事業費、合わせまして8,000万円の繰入金を予定いたしております。

続きまして、62ページをござんください。諸収入の雑入のうち、下から8行目をござんください。受益者負担金です。国際交流員の住宅費ということで、現在4名の国際交流員がおりまして、この4名の住宅に関する負担金ということで、152万9,000円を計上いたしております。

続きまして、64ページのちょうど中ほど、光熱水費等の使用者負担金のうち、自動販売機設置者負担金として、玄武洞公園に対して設置しております電気料、3万2,400円分を、この内数ですが、計上いたしております。

続きまして、下から9行目ですか、アンテナショップでございます。こちらのほう、アンテナショップの光熱費の負担金として、換気料として1カ月分、名店会費として1カ月分、電気水道代として5月の部分までの3、4、5の3カ月分を事業者のほうからご負担をいただくということで、12万8,000円を計上いたしております。

続きまして、68ページの一番下、商工債の観光施設整備事業債のうち、70ページをござんくださ

い。一番上、玄武洞公園の分の600万円分を商工債ということで計上いたしております。

続きまして、72ページの上の枠の一番下、過疎対策事業債のうち、内数になりますが、アートセンターの事業費分と観光協会の補助事業の部分で、合わせまして3,850万円分を計上いたしております。

私からは以上です。

○分科会長（浅田 徹） 藤原参事。

○大交流課参事（藤原 孝行） アートセンター関連の歳入につきましてご説明を申し上げます。

お手元資料24ページになります。総務管理使用料のうちの城崎国際アートセンター使用料でございます。先だつての使用料の改定の単価を適用して見積もりをしたものでございます。余談ですが、コロナの関係でこれからどうなるかというのをちょっと心配な部分がございます。

それから、32ページになります。上から説明の3項目めのアーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業費補助金、先ほど歳出のほうで申し上げました文化庁の10分の10の事業で、丸々助成金として、補助金として入ってくるというものでございます。

そのほかにつきましては、省略をさせていただきたいと思います。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 城崎振興局、丸谷参事。

○城崎振興局地域振興課参事（丸谷 祐二） 城崎振興局からは、まず68ページをごらんください。ページの下から4つ目の説明の枠でございます。上から5行目、地域振興事業債でございます。総務管理債のうち地域振興事業債は、太鼓橋と大谿川パラペットの先ほどご説明いたしました美装化に係るものでございます。

続きまして、72ページをごらんください。上から3つ目の枠、過疎対策事業債、過疎地域自立促進特別事業分の内数でございます。このうち、城崎夢花火事業に係るものが600万円、それから、城崎文芸館の指定管理費に係るものが500万円、合わせて1,100万円が城崎振興局分でございます。

以上です。

○分科会長（浅田 徹） 竹野振興局、榎本参事。

○竹野振興局地域振興課参事（榎本 啓一） 引き続き72ページをごらんください。過疎対策事業債のうち、竹野振興局分では、振興局プロジェクト事業、川湊再生プロジェクト事業、竹野北前館指定管理料を対象といたしまして、2,320万円を計上しております。以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） 日高振興局、中川参事。

○日高振興局地域振興課参事（中川 光典） 26ページをごらんください。上から4枠目、都市計画使用料の江原駅周辺駐車場450万円が日高振興局の計上分でございます。

次に、40ページをごらんください。2段目の最上部、電源立地地域対策事業費交付金の440万円ですが、先ほど歳出で、電源立地地域対策交付金事業費の財源として説明させていただいたものでございます。

その他、歳入につきましては、昨年度と大きな変更はございません。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 出石振興局、阪本課長。

○出石振興局地域振興課長（阪本 義典） それでは、26ページをごらんください。ページ上から8行目でございます。出石駐車場の関係で計上しております。まず、西の丸駐車場694万円、それから庁舎南駐車場692万円、鉄砲町駐車場ということで、1,052万円を計上しております。以上でございます。よろしくお願いいたします。

○分科会長（浅田 徹） 但東振興局、午菴参事。

○但東振興局地域振興課参事（午菴 晴喜） それでは、68ページをごらんください。最下段、観光施設整備事業債、実際は70ページをごらんいただくこととなりますが、但東シルク温泉やまびこ800万円につきましては、先ほど歳出でご説明をさせていただきました屋外トイレ整備工事費に当たるものでございます。

それから、引き続き72ページをごらんください。過疎対策事業債のうち、但東分といたしましては、但東振興局プロジェクトの中の、さつき情報発信を

新しく委託しますと言いました但東地域活性化支援事業の関係200万円、それから教育民泊の関係で90万円、それと、これも新しく補助金を統合して新設という形になりますが、たんとうチューリップまつりへの開催補助の関係を含めまして、690万円が但東分となります。

説明は以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） それでは、債務負担行為に移ります。

環境経済課、柳沢課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） それでは、7ページをごらんください。債務負担行為でございます。上から3つ目でございます。若者定住促進事業費補助金ということで、令和3年度分でございます。限度額47万6,000円ということで、こちらは但馬技大の学生を対象にしまして、市内に居住し、市内企業に就職をする者に対して、2年次の授業料相当分を補助するものでございます。

その欄の一番下でございます。中小企業融資資金に係る損失補償ということで、令和2年度事業分、令和2年度から令和12年度までということで、1,400万円の限度額でございます。こちらは信用保証協会との契約によりまして、返済ができなくなった者への信用保証料の損失を市が補填するものでございまして、契約に定める限度額を上げております。以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） ほかにございますか。

それでは、地方債。

柳沢課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） それでは、9ページをごらんください。先ほども歳入のところで説明をさせていただきましたけれども、一番下、過疎対策事業債でございます。商工振興事業費に1,020万円、特産振興事業費で50万円ということで、内数で入っております。以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） 吉本参事。

○大交流課参事（吉本 努） 大交流課分につきまして、8ページをごらんください。観光施設整備事業費のうち、玄武洞公園について600万円を計上

いたしております。こちらのほう、先ほど歳出や歳入等でご説明した玄武洞公園の整備のうち、実施設計に係る費用について計上させていただいております。

9ページ、一番下、過疎対策事業債ですけれども、こちらのほう、先ほど大交流に関連するものとして3,850万円分を計上させていただいております。以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） ほかにありませんか。

城崎振興局、丸谷参事。

○城崎振興局地域振興課参事（丸谷 祐二） 8ページをごらんください。説明が重複してしまいますけれども、8ページの上から6行目、地域振興事業費の太鼓橋でございます。先ほどご説明をいたしました太鼓橋美装化に係るものでございます。

それから、9ページ、一番下、過疎対策事業債の過疎地域自立促進特別事業分でございますが、これも先ほどご説明を申し上げました城崎夢花火事業と城崎文芸館の指定管理料、合わせて1,100万円、これが城崎振興局分でございます。

○分科会長（浅田 徹） 竹野振興局、榎本参事。

○竹野振興局地域振興課参事（榎本 啓一） 9ページの過疎対策事業債です。このうち、竹野振興局分といたしましては、竹野振興局プロジェクト事業、川湊再生プロジェクト事業、竹野北前館指定管理料を対象といたしまして、2,320万円を計上しております。以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） 但東振興局、午菴参事。

○但東振興局地域振興課参事（午菴 晴喜） では、8ページをごらんください。中段より少し下、観光施設整備事業費のうち、但東シルク温泉やまびこにつきましては、先ほど歳出のほうでもご説明いたしました屋外トイレの整備に係るものでございます。

9ページ、過疎債につきましては、これも先ほど申し上げました内数ですが、690万円が但東振興局分となります。以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） それでは、説明は終わりました。

暫時休憩をします。再開は11時10分。

午前 11 時 00 分 分科会休憩

午前 11 時 08 分 分科会再開

○分科会長（浅田 徹） それでは、おそろいですので、休憩前に引き続き、分科会を再開したいと思います。

それでは、質問はございませんか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） そしたら、誰も渋っとんなるで最初に言います。

2 点ほど伺いをします。1 つは、132 ページのまちづくりの関係で、人材派遣で、企業人派遣という、これはお一人で700万円ですね。その下のプロパー人材配置は2人で730万円、えらい金額が違うんだけど、企業人のほうは700万円っていったら相当の、月給にしたら何ぼぐらいになるんだ、3、40万円、40万円か。それにふさわしい人が来るわけですか。とりあえずまず1点。

○分科会長（浅田 徹） 吉本参事。

○大交流課参事（吉本 努） 先ほどのお尋ねの件ですけども、まず企業人派遣は、神姫バスから豊岡観光イノベーションのほうに事業本部長という形で来ていただいている方がお一人という形になります。

プロパー人材派遣の部分ですが、2名分ということは、こちらのほうは豊岡観光イノベーションに新たに2人プロパーというのを雇ってというか、現在1人いるんですけども、1人追加して、若手の職員のほうを採用してプロパーとして育成するということか、従事していただくという部分に対する補助金ということで、730万円を計上いたしております。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） もう1点は、ここで言うのがどうなのかちょっとあれなんですけども、城崎の関係ね、城崎の外湯の清掃員を募集するという新聞チラシがあったんですけども、清掃員っていうのは、財産区の職員じゃなくて市の職員、そのお金はどちら出とるのかなと思って、現在はこちらで採用し

た人ですね。新聞広告を見ると、えらいとんでもないところの会社が募集されとるんですけども、ということだったかなと思って、ちょっとまずその辺から聞かせてください。

○分科会長（浅田 徹） そしたら、植田課長。

○城崎温泉課長（植田 教夫） 清掃員につきましては、現在6名の清掃員を豊岡市の臨時職員ということで採用して雇用しています。この方々につきましては、財産区が経費を持って雇用しているという格好になっております。しかしながら、今の現状を見ますと、1人1つのお風呂で勤務している状況になりますので、例えば長期のお休みをされたとか、そういったところのフォロー体制もできておりませんし、夜間の仕事であることから、労務管理もなかなか厳しいところがあることから、民間業者のほうに委託をしたということでございます。

チラシにつきましては、民間業者のほうから求人をされたというふうなことでございます。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 身分は市の職員なんですね、臨時職員、現在はね。お金の出どころ財産区であっても、身分としては市の職員になっているということなんで、改めてお聞きするんですが、1つの外湯に1人と。だから、そのフォローができないということなんですが、これまでの中で、フォローができて外湯が休んだとか、掃除ができなかったとかっていうのはあるんですか。

○分科会長（浅田 徹） 植田課長。

○城崎温泉課長（植田 教夫） 浴場の委託の方に軽易な清掃をお願いしたりすることで、何とかやりくりをしておりましたが、こういったコロナとか、それからインフルエンザとか、いつどういったことになって人員が不足するっていうこともリスクが伴っておりますので、そういった意味合いから外部委託をしたということでございます。

また、岐阜県のほうの業者なんですけども、指名業者のほうで一応探したんですけども、どちらも対応ができないというふうなことでしたので、何とかいろいろ探して手を尽くしていく中で、一番近いと

ころが岐阜県で何とかできるということなので、そちらのほうを選定したというところでございます。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） その岐阜県の業者さん、もう契約されたんですか。

○分科会長（浅田 徹） 植田課長。

○城崎温泉課長（植田 教夫） はい、契約は済んでおります。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 何で岐阜県のほうの業者、そりゃあ岐阜県の業者と契約をして、その会社がどうするか知りまへんで。会社の人材を持ってくるのか、そりゃよう知らんけども、僕はそんなことで城崎の外湯の管理ができるのかなと、聞けば聞くほど。同時に、城崎の外湯っていうのは城崎温泉のいわゆる顔でしょ。この大事な部分を、もしそこで清掃でミスがあったりしたら、城崎温泉のイメージもう大ダウンしますよね。それを考えたら、これまでトラブルがないのに、先手を打って、コロナなんていうの、この前の話やがな。そんなんにわけのわからん、言ったら叱られるで、そんな岐阜県のほうの業者と契約するという、何でそうなるのかな、聞けば聞くほど、こんなことがええんかいなと。どうですか。

○分科会長（浅田 徹） 植田課長。

○城崎温泉課長（植田 教夫） ご心配のほうは当然あるかと思います。我々のほうも非常に心配でして、入札の指名願いを出している業者の中で、いろいろとそれぞれの業者の方にできるかできないかっていうことを確認したところ、全ての業者ができない。また、大阪のほうの業者にも確認したところ、エリア外、そこまでは行けないっていうふうなことで、非常に委託ということを目標にしていたんですけども、見つからなかったということでございます。

あと、岐阜のほうの業者が本当にきちんとできるのかっていうところは我々も心配でして、やっているとところに現地視察をしましたところ、反対に変な感じですけども、城崎のお風呂よりきれいに管理をされているというところございました。人材のや

りくりが難しいっていうこともありますけども、そもそも清掃のノウハウ等が当局のほうにはなくて、新しい方が来られたときに、自分で一生懸命ノウハウを蓄積して何とかされているという状況がありました。清掃員の方もだんだん年をとってこられたり、退職されたりしたりしますし、体の都合でやめられたりということも多々あります。そのときに、ノウハウを伝承できるっていう体制にはなっていない状況でございます。そういった中で考えますと、やはりきちんとノウハウを持った業者のほうでお願いをするというのが一つの道かなというふうに思います。

今、おっしゃっている岐阜のほうの業者ですけども、関東から北陸、東海、そして近畿で30何力所かの温浴施設の清掃を実施しておりますので、その辺はこちらのほうは心配いたしておりません。以上です。

○委員（村岡 峰男） もう1点だけ。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 聞くとところでは、いわゆる当局との交渉にも入っておられると、その6人の方ですか、現在の雇用されている、という話も聞くんですが、少なくとも、この契約ね、一遍再検討願いたいということを思うのと、6名の方の、現在までこれといったトラブルもなしにやってきておられるわけですから、その人たちの再雇用という問題はどうされるのか、臨時職員だから、期限が来たら、はい、さよならでは済まされないと私は思うんですけども、どうですか。

○分科会長（浅田 徹） 植田課長。

○城崎温泉課長（植田 教夫） その件につきましても、基本的には新しい業者のほうに移っていただくように、今の雇用条件等もお知らせをした上でお話をする中で、そちらの業者にはそれぞれの皆さんが移る、募集することはしないというふうにされましたので、皆さんっていうのは清掃員の皆さんがそちらのほうには行きたくないというふうなことでもございましたので、やむなく新しい方々でやっていただこうということになってしまったということでも

ございます。以上です。

○委員（村岡 峰男） 最後。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） もうせえへんと言っておられる。だから、新しい雇用する、新しい雇用されるのは、契約の中ですけども、少なくとも1点、一つは6名の方、せえへんと言われてもう、あっ、期限来ましたね、もう来ないんだから、はい、さよならでは済まないなという問題が一つと、新しく来られた方が、ちゃんと期待どおりの清掃ができるのかどうか、一日として休むわけにいかないと思いますので、そこら辺も含めて考えると、ちょっと相当な覚悟をしてほしいなと。ただ、契約をした相手の、委託した会社の問題だということではなしに、城崎のイメージの問題ですから。インバウンドだのなんだかんだって、外湯が汚いだの、あるいは外湯が休んだらどうなるかというんでは、インバウンド以前の問題。いうことなので、ひとつよろしく願いをしておきます。そのぐらいにしとくわ。終わります。

○分科会長（浅田 徹） ほかにありませんか。
椿野委員。

○委員（椿野 仁司） まあまあ言いたいことたくさんあるんですけど、コロナの関係はちょっと後にとっておきます。

それで、振興局の私は質問をしましたので、ちょっとお聞きしたいんですけども、日高の地域プロジェクトの、さっき地上式の消火栓の1, 100万円ってあって、これ、何か新ホテルの建設の関係で消火栓をっていうことなんだけど、これ、消火栓って、振興局のプロジェクトのお金を使わなくても、これ、何ていうの、消火栓の配置と配管とかっていうレベルの問題は、別の会計ではないかと私は思うんだけど、それは振興局が持たないといけないもんなの。

○分科会長（浅田 徹） 中川参事。

○日高振興局地域振興課参事（中川 光典） こちらのほうの会計の持ちようの考え方につきましては、上下水道部水道課と相談をした上で地域振興課、日高の振興局が持つというような形になりました。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） いや、僕は1, 100万円、振興局が、本当の本来のプロジェクトに使えるようなお金として、今まで、例えばプロジェクトの中でもいろいろとあると思いますよ。地域のことで、例えば側溝直すとか、いろいろとあるから、振興局じゃない仕事でも、振興局が地元の問題として、課題として諸事業を、地域からの要望を待ってやるっていうことは、これは大事なことだと思うんですね。でも、これ新規事業だからさ。だから、僕は、あえて上水のほうでもらって、日高の振興局は別のもっといろんな地域のことをやったほうがいいのかなと思って今意見を申し上げましたので、それはご相談をされたんですけども、それ以上何か言うことがありますか。

私は、日高の振興局のほうに応援したいんです。それだけ。中川君、どうぞ。

○分科会長（浅田 徹） 中川参事。

○日高振興局地域振興課参事（中川 光典） ありがとうございます。

振興局のプロジェクトに関しては、予算の枠があるというような前提があるわけではありません。これはぜひ日高の振興局として当初取り組んでほしいということで、特に上層部からの指示もございましたし、地域の振興のためですので、ぜひこちらのほうで頑張っていきたいという考えであります。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 続いて、114ページの出石の同じプロジェクトですが、交通環境改善計画策定支援業務、これね、城崎も同じことやってきたんですよ。城崎の交通環境改善計画、このプロジェクトは、いわゆるバイパス、まあまあ、まちの中の、出石も一緒だ。車がまちの中に入ってきて観光客、市民の皆さん、安全上の問題もある。だから、もうパニックになっている。それを何とか緩和したいという思いで、今のバイパス、だからバイパス必要なんですよっていうことを、今提案し、そしてまた、県の社基プロにも載せていただけるような結果が出て、非常に好転しているわけですよ。先ほどの阪

本君の話だと、いわゆる混雑していることを一度どういう状況かっていうことを、環境を確かめる。それはいいんだけど、最終的な目的、目標は一体どこにあるのかなっていうところ辺を知りたい。

○分科会長（浅田 徹） 阪本課長。

○出石振興局地域振興課長（阪本 義典） ありがとうございます。

今、質問がありましたことですが、最終的にはやっぱり出石のまちの中の渋滞を解消するためには、どうしたらいいかというふうなことの分析とか、知らなくちゃいけないというふうに考えております。

したがって、出石振興局としましては、今、問題となっておりますのが、一つは観光客が出石のまちの中では1.75時間しか平均的に滞在しないというふうなことがありまして、すぐに出石のまちから離れてしまうと。少しでも観光のためにその時間を長くするためにはどうしたらいいかというふうなことを考えておまして、観光の方が出石のまちの中のそば屋さんだけを求めて、そばを食べたらすぐ帰ってしまうのではなくて、まちの外側に、例えば先ほどありましたように、バイパスではないですけども、ルートを変えて、道の使い方を変えて、外側から中側に人が入ってくるようにしたら、やはりまちの中を周遊できるんじゃないかなというふうな考え方もありまして、まずは今の現状がどうかというふうなことを確認して、今後はそういった方向性を見つけて、対応をどうしたらいいかという、周遊できるような道路の考え方を再度検討していきたいというのが最終目的でございます。以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） とってもいいことです。それで、改善をするってことも大事なことで、最終的にパーク・アンド・ライドでも何でもいい、やり方はいい。だから、外にそれだけの駐車場持っていて、それでまた人を歩かせるということは大事なことです。

今の分析を得てからどうだというんじゃなくて、

同時進行でやってください、できたら、これは。これは要望だけです。何かあるなら、委員長、どうぞ、いただいてください。

○分科会長（浅田 徹） 阪本課長。

○出石振興局地域振興課長（阪本 義典） 済みません。分析してからというふうに言いましたが、当然これは同時並行しながら、住民の方の意見も聞きながら進めていくというふうなことになりますので、その方向で進めていきたいと考えております。以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 私のほうからちょっと委員長に提案なんだけど、コロナの関係は、それぞれいろいろと皆さんおっしゃりたいことあるので、コロナ部分だけはまた何かまとめてやっていただくわけにいかないですか。言っちゃってもいいですか。

○分科会長（浅田 徹） ちょっと暫時休憩します。

午前11時28分 分科会休憩

午前11時29分 分科会再開

○分科会長（浅田 徹） それでは、再開します。椿野委員。

○委員（椿野 仁司） それじゃ、もう予算の関係も含まれてきますから、ちょっとコロナの関係を、質問も加えて、意見も申し上げたいと思います。

日々刻々として状況が悪くなっていきます。国のデータだとか、それから国の政策だとか、そういうものもみんな、国や県も市もそうですね。商工会も最近アンケートとったのが、中間として出ましたよね。今、一般質問にもあったんだけど、市が一つにはいわゆる金融面で、今、柳沢君のほうからあったように、利子補給だとか、いろんなことをやっていこうというふうなことで、それで、私が聞いているのは市役所の中にそういった相談窓口も設けましょうというようなことも聞いてます。

金融面の話と、それから経済対策、いわゆるソフトということになるのかな、そういうところをこれから、今日の前でどうのこうのではないんだろうけれども、それを、例えば終息しつつある、これから

立ち直っていこうというときにどうするんだというような話も、市長ともいろいろと話を、一般質問でもありました。だから、それはそれとして市がいろいろと粛々と考えていって、場合によっては補正予算でというような話も聞いてますから、別の財布でというふうな言い方を市長はしてたけれども。

予算の中で、やっぱりこれ、全部拾い上げたら、もうちょっと無理があるんだ、時間的に。環境経済とか大交流課とか、それぞれある、それから各振興局もあるし、いろんな事業があるでしょ、予算の中に。ところが、目の前から、これから1カ月後、2カ月後、3カ月後に、コロナがどうなってるか状況わかんないけど、場合によっては予算化したものの事業をやめなきゃいけない場合がある、できない場合がある、中止を。そういったときに、その中身については若干ちょっとデリケートな部分があると思うんですよ。既に契約しちゃってるとか、継続事業だからもうこれはちょっとやらざるを得ないとか、だから、そういったいろんな含みはたくさんあるかと思うんだけど、あえてそういうことを、もうわかっている、例えばもうこれちょっと無理だなとわかったときに、契約をしないと、予算化してますから、もうこれは予算に上げてますからやりますよっていうふうな、無理やりそういうことは私はする必要はないのではないのかなというふうに思います。

この辺ちょっと、一つ一つ事業を上げていくのはあれかもわからんけども、本当、いろんなところから聞くと、もう大変ですよ、みんな。特に、柳沢君ね、経済対策、経済じゃない、金融面、今、国がいわゆる無担保・無保証・無利息というやり方やってますよね。でも、その網かけがどこまで行くのか。国のあれがいつこっちに流れて、交付金にはそれなりにあるんだけど、借りに行く側はそんなに条件がよくないんですよ。結局、結構難しいんですよ。今すぐ従業員にお金を払わなきゃいけない、給料払わなきゃいけないけど、お金がないといったときに、いろんなことをしなきゃいけないんだけど、目の前の資金を何とかしてほしいっていう事業所もあれ

ば、ちょっと先、2カ月、3カ月先、ひょっとしたら半年先に何とかしてほしいって。これ以上いくと、悪化するとひょっとしたら困るってとこが出てくる。この辺が非常に、いわゆるわかりやすく、簡単に言えばわかりやすく、相談かけやすく、何とかそういうことを市が、ある意味では市民がそういつて来られたときに、ここに行ってこんなふうなものがありますよってことをちゃんと指導してあげるっていうことを、一つ市のほうもお考えいただきたいと思います。

パターンが幾つかあると思うんだよね。今、本当に困ってる人たちもいれば、借りたいんだけど、もっと何か自分にとっては有利なものが出てくるんじゃないか。後で、あっ、これ借りて失敗したっていう人も、それをちょっといわゆる少しウエーディングしてる人たちもいると思う。でも、どっちにしても同じ不安は解消されてません。

だから、この辺も含めて、さっき言った予算化しました事業についても、もう一度これをどうなるんだろうか、各振興局のことも含めてどうなるんだろうか。例えば乙女の湯、榮木局長、もうそろそろご卒業ですが、キリンジさん、キリンジだったかな。まあ、そういうことで契約してやるっていうんだけど、今こういう観光地、それからいろんな施設、ジムだとか、きのうなんか温浴施設はどうなんだとか、温泉地はどうなんだっていうのをテレビでやってたんだけど、こういう今の状況の中で、乙女の湯の今のやられようとしてることが、本当にこう、何か逆風になっていかないのかなというところも含めてちょっと心配をするんですけど、一つのこゝとしてピンポイントに質問をするんだけど、その辺はどうかなっていうことと、今さっき言ったことについては、何か答えられるようなことがあったら、どうしていくかということ、これ政策的な判断になるので、あなたたちだけにそれを言うっていうことじゃなく、トップがどうするかだと思うんだけど、その辺についてはちょっとどういうふうに考えていけるのか、考えなきゃいけないのかなってことが現時点であれば、今の私の言ったことに対して答え

ていただきたいと思います。

委員長、終わりました、とりあえず。

○分科会長（浅田 徹） 今のは具体的には、乙女の湯ということが出ました。

では、榮木局長。

○出石振興局長（榮木 雅一） 今、乙女の湯につきましてお尋ねがございましたけれども、具体的には事業者さんのほうからは、今後の方向性については具体的にはまだお聞きはしてないところです。

ただ、私、個人的な意見、思いとしたら、グランピングをされるということですし、やり方によっては乙女の湯も活用しながら、今後いい方向に向かわないかなという期待はさせていただいておりますけど、実態はちょっとこれからまだ、もう少し状況を見なきゃわからないのかなというふうに思います。以上です。

○委員（椿野 仁司） それだけ、ちょっと言いましょう。その、その部分だけ、とりあえず。いいですか。乙女の湯の件だけ、とりあえず。質問をもう一回しますけど、いいですか。

○分科会長（浅田 徹） じゃ、今の回答を受けて。椿野委員。

○委員（椿野 仁司） キリンジさんがされるということで議会のほうも承認し、そういった、いわゆる物もお金も、物はもう無償で貸与したわけだし、お金のやっぱり当然それに対しては支援をするわけですね、市はね。今こういう状況の中で、物が入ってくるにくくなる。いろんな形で今、設備会社も、もう非常に工業界も困っているわけですね。それで、今計画どおり本当に進んでいるのかどうか。それから、今こうやって新しく事業するのに、これからよくなってもらわんと困るんだけど、本当に今、そういう意味では、向かっていく方向はいいにしても、今の環境がこういう環境なのでどうなのかなって心配になるんだけど、そういう意味では、ある程度ちょっと具体的に、これからどういうふうな詳細なスケジュールは、例えば会社のほうからそういうものが入手できるんだったら、いつオープンしてどういうふうにするのか、今からどんなふうなことをす

るんかっていうことを含めて、ちょっと一度計画表をもらったけれども、その後変更がないかどうかを確認させてもらいたいんですけど。

○分科会長（浅田 徹） 榮木振興局長。

○出石振興局長（榮木 雅一） 現時点では、予定どおりを検討されてます。ただ、今、椿野委員がおっしゃったような状況、厳しい状況は一方でないとは伺ってません。予定どおりに事が運べるようには進めたいという意向はありますけれども、場合によっては若干の変更がないとも限りません。これは否定し得ないと私も思います。現状については、あくまでも予定を踏まえながら進めていきたいということしか、今現時点では申し上げにくいのかなというふうに思います。以上です。

○委員（椿野 仁司） まあ、よろしく願いします、さっきの。

○分科会長（浅田 徹） それでは、小林部参事。

○環境経済部参事（小林 辰美） まず、大交流課関係のイベントとか、直接行っているもので、今のところ中止とかというものはございません、直接イベントはほぼない、少ないもんですから。

ただ、間接的に観光協会の補助金の中から事業を行っているというものはあるかと思います。それらにつきましては、現段階では少し様子を見ていただいて、今後、反転攻勢をかけようということで今準備しておりますので、その際に、今回のコロナウイルス感染症が終息した時期なのか、ほぼ落ちついた時期なのか、そのころに反転攻勢により効果を上げて実施していただくように、観光協会とも調整を進めていきたいというふうに考えております。

○分科会長（浅田 徹） 坂本部長。

○環境経済部長（坂本 成彦） 先ほど、これからの行事のことですとか、予算執行のこの話がありました。幾つか選択肢があるのかなと思ってまして、一つはやめるという判断をして予算をそのまま残すということもそうでしょうし、もう一つは、延期を例えばして、もう少し様子を見てイベントを打っていくというやり方もあるでしょうし、もう一つあると思うのは、さっき柳沢課長から北部合説の話

をしましたが、取りやめるんだけど、新しいやり方でその予算を使ってやってみるというふうなやり方も多分出てくると思います。ただ、これ、現場サイドだけでなく、財政サイドとも相談したり、あるいは全体の意思統一をしてやっていく必要もあると思いますので、そこは推移を見ながらやっていきたいなというふうに思ってます。

○分科会長（浅田 徹） 環境経済課、柳沢課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） 国の支援も2弾、3弾とまた出るというふうにもお聞きをしておりますし、まずこの間、3月の10日に出された状況を見ますと、委員おっしゃいますように、実質無利子、無担保で借りられるというような制度ができるというふうなことでございますけれども、これも実際現場がどういうふうに回していくのか、回っていくのかということもちょっと様子はわかりません。でするので、いい制度ができたとしても、本当におっしゃるように、今すぐ欲しいということになるような手順でいけるのかどうか、そういったところも少し不確かなところがありますので、市のほうも、このたび利子補給をして支援をしていくというふうな補正予算を上げさせていただいておりますので、そちらのほうもそういったことをにらみながら、もし国のほうの制度が受けられないとか、もう時間的に待っとられないとかいうようなことがあれば、活用できるような体制ではいきたいというふうに思っております。

ですので、できるだけ関係機関と連絡をとって早急な手続きができるような、そういったことは体制を組みたいというふうなことは内部で話をしているところでございます。

○委員（椿野 仁司） 委員長、最後、最後です。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） まず、国や何かで今セーフティーネットだとか、何号だとか、いっぱい出てるじゃないですか。今は政府系の資金があって、いわゆる民間の金融機関がありますよね。民間の金融機関と例えば市というものの連携の中で、政府系の金融機関に借りれない、行けない人もいるわけですよ。そ

のときに、民間のところに行くっていうんだけど、それと市とのコラボとかっていうのは考えてないんですか、それは。市との関係、企業支援。企業支援で民間と豊岡市が何か連携をするっていうのはないんですか。（発言する者あり）今、考えてない。

考えてないんだったら考えてないでいいんですよ。

○分科会長（浅田 徹） 柳沢課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） 市の制度融資自体が市内の各金融機関で取り扱いをしていただくことになりますので、市の制度を利用していただく際に、さっき言いましたような、できるだけ時間も短縮してとかいうふうなことで利用者の便宜を図るような調整はしていきたいというふうに思っています。

○委員（椿野 仁司） わかりました。いいです。

○分科会長（浅田 徹） では、ほかに。

○出石振興局地域振興課長（阪本 義典） 委員長、済みません。先ほどの乙女の湯の関係の質問の件で、少しだけ補足させていただいてもよろしいですか。

○分科会長（浅田 徹） はい。

阪本課長。

○出石振興局地域振興課長（阪本 義典） 先ほどご質問がありました乙女の湯の件で、ちょっとぶり返すようなこと言って大変申しわけありません。

実は、コロナの影響というのは少なからずありまして、今、キリンジさんのほうでは、予定どおりオープンしようというふうなことで一生懸命向かっていただいております。ただ、現場のほうで、やはり修繕しなくちゃいけない箇所とか、そういったものが多々ありまして、それで、部品の調達がなかなか思うようにできていないというふうなことをおっしゃっております。基本的には、気持ちとしてはもうオープンしたいっていうのが本音のところでは、一生懸命されておりますけども、ちょっとそういった事態がありまして、少しグランピング等につきましても、規模縮小してちょっとやるとかいうふうなことが、ひょっとしたら出てくるかもわからないというふうなことがありましたので、ちょっとお伝えさせていただきます。よろしくお願いします。

○分科会長（浅田 徹） それでは、青山委員。

○委員（青山 憲司） ちょっと時間も押してますんで、焦点絞って聞きたいと思います。

コロナウイルスの関係は、しばらく状況を見ないとなかなか動けないということもありますので、国からの方針が出されたりすれば迅速な対応をお願いしておきたいと思いますが、まず、お聞きしておきたいのは、Uターン、Iターン、それからジェンダーギャップ等に関する事で、よくジョブナビ豊岡だとか、企業説明会だとか、大阪のほうでも開催されたりしてるんですが、有効求人倍率とは別に今の求職希望と、それから求人の職種にかなりのギャップがあるというふうに見ておりまして、そのあたりで企業説明会等、そのニーズとシーズの違い、そういったことはどういうふうに把握をされているのかな。よく今の求人は出すんだけど、なかなか来手がない。求人は多いんだけど、なかなか今のつきたい職とは違うという、そのギャップがかなりあるというふうに聞くんだけど、豊岡の場合の中小企業が多い状況の中で、そういう求職希望者に対して、豊岡はいろんな企業があるってということも言われるんですけど、そのあたりのギャップはどのように把握をされて、求人をされてるのか、市としてどういった取り組みを具体的に、今までからやられてきた事業も含めて、その反省を踏まえて、新年度予算にどういう反映をされているのかというのを、ちょっとその方針をお聞かせいただけますか。

○分科会長（浅田 徹） 柳沢課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） 今、委員ご指摘のとおり、企業合同説明会等でマッチングの場を持つわけですけども、そもそも出てる職種、仕事の内容と求めてこられる方の希望がなかなか合っていないというのは、現状あるかなというふうに思っております。これは豊岡だけではなくて、地方が抱える大きな流れだというふうに思っております。なかなか企業自体の仕事の内容を変えるわけにはいきませんので、より魅力ある企業として企業活動していただくような部分というのを、やはり強めていく必要があるんだろうなというふうに思っております。

それにしても、それだけで人が来るということで

はないと思いますので、いろんな選択が要るんだろうというふうに思っております。Uターン、Iターンを促進するという意味では、企業に就職するというだけが選択ではなくて、最近若い人が創業すると、自分でみずから仕事を始めるという動きも出てきておりますので、そういったことができるという豊岡であるといったようなことも含めて、Uターン、Iターンの促進には当たっていききたいなというふうに思っております。ですので、企業のほうは、今ワークイノベーション推進室等が働き方に対する企業への働きかけというようなこともしておりますので、そういったこと絡めて人が採れるような、来ていただけるような状況が生まれてくればというふうには思っておりますのでございます。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 今の市長もよくジェンダーギャップの解消ということで、それを旗印に若い女性を豊岡に戻ってきてもらうような取り組みをするんだということなんですけども、そういう旗印はよしとして、じゃあ豊岡に帰ってきてもらって、若い女性が望む職業、仕事があれば、何ぼ声高にジェンダーギャップの解消だと言っても、私は若い女性の心には響かないと思うんです。だから豊岡で、先ほど課長が言われた創業支援なんかも含めて、豊岡市としてそういう若い女性向けにこんな職業ありますよとか、こういう創業支援をしますよとか、具体的に支援策を示していかないと、なかなか若い女性が帰ってこようと思わないというふうに思うんです。だから今まで、今の合同企業説明会だとか、ジョブナビ豊岡だとか発信はされてても、なかなかそういった現実として結果に結びついてきてるのかなというちょっと疑問があります。だから、そういう意味で、豊岡市として特に今のそういう支援を具体的に示していく必要があるんじゃないかなと思うんですけれども、その点についての考えというのはいかがでしょう。

○分科会長（浅田 徹） 柳沢課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） 新年度予算のほうにもあれですけども、若者であるとか、女性を対象

にしたような経済施策というのを展開しようと、そこに重きを置いてやろうというふうにしてる部分がございますので、そういったものが、今、委員おっしゃられたように、見える化、より届けれるようなやっぱり仕立てにする必要があるんだろうなというふうに思っておりますので、やるのとともによくそういうものが伝わっていくような仕組みは考えていきたいというふうに思っております。今現在そういうものが見えるようになってるかと言われるたら、ちょっと弱いのかなと思いますので、そこはブラッシュアップをしていきたいというふうに思っております。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 先ほど言いましたように、求める職業と求人、中小が求める人材というのはかなりギャップがあると思いますので、そのところに焦点を絞って、じゃあ具体的にどういう職業だったらつきたい職業なのかっていう、求職に対するニーズっていうのをしっかり把握して、特に若い女性戻ってきてもらいたいということであれば、そういう若い女性のニーズをしっかり把握をして、そしてそういった年代層に働きかけていくってことをしていかないと、具体的に、なかなか帰ってこい、帰ってこいだけでは人は寄ってこないと思うんで、豊岡市として特にそういった取り組みを、新年度具体的に示してもらいたいというふうに思います。そのあたりはちょっと意見として申し上げておきたいというふうに思います。

あと1点、ちょっと全然違いますけども、よろしいですか。

○分科会長（浅田 徹） どうぞ。

○委員（青山 憲司） 242ページの今度は玄武洞公園の整備事業で、市長の総括説明でもあったんですけど、2022年から整備をした上で有料化をするというふうな話がありましたね。その整備事業費も今回予算に上げられとるんですけども、有料化にする上で今の施設をどうしていこうということなのか、具体的に。有料にする場合、どれぐらいの金額を今想定されているのか、そのあたりをちょっと

聞かせてもらえませんか。

○分科会長（浅田 徹） 吉本参事。

○大交流課参事（吉本 努） まず、玄武洞公園の整備に関しましては、基本的な考えとして、今あるものに華美なものをつけ加えるということではなくって、本来の自然の公園、玄武洞のよさの部分の自然を楽しんでいただくというふうな形のもので、プラス・マイナスといいますと、あるものから本当に削っていったって、本来のよさを見せようという形の整備にしたいというふうに考えております。といいましても、有料化という形のをにらんでおりますので、有料化をするに当たって、お客様のほうにもそれだけの来ていただける価値を提供する部分も必要かなと思っておりますので、その辺のバランスを考えながら整備をしたいということで、今、基本計画を進めているというような状況になっております。

料金の部分なんですけども、今現段階で幾らという形の設定はいたしておりませんけれども、ほかのいろんな事例等を勘案して見ますと、300円から500円とか、それぐらいの間かなというふうなことで、今は想定というか、それを含めて検討をしているというような状況でございます。以上です。

○委員（青山 憲司） よろしいです。

○分科会長（浅田 徹） よろしいですか。

○委員（青山 憲司） はい。

○分科会長（浅田 徹） ほかにありませんか。

松井委員。

○委員（松井 正志） 専門職大学に伴って、今後市の負担はどのように推移するか、何か今の段階でわかるようなことがあれば、ご説明いただきたいと思います。

○分科会長（浅田 徹） 谷口課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 今負担させていただいてる分につきましては、開設の前の募集までの間のことをやらせていただいていた、これは本来であれば、学校法人がすべきことなんですけど、まだ法人が設置されてませんので、県と市が必要な部分を応分の負担をしているという今の状況でございます。

その後につきましては、以前もちょっと議会のほうで説明させていただいたんですけれども、大学が豊岡但馬にあることをさらに生かして、地域の活性化をしていくために何らか学校と地元の自治体とで事業をしていきたいというふうに思っていますけれども、そこはまだ具体的なものは何も出てきてないような状況でして、リサーチ・アンド・イノベーションセンターを置くということになっておりますけれども、そこで何をしていくのか、どんなことを担っていくのかというような会議がこの4月から始まりまして、大学開設後、大学と自治体がどういった関係を結んでいくのかということを、そこで議論していこうというふうに思っています。

○分科会長（浅田 徹） 松井委員。

○委員（松井 正志） 普通の大学であれば、学校法人であったり、独立行政法人であったりして、行政は一定の基準にある補助金を、市はゼロじゃなくて、県とか国とか、もっと上位の団体からあるんだろうけども、今回の場合は市がかなりかわるような懸念をしてるんだけど、そういうことがあるかどうか。要するに一般の学校法人の運営だけにとどめてもらったら、市の負担ってこんな少ないと思うんだけど、それをさらに、今言ったように地域のためだとか何とか言って踏み込んでやっちゃうと、相当負担がふえてくると予測してるんだけど、そういう可能性があるんでしょうか。

○分科会長（浅田 徹） 谷口課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 基本的な学校の運営管理に関しては法人がするということになっておりまして、その学校と自治体が管理運営以外の面でどうかかわっていくかというのは、今後検討しますし、可能性としてはゼロではないというふうに思っています。

○委員（松井 正志） わからないよね。

ちょっともう一つ。まだ時間ある。

○分科会長（浅田 徹） 松井委員。

○委員（松井 正志） さっき椿野委員が言われたことに関係するんだけど、イベントとか行事はいいんだけど、例えば4月1日から契約をして、ちょ

っと言い方がきついかもわからんけど、誘客促進の業務委託してるようなのがあるわな、例えば外国人とかいろんな業務、ところが実際には今回コロナの影響で、4、5、6、お客さん来ませんでしたというようなこともあり得るんだけど、そういうときに業務委託料は支払いが発生するのかな。理屈から言えば1年間続いて業務委託してるから、向こうから見たら当然の結果だというけども、これが民間の仕事だったらなおさら値切りせなと思うわ。実際効果ないんだから。そういうことが想定されるのか、もしくは経費の当たりまで節約できるようなことが、可能性があるのか、もしわかったら。

○分科会長（浅田 徹） 谷口課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 基本的に契約の成果として、何人連れてきてくださいというような契約ってほとんどないですよ。情報発信をして届けてくださいだとかという契約はしてますし、お客さんが来られたときにはカウンター業務で案内しててくださいというようなことはありますけども、基本的にあなたの仕事に対して何人連れてきてくださいというような契約というのはないので、なかなかそこを前もってというのは難しいなというふうに思ってます。

それからもう一つは、例えば今TTI、豊岡観光イノベーションに委託をして、外国に向けて豊岡を売っていただいているんですけども、実際の予約というのは減ってきてますけれども、城崎を調べてる人、豊岡を調べてる人ってそんな減ってないんです。そのことによって「Visit Kinosaki」に情報をとりにくる人もそんな減ってないということからすると、今、直近では来ないんだけど、旅行には興味があって探してるっていうのはこの状況でもあるんだなということがわかってますので、そこは引き続きやっていきたいというふうに思っているところです。

○委員（松井 正志） 委員長、答弁はいいです。

以上です。

○委員（村岡 峰男） 1点だけ、いいですか。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 1分です。1分で終わります。

130ページの専門職大学の関係で、市も1,450万円ほど負担するんですね。県とのかかわりで、こちらの起工式に議長は案内もらっておるんですけども、この担当委員会委員長全然何もあらへんと。だからほかの但馬のあとの2市2町かな、と全く同じ扱いが豊岡市にもあったように思うんです。ちょっとやっぱり地元としてももう少し豊岡市には金も求めとるんだから、議会にもそれ相応の対応があってもいいんじゃないかと思うんですが、どうですか。

○分科会長（浅田 徹） 谷口課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 基本的に、県が招待されることに我々直接は口は出せないんですけども、一定ある場面においては、県はそれ豊岡だけ特別扱いせずに、但馬全体でというような気の使い方をされるときもありますし、ある場面では豊岡ということもありますので、そこら辺は使い分けておられるのかなという感じでいます。

○分科会長（浅田 徹） それでは、これで質疑を打ち切ります。

大変職員の皆さんご苦労さまでした。それでは、環境経済部、各振興局の職員の皆さんは退席していただいて結構でございます。大変ご苦労さまでした。

それでは、暫時休憩します。

再開は午後1時。

午後0時00分 分科会休憩

午後0時59分 分科会再開

○分科会長（浅田 徹） それでは、時間もう少しありますけど、皆さんおそろいですので、建設経済分科会を再開したいと思います。

次は、コウノトリ共生部に関する審査を行いたいと思います。

当局におかれましては、新規事業、前年度からの大きな変更のあった事業及び主要事業等の議会説明を要する事項について、その概要を簡潔にご説明願いたいと思います。

なお、順番につきましては、歳出、歳入、それから債務負担行為、地方債の順にお願いしたいと思います。

ます。

質疑は課ごとの説明が終わった後に一括して行いたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、順にということで、農林水産課、それからコウノトリ共生課、地籍調査課の順に説明を願いたいと思います。

説明に当たりましては、必要に応じて資料のページ番号を示してからお願いをしたいと思います。

それでは、農林水産、石田課長、お願いします。

○農林水産課長（石田 敦史） それでは、予算書の88ページのほうをお開きください。目5財産管理費の上から4行目ですが、基金管理費の3億2,312万9,000円のうち、農林水産課分といたしましては、最下段の森林環境基金積立金に2,107万円を計上しております。これは、今年度2019年度から国から各地方公共団体へ譲与される森林環境譲与税を財源として、森林整備事業等を行う際、結果として余剰金が発生した場合、後年度に事業実施する財源として基金に積み立てるもので、令和2年度の譲与税見込み額6,000万円、歳出での事業執行予定額3,893万円を差し引いた2,107万円を基金に積み立てるものとして計上しております。

続いて、94ページをごらんください。目7まちづくり推進費の上から5行目、地域おこし協力隊推進事業費の8,968万円のうち、農林水産課分としては353万9,000円を計上しています。市内の農業における労働力、後継者不足の解消を目指して、新規就農につなげるため、2019年度から2年目の受け入れで、西宮市からの移住者で日高町の農業生産法人を活動拠点としての経費を計上しております。

続いて、134ページのほうをお開きください。目34地方創生推進事業費の上から4つ目の事業、コウノトリ育むお米ブランド化推進事業に776万2,000円を計上しています。主なものとして、オーストラリアでのプロモーションイベントサポーター業務に係る業務委託料として50万円を予定しております。またアメリカ東海岸のニューヨー

クでの日本食レストランエキスポや、西海岸のロサンゼルスでのファンシーフードショーへの継続出店のための負担金40万円を予定しております。特に海外ではオーストラリア、アメリカのほか、2017年から輸出が始まりました香港の3カ国を中心に販売プロモーションを行う予定としております。また、引き続き国内におきましても既存のイトーヨーカドーであったり、沖縄サンエー等の店舗との連携を図ることに加えて、今年度、令和2年度、近畿大学附属豊岡高校の生徒によります総合探求学習のフィールドワークとして、コウノトリ育むお米の販売イベントに随行する職員の旅費、事務経費等を計上しているところです。今年度当初、4月での予定を考えておりましたが、この昨今の新型コロナウイルスの拡大の関係もございまして、予定としては12月、あるいは来年の3月に変更する予定となっております。

続いて、次の事業、新規就農総合支援事業費に3,199万6,000円を計上しております。主なもので、補助金の新規就農者確保事業1,950万円は、国の要件を満たした新規就農者に対し、年間最大150万円を給付金として交付する制度で13名を予定しております。その下の若手農家支援事業費1,222万8,000円は、若手農家の農業機械等購入に係る初期投資費用の支援と、市外からの新規就農者、また農業スクール生への家賃補助に係る経費として計上しております。また、大阪、神戸での就農相談、就農フェアに豊岡市のブースを構え、新たな支援農業の担い手、後継者を発掘する経費も計上しております。

次の事業、豊岡農業スクール開校事業費に1,142万9,000円を計上しています。2013年度からの継続で、認定農業者への新規就農生3名と在校生3名、合計6名の受け入れに係る経費です。2019年度末で累計20名が入校し、うち17名が卒業することとなり、市内に雇用で3名、独立自営で13名が就農に至った状況となっております。

次の事業、スマート農業推進事業費に54万3,000円を計上しています。2018、2019年

度の2カ年、コウノトリ育む農法の無農薬栽培における水田センサー60本を活用した水管理の省力化実証試験を終えたところですが、新たにこのセンサーを活用して、品質向上と高温障害などの栽培技術の向上につなげるべく、センサー60本を関係者で活用いただく経費として計上しております。

214ページをお開きください。目3農業振興費の上から4行目、農業振興事業費に883万6,000円を計上しています。その中で、特に補助金の強い農業・担い手づくり総合支援事業費249万4,000円は、人・農地プランに位置づけられた農業の中心経営体に対して、必要となる農業機械、施設の導入を支援し、産地としての持続性を確保し、収益力の向上を図ることでの支援を考えております。

1つ事業飛びまして、有害鳥獣駆除対策事業費に1億1,096万円を計上しています。特に2020年度から3年間、第3期シカ有害被害撲滅大作戦の初年度の取り組みとして、引き続き狩猟期を含め、捕獲頭数年間6,500頭を目標に、2019年度同様効率の高いわな猟にウエートを置きつつ、これまで有害鳥獣捕獲班の取り決めの中で、狩猟では複数の捕獲者がいないと実施不可としていた単独活動による捕獲方法の流し撃ち部隊を新たに導入し、昨年10月から配置している地域再生協働員との捕獲活動連携により、すき間のない捕獲活動体制をさらに強化し、農林被害の抑制に取り組むこととしております。報償金の7,591万4,000円は、主に被害の大きいシカの有害捕獲5,000頭分のほか、イノシシや小型小動物の有害捕獲謝礼としての7,340万5,000円と、地域再生協働員の年間報償金237万6,000円です。業務委託料の948万8,000円は、市有害鳥獣捕獲班との年間を通じての駆除に係る委託料です。負担金の1,688万5,000円のうち、シカ緊急捕獲拡大事業費負担金1,618万5,000円は狩猟期におけるシカ捕獲に対する報償金を支給すべく、県へ支払う負担金として計上しております。また、地域再生協働員設置事業費負担金70万円は、県版の地域おこし協力隊の制度を活用しておることから、県へ

の負担金として基本事業費の280万円の4分の1を計上しております。補助金の386万5,000円のうち、ニホンザル防除対策事業費補助金60万円は、豊岡の中でも特にニホンザルが生息する地域を主に既存防護柵の強化、修繕に係る補助金創設の事業です。

次の事業、鳥獣害被害防止緊急対策事業費に6,576万2,000円を計上しております。負担金の内容は、事業主体である豊岡市野生動物被害対策推進協議会において、国の鳥獣被害防止特別措置法による金網柵2地区、電気柵1地区、ワイヤメッシュ1地区の施工を予定しており、市から当協議会への負担金を計上しております。

次の事業、中山間地域等直接支払い事業費に4,875万1,000円を計上しております。主なものでは、216ページの交付金の4,829万8,000円で、2020年度は第5期対策の5年間の協定期間で実施される開始の年度でございますが、この事業は、平場の農地と中山間地域の条件不利農地との不均衡を是正するための交付金事業で、市内41集落協定で実施されるものでございます。

次の多面的機能支払い事業費に2億4,402万8,000円を計上しております。主なものでは、交付金の2億4,311万円で、その内訳は共同活動交付金等を117組織に対して1億3,636万2,000円、長寿命化活動交付金を86組織に対して1億674万8,000円を予定しております。

次の事業、環境保全型農業直接支払い事業費に5,407万4,000円を計上しております。主なものは、交付金の5,392万4,000円で、冬期湛水や有機農業などの環境保全効果の高い取り組みを行う農業者に対して、取り組みの面積に応じて支援金を行うものでございます。予定の累計面積は688ヘクタールです。

2つ事業を飛びまして、人・農地プラン推進事業費に1,821万円を計上します。主なものには、補助金の1,806万円で、農地中間管理機構を活用して、地域の担い手、農地を集積するための補助金です。この機構集積協力金には3つ種類がありま

して、1つは地域集積協力金、これは交付対象面積の1割以上が新たな担い手に集積される場合で、機構を活用する場合に応じて、地域に交付される補助金です。1,656万円を予定しております。豊岡では3地域、出石では1地域、但東で1地域を予定しております。2つ目として、経営転換協力金で、先ほど説明した地域集積協力金の交付対象地域の中で、リタイアや経営の転換による農業者が農地中間管理機構に農地を貸し付ける場合に交付される補助金で120万円を予定しております。交付対象予定者は16名です。3つ目として、条件不利農地集積奨励金で、農地中間管理機構を通じて、昭和39年以降に圃場整備がされていない条件不利農地を借り受け、営農に取り組む担い手に対する県の補助金で30万円を予定します。交付対象予定者は1名です。

218ページをごらんください。1行目、法人化・高度化促進施設整備事業費に、補助金として817万1,000円を計上しております。これは、2018年度から2020年度までの3カ年を法人化強化期間と県が位置づけ、農業経営の法人化規模拡大、高度化により必要な機械、施設等を整備支援する補助金です。

次の事業、豊岡市農業ビジョン推進事業費に30万5,000円を計上しております。2018年度から2カ年にわたり、策定をしてきました豊岡市農業ビジョンでは、持続可能で幸せを感じる社会の実現に貢献する農業のあり方を、豊岡グッドローカル農業と称し、2020年度は具体的な事業施策、事業支援等の検討を進めるため構成員8名程度で推進委員会を設置し、必要な経費として計上しております。

同じページの中段から下段に向けて、目5の農地費の農業用施設管理費に7,214万2,000円を計上しております。主なもので、投資委託料の1,600万円の内訳は、1つ目として、ふるさと農道法面安全対策事業詳細設計に550万円を計上します。2つ目は、市内のため池の中でため池が決壊した場合、人的、物的被害を与えるおそれのある特

定ため池の中でも規模の大きい堤高10メートルを超えるため池の2施設につきまして、緊急時における避難経路や避難場所浸水想定区域を示したため池ハザードマップの調査設計に500万円を計上しております。3つ目は、広域農道1号線の神美トンネルの照明、LED化の詳細設計に550万円を計上しております。その5行下、補修工事費の3,000万円はゼロ市債の広域農道1、2号線及び清滝農免道路の舗装修繕で2,000万円と、広域農道2号線及び清滝農免道路の舗装修繕1,000万円です。その2行下、負担金のうち防災・減災事業費の1,120万円は、2017年、2018年とたび重なる豪雨により破損しました蓼川堰の右岸側下流護岸補修工事の負担金です。

220ページをごらんください。基盤整備促進事業費に6,666万6,000円を計上しております。主なもので、投資委託料測量設計の600万円は、豊岡市内町地区の圃場整備事業の基本設計策定業務です。本年度の基本設計では、市で実施し、次年度以降の詳細設計、圃場整備工事は県営事業で実施する予定です。次の負担金6,066万6,000円の内訳では、基幹水利施設ストックマネジメント事業費1,274万1,000円は蓼川用水路長寿命化に伴う県と土地改良区への負担金です。農地整備事業費1,687万5,000円は、下鶴井地区の県営圃場整備事業に伴う県負担金です。基幹農道整備事業費3,105万円は、耐震化事業では蓼川大橋の落橋防止6カ所と新田橋の橋脚補強1橋に係る負担金1,800万円と長寿命化では蓼川大橋の鋼材部の塗装及び防食対策に係る負担金1,305万円です。事業期間は耐震化、長寿命化とも2024年度までを予定しております。

224ページをごらんください。中段当たりの目2林業振興費の市行造林事業費に4,651万8,000円を計上しております。事業委託料の2,462万4,000円は市内8カ所における保育施業の搬出除間伐に約25ヘクタール、切り捨て除間伐に約50ヘクタールの経費と、次の整備工事費2,189万4,000円は、市内3カ所におけます作

業道約4.4キロの開設工事を計上しております。

次の事業、森林管理100%推進事業費に2,148万5,000円を計上しております。おおむね60年生の人工林の間伐を実施する事業ですが、間伐事業、作業道開設の整備に係る事業主体への補助金2,145万5,000円と事務費の3万円です。

次の事業、治山事業費に990万円を計上しております。但東町河本地区での県単補助治山事業の山腹復旧工事でございます。

226ページをごらんください。1行目の緊急防災林整備事業費に4,086万円を計上しております。2016年度から第3期対策として、2020年度までの5カ年、杉、ヒノキの人工林が大半を占める危険溪流において、急傾斜面での防災機能を強化する必要のある森林を対象に、間伐材等を使った簡易土留工の設置等を施し、整備を行う事業主体への事業補助金4,046万円が主な支出です。市内18カ所で実施される予定でございます。

1つ事業飛びまして、森林環境整備事業費に3,893万円を計上しております。まず新たな森林経営管理の方針策定のため、現在の森林の現状、問題点を把握し、将来の森林のあるべき姿と森林整備のあり方などを検討し、中長期的な目標設定と行動計画を定めるべく、豊岡市森林ビジョン策定委員会を設置いたします。その経費として、補償金から業務委託料までの合計465万円を計上しております。なお、ビジョン及び行動計画は2021年度までの2カ年で策定する予定です。また、間伐未利用材を朝来バイオマス発電所への供給推進のため、北但東部森林組合が購入するチップ破砕機1台、株式会社豊岡森林が購入いたします油圧式グラブ1台と3トントラック1台の購入を支援するため、バイオマス利活用整備等整備事業補助金3,428万円を計上しております。なお、このビジョン策定と事業補助金につきましては、いずれも森林環境譲与税を財源として充当しております。

次の事業、混交林整備事業に2,520万2,000円を計上しております。この事業は、高齢の杉、ヒノキが大半を占める人工林を部分的に伐採し、跡

地に広葉樹を植栽することで、災害に強い森づくりを推進する、おおむね3カ年の事業です。事業の1年目には調査対象森林の調査、測量を実施し、2年目、3年目に作業道開設や広葉樹の植栽事業を施し、整備を行う事業主体への補助金2,515万2,000円が主な支出です。

228ページをごらんください。目2水産業振興費の一番下の事業、並形魚礁設置事業に3,011万円を計上しております。主な支出は、設置工事費の3,000万円で、竹野沖に鋼製魚礁1基とコンクリート魚礁31基を設置する工事で、2018年度から2022年度までの漁村再生計画に基づく魚礁設置です。

以上で農林水産課の歳出のほう説明終わります。

○分科会長（浅田 徹） 志水課長。

○農業共済課長（志水 保之） 212ページをお願いします。農業総務費の18負担金補助及び交付金の下から3行目をごらんください。本年3月末をもって、豊岡市農業共済課並びに農業共済特別会計が廃止になることから、4月から農業共済事業を継承する兵庫県農業共済組合へ事業資金を引き継ぎ移行させるために、一般会計の農業総務費負担金へ予算措置をするものです。金額は特別会計内に残る2億2,530万7,000円です。説明は以上です。

○分科会長（浅田 徹） コウノトリ共生課、宮下課長。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） コウノトリ共生課所管事業を説明させていただきます。予算書は88ページをお開きください。上段のコウノトリ基金積立金2,100万円のうち、コウノトリ共生課分は1,100万円となっております。コウノトリ文化館来園者の環境協力金ですとか、市民、企業などからの一般寄附金を合わせて、コウノトリ野生復帰をシンボルに、人と自然が共生するまちづくりに活用するものです。

次に、98ページをお開きください。環境政策推進事業費は119万5,000円のうち、コウノトリ共生課所管分として96万円を計上しています。本会議でもたびたび取り上げられましたが、地球温

暖化対策の実行力を上げるためにさまざまな検討を進めるための予算としております。

次に、太陽光発電システム導入補助事業費として401万4,000円を計上しています。ここ2年ほど申請件数が少なくなっておりますことから、2019年度より200万円減額して計上しております。

予算書100ページをお開きください。中段ですが、コウノトリ文化館管理費につきましては3,515万8,000円を計上しています。開館20周年に伴う展示パネルの修繕料として100万円、掲示物の更新手数料として70万円、剥製の展示台の購入費として10万5,000円などを計上しています。大きなところは指定管理料3,275万円となっております。

予算書の100ページ下段から102ページにかけて、順にごらんください。コウノトリ野生復帰推進事業費につきましては751万4,000円を計上しております。2019年度に引き続きまして、イギリス・バードフェアへの参加費205万9,000円、インフルエンサー招聘旅費36万1,000円を計上するほか、コウノトリ野生復帰海外情報発信業務委託料として80万円、「コウノトリと共に生きる 豊岡の挑戦」というパンフレットの英語版の印刷製本費として46万2,000円などを計上します。

次に、コウノトリ生息地保全対策事業費につきましては883万円を計上しておりますが、特徴的なのは農林水産課のほうでも1名受け入れると説明がありました県の地域再生協働員の活動です。現在コウノトリ湿地ネットで受け入れ、ハチゴロウの戸島湿地で活動している地域おこし協力隊員が2020年度から県の地域再生協働員として2年活動することになりました。そのため県への負担金として70万円を計上しております。

次に、ラムサール条約関連事業費につきましては110万3,000円を計上しています。ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」の登録エリア拡張に伴うPR映像の修正手数料として62万

7, 000円のほか、ラムサール湿地の保全再生、懸命な利用、交流学习といった目的を達成するための普及啓発経費を計上しています。

次は、102ページから104ページにかけてごらんください。生物多様性推進事業費については733万7,000円を計上しています。自然再生アクションプランのパイロットエリアにおける実践支援業務委託料として298万1,000円、重機作業の手数料として30万円、対戸島湿地における自然再生実践経費として190万6,000円などを計上しています。

次に、コウノトリ未来・国際かいぎ開催事業費につきましては750万9,000円を計上しています。ことしの10月31日、11月1日の両日、豊岡市民会館をメイン会場としまして開催する予定の会議の市負担金500万円のほか、関連事業として7月に開催するラムサール子ども会議の開催経費200万円、がっせえアート展特別展の開催経費28万9,000円などを計上しています。次世代育成事業費につきましては、例年どおりの要求となっております。その下、加陽水辺公園管理費につきましては298万円を計上しています。公園の維持管理運営業務委託料138万2,000円のほか、加陽湿地のシンボルとなりつつあるフジバカマの保護、育成に係る消耗品費として6万4,000円、湿地と山城を抱える大師山の一体活用を図るための活動経費38万円などを計上しています。

以上でコウノトリ共生課の説明を終わります。

○分科会長（浅田 徹） 地籍調査課、西谷課長。

○地籍調査課長（西谷 英） まず、220ページをごらんになってください。説明欄の中段当たりになるんですけども、地籍調査事業費です。2億111万2,000円を計上しております。このうちの補助対象の事業費分は1億9,213万5,000円となります。費用の主なものとしましては、地籍調査課の業務委託料で1億9,561万6,000円を計上しております。この調査の概要ですが、まず1年目の法務局の公図や登記簿調査、これにつきましては11地区4.62平方キロメートル、2年

目の現地立ち会い調査ですが、13地区4.21平方キロメートル、3年目、成果の閲覧ですが11地区3.58平方キロメートルを予定しております。なお、山陰近畿自動車道の豊岡北から竹野間につきまして、公表されております2キロ幅の中の一部ですが、事前調査に着手する予定にしております。なお、この調査を実施することによりまして、進捗率、全体面積に対する調査面積ですが0.8%増の12.1%となる予定です。説明は以上です。

○分科会長（浅田 徹） それでは歳入の方お願いします。

石田課長。

○農林水産課長（石田 敦史） それでは、予算書の16ページをお開きください。最下段の枠内の森林環境譲与税6,000万円は、森林環境の保全事業として、国から地方公共団体へ譲与する税で、歳出で説明しましたとおり、226ページの森林環境整備事業費3,893万円の一般財源として充当しております。なお、事業の執行残により余剰金が発生する場合は、後年度に事業を計画的に実施するために基金に積み立てることとされているため、差し引きの2,107万円については森林環境基金へ積み立てるよう、先ほど歳出の88ページで説明しました財産管理費の基金管理費に予算計上しているところです。

22ページをお開きください。3つ目の枠内の農業費分担金の基盤整備事業費分担金1,162万5,000円は、歳出の220ページ、基盤整備促進事業費のストックマネジメント事業と農地整備事業費に充当しています。

46ページのほうをごらんください。農業費補助金の5億4,702万5,000円のうち、2つ目の農業委員会交付金と、2つ飛んで、機構集積支援事業費補助金、そして1つ飛びまして、地籍調査事業費補助金、7つ飛びまして、農地利用最適化交付金、それと次の国有農地等管理処分事業事務取扱交付金を除く、各補助金、交付金合わせまして3億7,072万5,000円は歳出の134ページ、地方創生推進事業費の新規就農総合支援事業費に1,9

50万円を、それと214ページから218ページまでの農業振興費の関連する事業に3億3,269万円を、そして218ページ中ほどの農地費の農業用施設管理費に1,253万5,000円、それと、最後に220ページの基盤整備促進事業費に600万円を充当しております。

48ページの林業費補助金のほうをお開きください。9,687万2,000円につきましては、歳出の224ページから226ページにかけて、林業振興費の関連する事業に充当しております。次の水産業費補助金2,505万円は、歳出の228ページ中ほどの水産業振興費の水産業振興事業費に5万円と並形魚礁設置事業に2,500万円を充当しております。

56ページの2つ目の枠内で、下から2行目の地域振興基金繰入金3億4,121万4,000円のうち、農林水産課分といたしましては、歳出の134ページ、地方創生推進事業費の Kou no Tori Yumu Omi Brand 化推進事業に700万円を、それと新規就農総合支援事業に1,100万円、それと豊岡農業スクール開校事業費に1,100万円、最後に216ページの農業振興費の環境保全型農業直接支払い事業費に1,300万円が充当されております。

66ページ、上から12行目の雑入ですが、協議会等負担金の豊岡市野生動物被害対策推進協議会負担金4,954万6,000円は、歳出の214ページで説明しました鳥獣被害防止緊急対策事業費のほうに充当しております。

68ページの下段、農業債7,150万円は、土地改良事業債で蓼川用水路の270万円から農道橋長寿命化事業の1,230万円については、歳出の220ページの日5農地費の基盤整備促進事業費に続いて、ふるさと農道の140万円から、蓼川堰の880万円については、218ページの農業用施設管理費のほうに充当しております。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 宮下課長。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） コウノトリ共生課分を説明いたします。予算書は50ページをお開きください。目総務費委託金の地域再生協働員設

置事業委託金280万円のうち、コウノトリ共生課分は140万円となっております。歳出で説明したとおり、県版の地域おこし協力隊の分です。

予算書54ページをお開きください。下段、コウノトリ基金寄附金に1,100万円を計上しています。歳出のほうで、積立金のところで説明いたしましたコウノトリ文化館でいただく環境協力金と企業、一般、個人からいただきます一般寄附金を合わせたものです。

56ページをお開きください。上段の太陽光発電事業特別会計繰入金に4,913万9,000円を計上しています。竹貫地場ソーラーの用地買い戻し費用に2,762万2,000円、生活環境課所管の防犯対策事業費に1,260万円、コウノトリ共生課所管の環境審議会委員報酬に26万6,000円、環境政策推進事業費に65万1,000円、太陽光発電システムと木質バイオマス利用機器導入補助金に、それぞれ400万円を充当いたします。その下、コウノトリ基金繰入金として2,149万9,000円を計上しています。コウノトリ共生課所管の各事業、例えばハチゴロウの戸島湿地管理費に480万7,000円、加陽水辺公園管理費に181万2,000円などに充当するほか、学校給食にコウノトリ育むお米を提供する際の補填としまして、693万6,000円を充当いたします。その下、地域振興基金繰入金3億4,121万4,000円のうち、コウノトリ共生課分は1,400万円となっております。コウノトリ未来・国際かいぎ開催事業費に500万円のほか、コウノトリ野生復帰推進事業費に400万円、ラムサール条約関連事業費に100万円、生物多様性推進事業費に400万円を充当いたします。

予算書66ページをごらんください。中段から少し下、環境保全促進助成事業助成金に200万円を計上しています。コウノトリ未来・国際かいぎの関連事業として、先ほどラムサール子ども会議を開催すると申しましたが、その開催経費として助成を受けるものです。

以上でコウノトリ共生課の説明を終わります。

○分科会長（浅田 徹） 西谷課長。

○地籍調査課長（西谷 英） 次、歳入ですけども、46ページをごらんください。農業費補助金の説明欄の中段よりやや上のほうですけども、地籍調査事業費補助金です。これは補助対象経費に対する県からの補助金が1億6,672万8,000円を計上しております。その中で、3段目の1,709万8,000円掛ける5%とありますが、これは先行地籍調査事業といいまして、先ほど申しました山陰近畿自動車道のような大規模な公共事業に先行して、地籍調査を実施する場合は、県が費用の5%を補助する制度があり、その補助金となります。説明は以上です。

○分科会長（浅田 徹） それでは、債務負担行為に入ります。

石田課長。

○農林水産課長（石田 敦史） それでは、債務負担行為の農林水産課分をご説明いたします。予算書の7ページのほうをお開きください。4つ目の事業の農業経営基盤強化利子補給事業と、5つ目の事業、漁業近代化資金利子補給事業につきましては、農林水産課所管のものでございまして、令和2年度事業分として、期間及び限度額を記載のとおり計上しているところです。説明は以上です。

○分科会長（浅田 徹） それでは、地方債。

石田課長。

○農林水産課長（石田 敦史） 8ページの中ほどのところでございます。土地改良事業費7,150万円は、蓼川用水路の長寿命化事業の270万円、それと下鶴井地区の圃場整備事業の670万円、蓼川大橋、新田橋の農道橋耐震化事業の1,710万円、蓼川大橋の農道橋長寿命化事業の1,230万円、ふるさと農道のり面安全対策事業の140万円、基幹農道長寿命化事業で広域農道の舗装修繕の2,250万円、蓼川堰右岸側の下流護岸の補修事業の880万円です。説明は以上です。

○分科会長（浅田 徹） それでは、説明は終わりました。

質疑はございませんか。

上田委員。

○委員（上田 倫久） 農林水産課になると思いますけども、134ページに書かれとるコウノトリ育むお米ブランド化推進事業費の件ですが、こちらのほうの「メイドイン豊岡が世界に広がっている」という中にも書かれております。ナンバー27、事業名、コウノトリ育むお米ブランド化推進ということでされておるんですけども、これはいつまでやるのか、また何トンまでやるのかということを、2012年からされとるんですけども、ゴールがあるのかというのをちょっとお聞きしたいと思いますけども。

○分科会長（浅田 徹） 石田課長。

○農林水産課長（石田 敦史） 昨今、国内の需要についても人口減少というところで、お米の需要もだんだんと右肩下がりになっている状況です。一方で大きなマーケットがやはり世界にはあることから、やはり海外に向けていく必要があります。今現在アメリカ、シンガポール、オーストラリア、香港というふうなところを目指してやっているところです。

今どこまでかかっていうふうなところですが、最終的な目標というのは、JAたじまさんのほうが目標としては持たれていますが、今、資料等にもある中で、2月の25日現在で今年度でも14.83トンというふうな実績でございます。昨年が約18トンというふうな実績ですが、今まで以上の実績をやはり目指していくことになると思います。いつまでかかって言われるとちょっと一概にお答えはできないんですが、海外のマーケットはやっぱり大切にしていきたいというふうな考えの中で進めていきたいと考えています。

○分科会長（浅田 徹） よろしいか。

○委員（上田 倫久） はい。

○分科会長（浅田 徹） ほかに。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 何点かお尋ねしようと思っております。まず100ページの木質バイオに絡んで、ことしからペレット生産規制されましたよね。学校や公共施設にあるペレットストーブ、あれこ管理じゃないかしらんけども、あれどうするんです。も

う売ったら金になるし。いうことで。

○分科会長（浅田 徹） 石田課長。

○農林水産課長（石田 敦史） 公共施設のほうに、今整備導入をしておりますペレットストーブの関係でございますが、今現在、今年度については担当部、森林組合のほうでの豊岡ペレットで生産した分について、今年度の分については確保できてる状況でございます。来年度以降についてでございますが、当然市外から調達していくというふうなところで、購買事業として北但東部森林組合のほうも、それに向けた取り組みで協力を願えるというふうなところではあります。

公共施設の学校施設のほうに整備したペレットストーブについては、やはりここでやめるというふうなことではなくって、可能な範囲で続けていくと、継続していくというふうなところでおります。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） ことしの冬に一度も使っていないストーブが結構ありますね。知らんか。（「使っていないというか、使う必要がなかった」と呼ぶ者あり）

いやいや、そんなんでないよ。だから、そんなを一遍それはそれで調べてください、それをどうするかね。ここは担当課違うかしらんけども。高い金だったんでね、あのストーブそのものは。だから使わないんだったら有効活用すると。今の、売ってください、インターネットで、パソコンで。そんなんも活用もしながら。（「ペレット販売」と呼ぶ者あり）ペレット販売もぜひそれしてほしいなということ 생각합니다。

それから……。

○分科会長（浅田 徹） それは、何か意見ですか、要望ですか。

○委員（村岡 峰男） 要望です。要望にしといてください。後でまた言います。

それから218ページ、一番下に蓼川サイホンの管理費というのがありますね。これはこれでわかるんですけども、同じ蓼川から左岸、右岸、用水路が走ってますけども、なぜ左岸の蓼川だけサイホンの

管理費を使って、右岸の新川のサイホンは1円もここへ出せへんわけね。自分とこでやってとなってると思うんですが、不公平ちゃう。

○分科会長（浅田 徹） 川端参事。

○農林水産課参事（川端 啓介） ただいまのご質問にありました蓼川サイホンの管理費につきまして、合併前のころからの経緯がございまして、あそこ八代川が今の放水路向きにショートカットで放水路が出されることになりました。そのときに河川の管理者であります豊岡土木のほうで、それに交差します蓼川用水路が立体交差になりますもので、サイホン構造に補償工事でなさいました。ただ、サイホンにしたがために除じん機をその前に設置して、今後当面の間、地元の改良区で維持管理をしていただくために、ちょっと聞いたとこですけど500万円、そのときに県土木が補償金的になされたようです。そのときの覚書で、旧豊岡市と旧日高町と県土木の3者で、それと土地改良区と、その500万円の基金の利子、果実をもって維持管理費に充ててくださいということで着陸したようです。その利子が実際の通常の維持管理費に届かない場合は、旧豊岡市と旧日高町で補填しましょうというような経緯がございまして、合併後もこの覚書が引き継がれて、利子、最近利息が安いので、50万円弱程度は毎年市が補填するということでの補助金となっているように聞いております。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） いや、だからね、蓼川がそういう経緯があるのは前にも聞いたとるんだけど、不公平と違うんかと、新川のほうは1円にも出さずに、そりゃ経緯は知らんで、過去の経緯は知らんけども、同じようにサイホンがあって、除じん機は同じようにあって、なぜ新川は出せへん。過去の経緯は知らんがな、不公平と違うかというふうには思いませんか。

○分科会長（浅田 徹） 川端参事。

○農林水産課参事（川端 啓介） 不公平かどうかについて、お答えは差し控えさせていただきたい、ちょっとわからない部分があるんで

すが、基本的には移管された後は地元土地改良区の管理する施設という位置づけになっておりますので、これまでからそれぞれ、今のお話のあった施設以外につきましても、必要に応じて、既存の国県の補助制度を使いながら、市も必要に応じて市が補助をすべき内容、状況であれば補助をする、お手伝いをするということになっておりますので、今後そういう意味合いに合致することが出てくるようございしましたら、地元の意見も聞きながら、またその時点の市なり、回りの状況も検討しながら、そのことについてご相談をしながら結論を出していくということにさせていただきたいと思います。今の問いに対して明確な答弁ではないかもしれませんが、一般的な部分でそういう対応を今後もさせていただきたいと思います。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） ぜひ検討していただきたい。
新川の土地改良区から要望が出てるか出てないか、それ知りません。だけでも少なくとも不公平だという、過去の経緯はどうであれ、片方のサイホンには出て、片方には出ないというのは、僕は同じ円山川の右岸、左岸、同じようにサイホンがあって、そういうことだけ言っておきます。

それからもう一つ、宮下課長に言いたかったけどやめとくわ。例の問題。もうわかっているでしょうから、よろしくどうぞ。（「それ質問」と呼ぶ者あり）質問ちゃうで、要望。

○分科会長（浅田 徹） ほかにございませんか。
質疑あります方は。

青山委員。

○委員（青山 憲司） ちょっと2点確認をさせていただきたいと思います。

まず、去年から始まりました216ページの一番下段に農福連携があるんですけども、去年のお話ではちょっと画期的な取り組み事業だということで、水嶋部長のほうからもお話があったんですが、これとし12万円という、金額的には少ないんですけども、現状2019年度、こういった取り組みをされたのか、またその受け入れ農家、それから受け入れ

作業所等の実態と、来年度に向けての取り組みの内容について、ちょっと教えていただけますか。

○分科会長（浅田 徹） 石田課長。

○農林水産課長（石田 敦史） 2019年度の取り組みといたしましては、検討委員会という組織を8名の構成員で立ち上げて協議をさせていただきました。その中には、当然農業者であつたりとか、施設の雇用者側のほうの、障害者側のほうの雇用の組織のほうと、それとJAであつたり、社協であつたりというふうなところの職員も交えて、計8名の協議会を立ち上げさせていただきました。その中で、やはり農業者側のほうの賃金の扱いであつたりとか、要は就労側の、施設側のほうの賃金の折り合いだつたりとかというふうなところで、大きないろんな課題が見えてまいりました。やはり金額的な問題であつたりだとか、作業の内容であつたりとかっていうふうなところで、今後まだまだもう1年かけてやはり検討していくために、2020年度についても引き続きこの検討委員会で再度もう少し深いところで検討を深めて、2021年度からは一つの方角性を出した中で、こういった農福連携が確立していけばなというふうに思っております。

2019年度も実際のところ、先進地視察で島根県の松江のほうに行かせていただきました。やはりその中でも、行政側というんでしょうか、島根県が相当力を入れておるようございまして、なかなか今農福連携、兵庫県挙げてというふうな立ち上げというのはなかなかその点はやっぱりおけているのかなというふうに思っています。行政側の我々豊岡市といたしましては、農業の担い手、労働力の不足というところはやっぱりこういったところで確保していく必要もあるし、施設側の障害者側にしても一つの自立支援という立場で、この農福連携が確立できたらなというところで、2019年、2020年度で最終方向性を示していきたいと思っています。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 今の模索する中で、こういった取り組みを進めていくっていうのは、方向性とし

ては間違っていない、しっかり進めていただきたいという思いがある中で、作業所に今入所されてる方の月間の賃金というのはどれぐらいかご存じですかね。本当に微々たるもんなんです。月に1万円とか2万円とか、多くても2万円あるかないか、1万円ちょっとぐらいなんです、月の。だから賃金がなかなか見合わないというのは、今の受け入れ側がどれぐらいの期待をされているのかっていうのがわかりませんけども、作業される方はすごい一生懸命やられるんですよ。これやっといってくれて言ったら、もうそのことをずっと集中してやられるんで、そういう意味では、私らみたいな凡人よりもよっぽど作業は一生懸命やられる方ばかりですんで、そのあたり最初はすぐに作業としては効率上がらんかもわかりませんが、その辺の研修だとか、今の作業業者の方の研修だとか、ちょっと長い目で見てもらうような方策で取り組んでいただきたいなと、これはもうお願いをしておきたいというふうに思います。

それからもう1点、これはちょっと別の事業ですが、次の218ページ、先ほど農業用施設の管理費の中で説明があったんですが、神美トンネルの照明の設計に、私の聞き間違いかも知れませんが、550万円の予算が今回組み込まれてるというふうにお聞きしたんですけど、照明の設計に550万円って、ちょっと高いん違うかなと思ってね、お聞きしたんですが、どんな内容の設計なのか、トンネルの照明のことなんですか、どんな内容なんですか。

○分科会長（浅田 徹） 川端参事。

○農林水産課参事（川端 啓介） このたび国庫補助事業にのっとって、現在ナトリウムランプの照明がついているんですけども、LED化を推進するに当たっての検討、詳細設計となっております。トンネルの照明の設計の際に、野外輝度、トンネルを出たところの外の明るさというようなもの、人間の目というのは明るいところから暗いところ、暗いところから明るいところに急に出ますと、一瞬目がホワイトアウト、ブラックアウト、目が見にくくなりますの

で、その辺の野外の明るさと、トンネルに入ってきたところの暗さで、その道の想定されてる走行スピード等で、まずLEDランプになったときの明るさを照らし合わせて配置とか照度を計算していかないといけないことになっております。その辺の照度や配置の設計と、それから灯具、設備ですね、ランプだけではなくて、そのランプ配線、それから操作する分電盤、もろもろ一連の灯具や設備についても、改めて設計をし直すということになってまいりますので、一定ランプをかえるだけというような設計でないの、そのような金銭的になってくるということで、ご理解をお願いしたいと思います。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） トンネルの照明いうと、今のここが初めてナトリウムからLEDにかわるわけではないと思うんで、一般の例えば高速道路、自動車専用道路だとか、ああいったところも相当そういった運用では設計もされてきとるのではないかなと思うんですけど、だからここが初めてっていうんだったら、それもわからんでもないんですけども、設計だけに550万円というのは、ちょっと何か高いような気がするんです、私は。例えば北近畿自動車道なんかでもトンネルたくさんありますよね、電気の配置というんか、照明の配置なんかもあるし、分電盤だとか、その辺もそんなに難しい設計が必要なのかな、ちょっと気になったとこなんですけどね。

これはどんなところに設計業務というのは出されるんですか。例えば指名競争になったときに、どういった業者がこういった設計のあれに入ってくるんですかね。

○分科会長（浅田 徹） 川端参事。

○農林水産課参事（川端 啓介） 一般的といいますか、そういう道路関係、設備関係の、設備の設計もするコンサルタントに出すような、指名願の出ているコンサルタントに指名を出すような形になるかと思います。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 予算も出して、設計ということなんですけども、一度そういう高速道路、自動車

専用道路だとかいうところの設計業務とどう違うのかっていうところは、一遍調べて発注はお願いをしたいなというふうに思います。ちょっと高いような気がします、私は。

○分科会長（浅田 徹） 川端参事。

○農林水産課参事（川端 啓介） 積算基準もごさいますし、国の補助事業に、当然この設計も補助の対象になるように設計をしますので、県の審査を受けたり、基準がごさいますものは、国、県の基準に基づいて設計に関しても行っていくしますので、適正な形で積算基準のもとを積算をして額が決まってくるということになろうと思います。それが入札の結果、幾らで落札されるかはまた別の話だと思われるので、当然そういう国、県の指導も仰いで、できるだけ効率的になるような設計の検討も市としてもしまして、積算のほうには臨んでいきたいと思っておりますので、本日答弁したことが明らかに違うようなことがございましたら、また報告はさせていただきますと思いますけど、そういった基準のっとして発注してまいりますので、適正な金額での執行になってようかと考えております。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 特殊な設計業務というふうに、私ちょっと見れないんで、机上での設計と、あとは計算して現地の測量だとか、その辺をするだけに金額的にどうかなというふうな思いがありましたんで、意見だけ申し上げておきたいと思います。詳細設計で変わればそれはそれでよしとしたいと思います。わかりました。よろしいです。

○分科会長（浅田 徹） ほかにございませんか。
松井委員。

○委員（松井 正志） ことし暖冬だったんで、鹿がごっついふえるんじゃないかって心配しとるんですけども、これまで出てこないような時間帯に、なおかつ出てこないような場所にも、僕らが見とるだけでもふえてるような気がしてしゃあないんですわ。狩猟班や今回の流し撃ち部隊の創設とか、いろんなやり方をされて、こっちは努力されてるのよくわかるんで、それは評価させていただくんですけども、そ

れでもやはり追いつかへん。自分たちの身の回り、地域の身の回りを見ても、金網柵をしたり、バッファゾーンをつくったり、それからそれぞれ個別に電気柵を張ったりして防いではおるんだけど、それでも突破されたり、侵入されて、なかなか方法がもうないんだわな。この後どうするのかなというあたり考えることと、それからどんどんふえてきて、それを狩猟して処分せんなんときに、地域によっては農家へ処分せえって言われたって、できんようなところがあるというように聞いとって、ほんでちょっとほったらかしみたいところで、どういったらいいのかな、かえってふやす、餌を山の中に置いとくような状況になつとるところもあるって聞いとんだけんな、そこら辺の実態であるとか、そういうときの対策ってどうしたらいいか、どういうふうに指導してあげたらいいんだろうかなと思って、何かアドバイスがあれば教えてほしいんだけど。

○分科会長（浅田 徹） 石田課長。

○農林水産課長（石田 敦史） 松井委員ご指摘なことは、私たちが存じておるところでございます。例えば豊岡市内の捕獲頭数で、今現在の状況でございます。2月末現在で有害捕獲のシカの頭数が4,097頭で、昨年が3,833頭、同時期で。一番ピークが有害捕獲の中で、2015年のときが4,800頭を捕獲してました。それから比べると約800頭近くは捕獲頭数は減ってはおるんですが、一概にこれが本当に生息頭数が減ってるんかというふうなご指摘もあるんですが、ただ、豊岡市内の中でも地域を見ますと、やはり出石、但東がやっぱり過去から見ますと、かなり減ってはきてます。それが片や西向きに被害、生息頭数が広がっているのは確かです、日高の神鍋、竹野町というふうなところで、西向きにかなりふえてるのが現状です。特に竹野を見ますと、2016年度では鹿捕獲では、有害では521頭が、今現在2月の状況で800頭超えてるような状況です。生息頭数は兵庫県下の中で豊岡市がこれまではずっとやはり断トツで1位だったんですが、それが今現在、香美町のほうに、やはり西向きに生息頭数は広がってまして、生息頭数で

いえば、県下では香美町が1番で、2番は豊岡というふうなところですが、ただ、西向きに広がっているから、豊岡市の捕獲活動を緩めるんじゃないかって、鳥獣対策員2名おるところと、今、地域再生協働員の、昨年10月から雇用してありますが、その3名でもってやはり捕獲圧は、先ほど申し上げてるように、流し撃ちの部隊を編成するなどしてやっていく方法、それと広域的に思っているのが、これは香美町との調整もごさいますが、やはり広域的な町域、市域の境のあたりを中心とした捕獲圧をかけていくというふうな取り組みが当然必要じゃないかなというふうに思ってます。

当然捕獲については、各地域の区長さんないし農会長さんを通じて、それぞれの捕獲班の支部のほうに連絡をいただいて、現場を確認するなりした連携の中で捕獲体制をやはり強化していくことが大切ではないかなというふうに思っています。いい方法があればというふうなところでのご指摘ではございますが、やはりその辺の地域と行政との連携でもって、捕獲圧を緩めることなく進めていくというふうなことが大切ではないかなというふうに思っています。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 水嶋部長。

○コウノトリ共生部長（水嶋 弘三） 今、課長が申し上げたとおりなんですけれど、捕獲と防除だけではもう多分立ち行かなくなるんじゃないかなとも思っています。ですので、森林環境譲与税なり、緑税を使って、山の整備をやったりきっちりこれからは計画的にやっていくことで、例えば野生動物共生林事業だとか、本会議でもありましたような、例えばバッファゾーン的なところ、やはり里に出てこないような仕組みを考えていこうにしないと、いつまでもイタチごっこなのかなと思っていますので、やっぱりこれを機会に譲与税がどんどんこれから国から譲与されてきます。それを適切に使う中で、やはり山の整備をすること、それは治水治山にもかかわってくることであり、やっぱりその方向を捕獲と防除は当然続けていくんですけども、鹿、野生動物、あんたらが住むのは山ですよというふうなや

はり持っていくような仕組みを考えていかないと、多分しんどいのかなと最近思ってます、やはりそれには譲与税を活用した、それをどういうふうに適切に使っていくかは、また別の議論になると思うんですけども、その時期に来ているのかなと思っています。

あと埋設について、もう法的に適切に埋設をということが決まっていますので、今その辺にほったらかしという話は聞くんですが、それは我々としてはわかりましたということではなく、あくまでも適切な埋設をしていただくということで言い続けていかなければならないと思っています。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 松井委員。

○委員（松井 正志） 埋設は、見とるときだけではなくて、小集落というんか、人口規模の少ない集落なんかでは、なかなか農会とか役員でやっていただいとるんだけど、現実としてはそういう厳しい状況ができつつあるということだけ認識をしておいていただきたいと思います。

それから、山の中に人が入れば、野生動物が出てこないというのは、高知県佐川町といって、自伐型林業で日本でも大変すばらしい地域やまちがあって、そこで積極的に取り組まれてるところの話を聞くと、自伐型で少ない経費で多くの方が山に入ることによって、鹿やイノシシが出てこなくなったというのは、実際に現場でそういう実態があるようで、部長が言われたような対策というのは大変大事だろうと思いますので、ぜひそういうこともやっていただきたいと思います。

○分科会長（浅田 徹） 石田課長。

○農林水産課長（石田 敦史） 先ほども部長も答弁申し上げましたが、やはり災害につながらない森づくりのためにというふうなところで、当然先ほどありましたように森林環境譲与税の使い道、それと現行の予算の中では、兵庫県がやってます県民緑税の事業がございます。そういった取捨選択をしていく中で、今回森林ビジョンをこの2カ年かけて策定していきたいというふうに考えてますので、その森林のあり方に関連して鳥獣害対策にもというふうな

ところで、ビジョンづくりにはそちらも視野に入れて取り組んでいきたいというふうに思います。以上です。

○委員（松井 正志） もう一つ。

○分科会長（浅田 徹） 松井委員。

○委員（松井 正志） 農業スクールについてですけども、資料でも20人が入校されて、うち11人が市内に就農ということでしたかね。ということは、ほかにも市外で就農された方もあるのかどうかということと、農業スクールそのものには、要するに市外就農だとか市外での自営だとか、そういう条件がついてるものでしょうか。同じような例で、アルチザンのかばん職人のスクールでは、ことし10人卒業されて、1人だけが市内企業に就職されたということなんです。（発言する者あり）2人でした。2人、ごめんなさい、そのかわり8人の方は豊岡市内以外のところで就職や起業されたかわかりませんが、されるということなんですけども、農業スクールについては、そういう何か市内営農、そういう条件があるのかどうか。

○分科会長（浅田 徹） 石田課長。

○農林水産課長（石田 敦史） 豊岡農業スクールは、平成27年のときに事業が始まったわけなんですけど、基本はやっぱり市内に雇用就農、あるいは独立自営というふうなところでの条件を構えています。ですので、先ほど説明させていただいた中で、2019年度末で20名が今まで入校した状況である中で、17名が既に卒業、そのうち3名が雇用と独立自営が13名というふうな状況で、市内に全て就農したというふうな状況でございます。

○分科会長（浅田 徹） 松井委員。

○委員（松井 正志） ということは、市内のそういう農業者ふやす大きな原動力があったということで、それは評価できるということではないですか。（「はい」と呼ぶ者あり）わかりました。

○農林水産課長（石田 敦史） それともう一つ。

○分科会長（浅田 徹） 石田課長。

○農林水産課長（石田 敦史） 農業スクールにも関連してくるわけなんですけど、そのスクール以外にも

認定新規就農者が13名、それと、これは国の制度を活用した農の雇用事業というのがあるんですが、これは雇用就農につなげていくというふうなところで、それが2名というふうなところで、スクール以外でも15名、市内に就農しております。以上です。

○委員（松井 正志） わかりました。結構です。

○分科会長（浅田 徹） それでは、質疑を続けます。

椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 済みません、打ち切りのところを。

ちょっと教えてほしいんですけど、宮下課長、戸島湿地は湿地も建物も含めて、あれは豊岡市の持ち物ね、加陽湿地は、交流館は市のあれだろうけども、あの湿地というのは国がメインなのかな。大きな災害や洪水があったときに、あれをまたもとに戻す再生事業、当然いろいろあると思うんですけども、当然大きな目的があって、ロマンがあって、ああいうものをつくってきたわけだけでも、大きな災害が来たときに、これはどうあるべきというんか、どういうふうにこれから、補償というんかな、これをも一度再生するにしても大きなお金が要すると思うんですけど、これは市は市だから、国は国だから、国のことは別にいいとして、例えば戸島湿地なんかは、ああいうところ辺は今後何かそういう大きな災害が起きたときには、どのように考えているのかなということと、それからコウノトリって、最初コウノトリの野生復帰のころは、多分予算書なんかはコウノトリが結構オンパレードだったと、私は思うんですけど、きょうは見ると、コウノトリの予算が結構、コウノトリというものがたくさん出てくる、野生復帰だとかさ、もとはといえば県の事業なんだけども、お米のことはちょっと別にしてですよ、お米のことは別にして、それで、今後コウノトリに関しては、私は12月の一般質問でコウノトリのことは、もうそろそろコウノトリはほっといてやったらいいんじゃないのって言ったら、市長は、環境問題をまさかやめろとおっしゃるんじゃないんでしょうねっ

ていうことを逆に言われたんだけど、そんなことを言ってるんじゃないくて、まあまあコウノトリも自由に日本国中飛び回ってるんだし、もう150羽ですと、もっとふえてるんか、今。180羽ぐらい。（「170」と呼ぶ者あり）そうやろう、どんどんふえてくるんだから、もうコウノトリを自由にさせてやればいいんじゃないのっていうふうに思って、それ質問したんだけど、豊岡市がさっき言ったように、どこまで今後そういう湿地も含めて、コウノトリというものに対して対処というのかな、やっていくのかなというところ辺が、宮下課長の個人的な感想でも結構でございますんで、南極まで行かれましたそうですから、ちょっとそれをひとつご発表いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○分科会長（浅田 徹） 宮下課長。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） まず、戸島湿地の災害にあったときに、どこまでどうするのかというところなんですけど、今実際にあってないんでわかりませんけども、あそこの目的がコウノトリの餌場となるような湿地帯があって、巣塔の繁殖が毎年毎年行われてというシンボリックなエリアとして、湿地のシンボリックなエリアとして機能していかなければならないので、その機能が失われないような修繕をしていく予定です。加陽につきましても、川の堤外地というんですかね、あの部分の国交省管理分と市道を挟んだ山側の豊岡市が管理してる公園部分と2つあるわけなんですけども、国交省の方が言われるには、堤外部分の開放型湿地なり、閉鎖型湿地なりが災害でやられてしまったときには、機能が損なわれれば手を入れますと、泥がちょっと入ったぐらいで機能が損なわれていないんであれば、とりあえずそれはそのまま置いときますというような言い方をされておりますので、そこは我々と同じかなと、機能が維持できるように管理していくという対処の仕方が基本になるかと思います。

それから、今後のコウノトリ野生復帰の取り組みなんですけど、コウノトリ野生復帰の市の取り組みは、単にコウノトリの数をふやしていくとか、そういうことではなくて、やっぱりそれをシンボルとし

て、環境問題につなげていく、市長が言われてるとおりなんです。市長がよく言われる言葉に、川の水より魚が多かったってよく聞かれると思うんですけど、結局以前あった豊かな自然環境が、コウノトリたくさんふえましたけども、取り戻せてますかと、皆さんの子供のころに見た風景、魚がたくさんいて、虫がたくさんいて、鳥がたくさんいてという風景が取り戻せてますかって問うたときに、恐らく大多数の人は、いえ、まだです、まだまだ取り戻せてないというふうに感じられるのではないかと思います。ですが、そういった風景が取り戻せるまで、生物多様性の確保、豊かな自然環境が取り戻せるまでは、豊岡市としてはコウノトリ野生復帰というものをシンボルとして、市民を鼓舞しながらよりよい環境を取り戻していくっていう動きを続けると思います。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） コウノトリに対する熱い思いはよくわかりました。鹿とイノシシは逆なんですね。豊かな自然を取り戻しに彼らは来とるんだけど、それは我々にとっては取り戻してほしくないという、野生動物たちの対処は一つ、またそれも同様にお考えをいただきたいというふうに思います。

水嶋部長が、これから山の中に入って、君らは山から出てこなくていいよというふうに言ってくれると思いますんで、部長、卒業後はひとつよろしくお願いをいたしたいと思います。

○分科会長（浅田 徹） それでは、質疑を打ち切ります。

ここで、建設経済分科会を暫時休憩いたします。

午後2時24分 分科会休憩

午後2時25分 委員会再開

○委員長（浅田 徹） 建設経済委員会を再開をしたいと思います。

次に、第39号議案、令和2年度豊岡市太陽光発電事業特別会計予算を議題といたします。

当局の説明を求めます。

コウノトリ共生課、宮下課長。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） 第39号議案、

令和2年度豊岡市太陽光発電事業特別会計予算についてご説明いたします。

別冊の予算書178ページをごらんください。本案は、第1条で歳入歳出の予算総額をそれぞれ1億147万円と定め、第2条で一時借入金の借り入れ最高額を1,000万円と定めるものでございます。

歳入歳出につきましては、事項別明細書により説明いたしますので、ページは186、187ページをごらんください。一般管理費としまして、消耗品費、印刷製本品費等で14万7,000円、利子を含めました基金積立金で798万1,000円を計上しております。施設管理費では、山宮地場ソーラーにつきましては1,082万円、但馬空港地場ソーラーにつきましては2,231万5,000円、竹貫地場ソーラーにつきましては1,004万8,000円を計上いたしておりますが、この差につきましては、山宮につきましては、土地の借り上げ料が含まれております。但馬空港におきましては、物件の借り上げ料が含まれております。また、令和2年度の特徴的な事業としまして、山宮地場ソーラーと竹貫の地場ソーラーにつきまして、パワーコンディショナー、非常用電源、監視カメラの更新をそれぞれ予定しております。

188、189ページをごらんください。中段の諸支出金で、一般会計繰出金としまして4,913万9,000円を計上いたしております。

次に、184、185ページをごらんください。歳入につきまして、山宮、但馬空港、竹貫の各太陽光発電施設で発電する電力売り払い収入といたしまして、1億139万8,000円を計上いたしております。計算上、設備の発電量が毎年1%ほど減少していくというものを見込み計算いたしております。また、基金運用利子としまして7万円、前年度繰越金と預金利子で各1,000円をそれぞれ計上いたしております。以上で説明を終わります。

○委員長（浅田 徹） 説明は終わりました。

質疑はございませんか。

○委員（青山 憲司） よろしいですか。

○委員長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 山宮、但馬空港と竹貫と、それぞれ運開した年度、ちょっと教えてもらえます。

○委員長（浅田 徹） 宮下課長。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） それぞれの事業開始した年度でよかったですね。

○委員（青山 憲司） はい。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） 山宮地場ソーラーにつきましては、平成24年度、25年度、26年に分けて、第1機と第2機を稼働しております。但馬空港地場ソーラーにつきましては、平成25年度末、竹貫の地場ソーラーにつきましては、平成27年度に第1機も第2機もそれぞれ稼働しております。以上です。

○委員長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 先ほど年1%減少見込みで、予算を計上されているということなんですが、この1%は発電効率という意味合いですかね。

○委員長（浅田 徹） 宮下課長。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） 製造メーカーの計算によります発電効率の減少割合ということになります。以上です。

○委員長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） それじゃ、各ソーラー、山宮と但馬、それから竹貫のそれぞれのソーラーの発電効率は新設のときで何%だったかというのご存じですか。

それはあとでいいですけども、聞いてるところによると、当初、カネカさんですよ、全部ね。カネカさんのソーラーパネルの発電効率というのは、いろんなメーカーの中でも一番悪いという、以前ね。今はそうでもないみたいですけども、よくなったというふうには聞いとるんですけども、その発電効率が悪い中で年間1%ずつ下がっていくと、もう山宮なんかは大方8年から経過もしてますし、特に環境としては余りよくない、この但馬の環境もあって、発電効率そのものがいつまで維持していくのかなと、むしろこれからの管理運営のほうに予算が十分使われていくようなことにはなりはしないかと、今先ほど説明がありましたように、非常用電源だとか、

あるいはパワーコンディショナーだとか、そのあたりの設備がやっぱり定期的にメンテしていく必要があると思うんですけども、そういう意味では、今までと同じような発電、売電の効果というのはだんだん期待できなくなってくるというふうに思ってるんです。家庭用だったか、私うろ覚えであれなんですけども、発電効率というのは10何%だったというふうに記憶してるんですけど、ちょっと一度、発電効率、一遍調べて教えていただきたいと思えます。新設のときの発電効力で結構です。そのあたりのことで、太陽光発電事業の今後の方針をちょっと心配してるんで、そのあたりのことも含めて、いつまでこの事業は長期的にやっぱり財政的な面も含めて計算、管理していく必要があるというふうに思いますので、そのあたりについて、もし今お考えのことがあったらお聞きしたいと思えますけど。

○委員長（浅田 徹） 宮下課長。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） 私が聞いておりますのは、FITを使いまして、20年間運用していくということで、まず20年の収支の積算をして、大型の修繕に備えた積み立てであるとか、20年たった後、撤去するということが基本に設計されておりますけども、その撤去費の積み立てであるとか、全てを加味しまして収支が成り立つ、損はしないという計算の上でメガソーラーの建設にスタートしているというふうに聞いております。

現在も、順調に一応発電はしております、積み立ても順調に行っております。これははっきりしたことはわからないんですが、20年といひましても、21年、22年過ぎても、太陽光パネルはしばらくは使えるだろうというふうに聞いておまして、それが可能であれば、その20年を過ぎた以降の発電量は真水的に利益となるのではないかなというふうに聞いております。何年まで持つのかということとはわかりませんが、一応大型修繕、撤去費用も含めた収支見込みというのを立てておりますので、大丈夫なのかなというふうに考えております。以上です。

○委員長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 20年FITの適用を受ける

ということで、固定の収入は入ってくると、発電量に見合った、入ってくると思うんですけども、長期的に当初の計算どおりに、今の時点でどういう状況にあるかというのを、順調だというふうに言われてましたけど、それを見て、今後20年の時点でどういうふうな経過をたどっていくだろうかということも、ぜひ検証しながら、確認しながら進めていっていただきたいなということを申し上げておきたいと思えます。

○委員（椿野 仁司） 今の関連でいいか。関連で、今。

○委員長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） その20年後に撤去するとか何とかって言ってたけど、お金を積み立てとるとするのはどこに積み立てとるん。

○委員長（浅田 徹） 宮下課長。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） 太陽光発電の基金がありまして、そちらに積み立てております。

○委員（青山 憲司） 売電価格の何%とかも。

○委員（椿野 仁司） いや、だからどこに積み立てとるの。どこに。

○委員（村岡 峰男） 決算書は全部基金から出てるけども、予算書ではどこに出てる。

○委員長（浅田 徹） 予算書はそうだな。

○委員（椿野 仁司） 予算書にはない。

○委員長（浅田 徹） 宮下課長。

○コウノトリ共生課長（宮下 泰尚） 予算書にはなくて、決算書に載っておりますので、後ほどお持ちいたします。

○委員長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 現在、今どれぐらいあるの。わかるか。今、わかんない、それ。わかんない。なりやいい。また教えて。いいです、また後で。

○委員長（浅田 徹） それでは、質疑は終わりたいと思えます。

討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（浅田 徹） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決す

べきものと決定してご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（浅田 徹） ご異議なしと認めます。よって、第39号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、コウノトリ共生部の方は退席いただいて結構です。大変ご苦労さまでした。

ここで建設経済委員会を暫時休憩いたします。

再開は2時45分。

午後2時35分 委員会休憩

午後2時48分 分科会再開

○分科会長（浅田 徹） それでは、休憩前に引き続き建設経済分科会を再開をいたします。

次は、都市整備部に関する審査です。

当局におかれましては、新規事業、前年度からの大きな変更にあった事業及び主要事業等の議会説明に要する事業について、その概要を簡潔に説明があります。

なお、順番につきましては、歳出、歳入、債務負担行為、地方債の順に説明をお願いしたいと思います。

それから、質疑は課ごとの説明が終わった後に、一括して行いたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、順番でございますけど、建設課、都市整備課、建築住宅課、用地課の順に説明を願いたいと思います。なお、説明に当たりましては、必要に応じて、資料のページ番号をお知らせください。

それでは説明をお願いします。建設課の井垣参事からお願いします。（発言する者あり）

いやいや、まずはあくまで順番です。歳出を全部やって、歳入、それから債務負担という格好で、まず。

○建設課参事（井垣 敬司） もう今。

○分科会長（浅田 徹） どうぞお願いします。

○建設課参事（井垣 敬司） 予算説明書の135ページ、136ページをお開きください。136ページ、3行目です。城崎温泉街交通環境改善事業費と

いうふうなことで、こちら継続事業となっております。524万5,000円でございます。

続きまして、247、248ページをごらんください。上から4段目の5行目です。港湾統計調査費ということで、津居山港、竹野漁港の調査ということで1万……（発言する者あり）失礼しました。147、148でございます。大変失礼しました。

よろしいでしょうか。上から4段目の表の5行目をごらんください。港湾統計調査費でございます。津居山港、竹野港の入港調査1万9,000円でございます。

続きまして、247、248ページをお開きください。（「細かい、1万9,000円だけなら、もうええで、そんなもん。小さい数字よろしいよ」と呼ぶ者あり）

○分科会長（浅田 徹） どうぞ続けてください。

○建設課参事（井垣 敬司） 上から23行目をごらんください。急傾斜地崩壊対策事業費でございます。田結地区ほか14件を予定しておりまして、ここに記してあるような事業費を予定しております。

続きまして、一番下、最下段をごらんください。内水処理事業費です。こちら継続事業となっております。ページのほうをめぐってやっていただきたいです。山田川流域の内水対策といたしまして、敷地造成工事を予定しております。

続きまして、次の段ですね。人件費ということで、会計年度任用職員の報酬ということで、2行おりていただいて、操作員さん22名と補助員2名さん、合わせまして建設課所管の事業費が618万円でございます。

それから20行目をごらんください。排水機樋門管理費というふうなことで、例年どおりの事業でございます。重立ったところでは、保守点検委託料ですとか、維持管理委託料、一番下には補修工事費ということで、こちらは日高の鶴岡第9樋管の開閉装置を更新するというふうなことで500万円を計上しております。建設課の所管の事業費が、こちらについては1,858万7,000円でございます。一

番下の段をごらんください。緊急処理事業費です。例年どおりのことをごさいますして224万円を計上させていただいております。

また、次のページをごらんください。上から13行目です。道路橋りょう総務費でございます。重立ったところでは、23行目あたりの業務委託費、道路台帳の更新ですとか、おりにていただいて8つの組織への負担金、それからまたおりにていただいて4つの組織への補助金というふうなことで、こちらについても、建設課所管の事業費が1,025万2,000円でございます。同じ段の下から9行目をごらんください。道路橋りょう管理費でございます。以下にあるような事業を上げさせていただきまして、建設課所管の事業費が342万2,000円でございます。

一番下、ごらんください。道路維持事業費でございます。ちょっと次のページをまためくってやっていただきたいと思います。重立った事業といたしましては、3行目にある光熱水費以下、修繕料、委託料などがありまして、下から7行目に補修工事費とございます。こちらについては、補修については日高町赤崎の赤崎江原線ロックシェッドの補修ほか8件を予定しておりますし、側溝修繕につきましては、妙楽寺地内の千経寺線ほか6件を予定しております。さらに大規模な舗装修繕ということで、出石町福居地内の伊豆荒木線ほか7件を予定しております。合わせて3億3,920万円の補修工事費を計上しております。

続きまして、その下の段の下から8行目をごらんください。市単独事業費です。こちらは出石の町分丸野の道路かさ上げ、L=51メートルを600万円計上しております。

続きまして、日高町松岡でございます。池上・日吉線道路改良事業費ということで、延長153メートルを4,000万円を予定しております。

その下です。こちら日高の山宮になるんですが、栃本太田線道路改良事業費というふうなことで、延長110メートルを3,900万円計上させていただいて、2020年度に何とか完成をさせる予定で

おります。

次のページをごらんください。上から2行目です。こちら豊岡の九日市下町になろうかと思ひます。八条線の道路改良事業費というふうなことで、八条小学校から国道426号線までの間、幅員狭小区間の解消でございます。70メートルの工事を2,000万円を予定しておりますして、こちら2020年度に完成をさせる予定でございます。

次の段の上から4行目をごらんください。雪害対策事業費でございます。重立ったところは、やはり16行目になるんですが、業務委託料というふうなことで、除雪業務の作業を含めまして、ここにありまして、1億3,785万円というふうな大きな額を上げさせていただいておりますし、22行目になるんですが、補修工事費、城崎の湯島地内の290メートル、駄坂445メートルの補修と、ノズル更新は、竹野町上町でよろしいんですかね、160カ所を予定しておりますして、合わせて3,460万円を上げさせていただいております。

その他、次です。事業用備品ということで3,500万円を計上しておりますして、こちらのほうは2年連続になるんですが、日高地域の除雪ドーザーの更新をしたいと考えております。

その下です。橋りょう維持事業費というふうなことで、以下にあるような事業を上げさせていただいております。

上から7行目、橋りょう長寿命化事業費をごらんください。こちらについては、委託料のうち詳細設計で河谷橋ほか17橋を4,500万円予定させていただいてますのとあわせまして、補修工事費といたしましては、結和橋ほか17橋です。こちら2億4,000万円を上げさせていただいております。合計、ちょっと触れさせていただきます。2億8,619万円を計上しております。一番下の段になります。1行目に、栃江橋整備事業費というふうなことで4,300万円を上げさせていただいておりますして、こちらについても2020年度に新橋、新しい橋のほうは完成させたいというふうに考えております。続きまして、上野橋整備事業費です。4,

300万円を上げております。

また、済みません、めくってやっていただいて、上から3行目をごらんください。交通安全施設整備事業費というふうなことで、5行目に整備工事費とありますが、その下の防護柵については、出石の町分4号線ほか2件を予定しておりますし、グリーンベルトにつきましては、豊岡の三江小学校校区の日撫庄境線ほか2件、さらに、区画線については、豊岡の前の大開通りですか、ほか3件を予定しております、総事業費が4,919万円上げさせていただいております。

その下です。生活道路排水路整備事業費というふうなことで、出石町出合市場などの、地元要望にお応えするような形で生活道路排水路を整備していきたいと考えております。その他、西花園、奥岩井、妙楽寺などを予定しております。

下の表の12行目をごらんください。河川総務費です。こちらのほうも、以下にあるような事業で、とりわけ負担金については、ここにありますが3団体、その下の補助金については4団体を予定しております、こちらも建設課所管の事業費を申し上げます。302万6,000円です。

さらにもう1枚ページをめくってやってください。一番上の表の4行目をごらんください。河川改良事業費です。しゅんせつ工事費といたしまして、豊岡の江野地内の上坂川、竹野町の須谷川、日高の上郷川などを予定しております、総事業費が1,240万円でございます。

続きまして、2番目の表の1行目。こちらは港湾管理費として、以下のとおりの事業を計上させていただいておりますし、上から9行目をごらんください。海岸環境整備事業費というふうなことで、こちら12行目に業務委託費とあります。こちらは、台風時などの緊急対応のための経費ということと、あと2行おりにいただいた事業委託料というのが通常業務の管理というふうなことで、対象が、小島岸壁、気比の浜、竹野海岸などでございます。

建設課の主要な歳出の説明は以上です。

○分科会長（浅田 徹） 次は、都市整備課、富森

課長。

○都市整備課長（富森 靖彦） それでは、予算書の93、94ページをお開きください。94ページ、説明欄の一番下です。公共交通対策費となります。その中の、94ページにつきましては、鉄道交通対策事業費ということになります。総事業費4,186万3,000円。

1ページめくっていただきまして、次の96ページですが、主なものといたしましては、上から少しおりたところに補助金というものがあります。これにつきましては、北近畿タンゴ鉄道株式会社へ改良工事、それから線路、車両の維持、それから軽油タンクの更新などの費用に対しまして、沿線自治体として補助をするものです。

その下です。バス交通対策事業費となります。これはバスに関連する事業です。これは、もう少し下にも公共交通利用促進事業費とありますが、どちらもバス対策の事業費となっております。

主な事業内容ですが、バス交通対策事業費のところの上から9行目に修繕料とあります。964万円ですが、これにつきましては、この4月から地域ドライバーの参画などによって、新交通モードとして運行いたします市営バス・イナカーの竹野海岸線におきまして、バスの車体のラッピングや修繕等ということで費用を上げさせていただいております。

それから、もう少し下にあります業務委託料。これにつきましては、バス運行管理業務といたしまして、イナカー、市内の8路線の運行委託。それから、その下のバス路線等公共交通再編調査支援業務につきましては、先ほどの竹野海岸線におきましてさまざまな交通再編の調査を行います。それから、その下の事業委託料ということで、公共交通支援事業、これにつきましてはチクタクの4地区の委託料となっております。

それから、3行ほど下に行きますと、事業用備品とあります、2,279万8,000円。これにつきましては、市営バス・イナカーの車両2台、それからチクタクの車両、これを1台の更新費用を上げさせていただいております。

また、補助金につきましては、そこのバス交通対策事業費、それから公共交通利用促進事業費、どちらにもありますが、主に路線バスの地方バス等公共交通維持確保対策ということでの路線バスの運行費等への補助、それから、市街地循環バス・コバスの運行費の補助、それから、高校生通学バス定期券購入補助、e通勤バスの運行に対する補助などがあります。

続きまして、117、118ページをごらんください。ちょうど真ん中から少し下の欄になります。但馬空港利用促進費となります。

118ページの説明欄をごらんください。全体事業費は9,791万1,000円で、主なものといましては、各協議会等への負担金ということで、大きなものといましては、但馬3市2町97団体に組織しております但馬空港推進協議会への負担金1,515万9,000円、それから利用助成を主に対応しておりますコウノトリ但馬空港利用促進協議会への補助金ということで7,762万9,000円を上げさせていただいております。

続きまして、135、136ページをごらんください。地方創生推進事業費の中の、ちょうど上から2つ目の項目です。但馬空港利用促進事業費ということで1,124万円を上げさせていただいております。これにつきましては、来年度で5年目となりますJALさんとの共同プロモーションということで、具体的には、航空機内誌やJALのホームページへの情報発信、それから首都圏での広告掲出、それから、今年度に引き続きまして、写真愛好家対象のモニターツアーなどを実施して、地域活性を促す大交流の実現に不可欠な羽田直行便の開設に向けた取り組みをするものです。

続きまして、259、260ページをごらんください。土木費の都市計画総務費です。260ページの一番下です。都市計画審議会委員さんの報酬ということで19万6,000円。

1ページめくっていただきまして、262ページの説明欄の一番上ですが、城崎の歴史的建築物保存活用専門委員会委員さんの報酬ということで6万

円を上げさせていただいております。

また、同じページですが、真ん中あたりに都市計画総務費ということではありますが、主な大きなものといましては、ちょうど真ん中あたりの業務委託料ということで、都市計画図の修正を上げさせていただいております。

それから、その同じページの土地利用規制対策事業費、それから都市計画基礎調査事業費につきましては、それぞれ国土利用計画法に基づく、または、都市計画法に基づくさまざまな事務に対応するための費用を計上させていただいております。

もう1ページめくっていただきまして、264ページです。都市景観形成事業費ということで、これにつきましては、主なものといましては、一番下のほうに補助金というものをちょっと上げさせていただいております。これにつきましては、景観形成の支援事業費ということで25万円、それから城崎の歴史的建築物の保存活用ということで、計画策定事業ということで200万円の、225万円の補助金を予算計上させていただいております。

それから、同じページですが、真ん中より少し下につきましては、緑豊かな地域環境形成事業費、これにつきましても、条例に基づく事務ということで費用を上げさせていただいております。

その下ですが、豊岡駅前広場等管理費ということで、駅前広場の管理費ということで、維持管理委託料260万4,000円を上げさせていただいております。

その下ですが、城崎温泉駅前広場等管理費ということで、こちらも通常の維持管理委託料ということで101万8,000円を上げさせていただいております。

続きまして、1枚めくっていただきまして、266ページになります。公園管理費です。全体事業費は4,365万2,000円ということで、主なものといましては、ちょうどその項目の真ん中あたり、業務委託料ということで、公園管理ということで248万円、それから、少しおりまして、整備工事費ということで、神武山公園、それから山王公

園ってということで1,495万5,000円を計上させていただいております。この山王公園につきましては、ちょうど専門職大学の学生寮の建設地の裏手にある山王公園の安全対策工事ってということで上げさせていただいております。

それから、少しおりまして、公園施設長寿命化事業費ということで9,590万円を上げさせていただいております。これは公園施設長寿命化計画に基づきます都市公園の遊具、それから施設等の更新を行うものです。大きなものといましては、整備工事費ということで、そこに5つ公園上げさせていただいておりますが、トイレであったり、フェンスであったり、ベンチなどの整備工事ということで6,140万円。それから、その下の設置工事費、これは遊具になりますが、中央公園ほか2カ所の遊具更新ということで3,000万円を上げさせていただいております。

それから、次の欄にあります中央駐車場管理費ということで、立野の中央駐車場ですが、これも主なものといましては、維持管理費、維持管理委託料ということで734万円を上げさせていただいております。

その下の駅前駐車場管理費につきましては、アイティ豊岡株式会社に管理をお願いしてます分で、駐車料ということで、公用で利用しました駐車料の上限を超える部分について市が負担するということになってますので、30万円を上げさせていただいております。

続きまして、1枚めくっていただきまして、268ページの下欄になります。稲葉川土地区画整理事業費です。稲葉川土地区画整理事業につきましては、一応、予定といたしましては、2020年度で事業完了ということで予定しております。主なものといましては、業務委託料ということで、区画整理登記等業務、それから事業完成ということがありますので、竣工式の会場設営業務等ということで、合わせて1,430万円を上げさせていただいております。それから、整備工事費につきましては、最終の補完工事ということで、一部、市道の工事が

残っておりますので、その工事と、あと記念碑を立てようということで予定しておりますので、合わせて1,050万円の予定しております。あと、土地購入費ということで、市道整備に伴う必要な用地を買収するということで450万円を上げさせていただいております。

都市整備課では以上です。

○分科会長（浅田 徹） それでは、建築住宅課、山本課長。

○建築住宅課長（山本 正明） それでは、建築住宅課分、説明させていただきます。

資料269、270ページ、ごらんください。住宅管理費でございます。まず、一番頭ですね、人件費、委員報酬ということで10万7,000円。これは空き家等対策協議会委員さん8人分の報酬と。年3回ほど会議を予定しております。

ちょうど中段あたりになります、住宅管理費1億3,222万9,000円。このうち主なものとしてですけども、そこから6行ほど下ですね、修繕料2,377万円。これ市営住宅の退去された方の修繕とか、緊急修繕というようなものの修繕料でございます。

その下、また6行おりていただきまして、保守点検委託ということで651万4,000円。これ市営住宅の消防設備とか、エレベーター等の保守点検委託料でございます。

めくっていただきまして271、272ページ、ごらんください。上から8行目、補修工事費ということで8,853万円計上しております。主に内容としましては、ゼロ市債でも予定しております市営住宅の退去修繕とか分がございまして。それ以外に、市営住宅の中で、場所にしましたら元薬師、鶴岡、福住、エレベーター、これの改修工事。これ長寿命化計画に基づくものですけども、の改修工事費。あと、同じ長寿命化計画にのっております但東町の中山向町住宅の改修関係等でございます。あと、それ以外に、退去全般の修繕工事というような形の予算を計上させていただいております。

その下、7行目、住宅耐震改修促進事業費としま

して2, 725万2, 000円上げております。3行目に書いております業務委託料、耐震診断業務253万円。ご承知のとおり、昭和56年5月31日以前、旧耐震ということになりますけど、着工されました市内住宅の耐震化、これを、耐震診断を無料で実施するというので、80件分を計上をいたしております。

その下、補助金2, 459万9, 000円のうちでございますけども、まず、住宅耐震改修促進事業費1, 799万9, 000円につきましては、先ほど言いました耐震診断を行いまして評点というものが出ますので、それが満たない場合、耐震工事をする際に工事費の一部を補助するものでございます。

ちなみに、県の補助金、あと市の単独補助、あと県補助金の中に耐震ベットといったもの、これらの補助をするための経費でございます。

その下、住宅新築資金等貸付金回収事業費ということで、住宅新築資金等ということで、滞納者に対する徴収業務、これに係る事務経費を上げております。詳細は省略させていただきます。

その下、6行目になります。老朽危険空き家対策事業費1, 418万6, 000円ということで、空き家対策としまして、適正な管理が行われてない老朽危険空き家、これに対応するための措置の経費を計上するものでございます。内容としましては、項目をあげておりますけども、費用弁償から手数料、これも空家等対策協議会の運営等に関する経費でございます。

その下、業務委託料990万円、これです。990万円につきましては、特定空き家等の除却、これの一応、来年度、確定ではないんですけども、略式代執行1件、行政代執行1件に着手に向けてちょっと検討しておるということで、その業務委託ということで990万円計上させていただいております。

その下、2つ下になります、補助金399万6, 000円。これにつきましては、国県の補助制度を活用しまして、所有者の方が特定空き家を除却され

るときの費用、これを助成するものでございます。一応3件分を予定として計上させていただいております。

ちょっと飛ぶんですけども、281ページ、282ページをごらんください。下の段、災害対策費です。一番下から4行目のところに書いております災害対策事業費です。ちょっと項目だけなんで、次のページ、283、284ページの上から20行、中段あたりになりますけども、補助金としまして1, 148万3, 000円。これにつきましては、土砂災害特別警戒区域にあります住宅の除却、移転、これをされたときの補助ということで予算を考えとる。対象としましては、あと、ホテルとか旅館が防護壁等を設置されるような場合の補助も含めて、こちらに計上させていただいております。

歳出につきましては以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） 上野課長。

○用地課長（上野 吉弘） それでは、118ページをお願いします。118ページの一番下の欄から120ページ上段に記載しておりますけども、120ページの上から3行目です。但馬空港周辺用地管理費でございます。これのうち、維持管理委託料150万円でございますが、これは公益社団法人兵庫みどり公社から委託を受けました管理業務を市から地元区へ再委託しまして、地元での管理をお願いするための委託料でございます。管理委託地区は豊岡、日高、合わせて14地区でございます。管理内容としては、外周部の巡回・巡視、それから簡易な清掃、除草等でございます。

それから、ずっと飛びまして、247、248ページをお願いいたします。248ページの下段、用地対策事業費488万4, 000円のうち、11行目になります、業務委託料300万円につきましては、未登記箇所測量業務という業務でございます。これは市道の敷地内に何らかの理由で個人名義の土地が残ってしまっている場合があるわけですが、これを測量、分筆した上で寄附をいただいて、市の名義にするという業務でございます。31年度は3カ所実施しております。

未登記箇所といいますのは、昭和20年代から40年代にかけまして買収や寄附などで道路用地にしたものの、登記まで至っていないという箇所でございます。

用地課、以上でございます。

ほかは、あとは各所管の依頼に基づきまして、各課予算の中で対応しているという状況でございます。以上です。

○分科会長（浅田 徹） それでは、続いて、歳入について説明をお願いします。

井垣参事からお願いします。

○建設課参事（井垣 敬司） それでは、21ページ、22ページをお開きください。上から3つ目の表の、3行目という言い方でいいのでしょうか、急傾斜地崩壊対策事業費分担金というふうなことで、事業をいたしました箇所の地元からの負担金ということで415万円を計上しております。

続きまして、25、26ページをお開きください。上から3段目をごらんください。道路占用料といたしまして5,522万円を計上しております。こちらは関西電力さんですとか、NTTさん、ガスであったり、看板等々を想定しております。

続きまして、次の27、28ページをお開きください。手数料になります。下から2段目の2行目です。幅員証明手数料です、1,000円でございます。

次に、33、34ページをお開きください。一番下の段でございます。社会資本整備総合交付金というふうなことで、消雪装置の更新ですとか、除雪ドーザーの更新の関係で5,229万6,000円を計上しております。

4行おりていただきまして、防災・安全交付金ということで、以下にあります道路維持事業費、道路新設改良事業費、橋りょう新設改良事業費、橋りょう長寿命化事業費、合わせまして2億4,370万5,000円を計上しております。

一番下でございます。道路更新防災等対策事業費補助金です。こちらは桁江橋の整備事業です。2,310万円を計上しております。

次の35、36ページです。36ページの一番下をごらんください。地方創生推進交付金でございます。城崎温泉街の交通環境改善事業ということでございまして、建設課の所管する交付金といたしましては、262万2,000円でございます。

済みません、1枚まためくってやってください。37、38です。上から2升目の最下段になります。排水機樋門等管理委託金ということで2,737万5,000円。国と二契約を結んでの額というふうなことでございます。

続きまして、49、50ページをお開きください。上の表の2段目に、ひょうご地方創生交付金とありまして、こちらなんですけども、グリーンベルトの設置につきまして県から交付金がいただけるというふうなことで、建設課の対象額を申し上げます。525万円です。

続きまして、下の表になります。4段目の6行目をごらんください。港湾統計調査事務委託金を計上しております。

それから、8段目の2行目をごらんください。排水機樋門等管理委託金というふうなことで、国県から607万3,000円を収入予定です。

その次の段をごらんください。国県道歩道除雪作業委託金というふうなことで、延長79.6キロメートルになるんですが、359万2,000円を計上しておりますし、その下、国道パーキングエリア管理委託金というふうなことで、こちらも県から、場所は豊岡の新藤、出石町の日野辺、但東町久畑でございます、220万7,000円を計上しております。

さらに、その下の段です。瀬戸運河水門管理委託金、海岸環境整備事業委託金、海岸緑地管理委託金というふうなことで、先ほど歳出のときも申し上げましたけども、小島岸壁、気比の浜、竹野海岸、竹野浜の緑地などの管理の委託金をそれぞれ計上しております。

続きまして、59、60ページをお開きください。60ページの一番下の段です。1行目の複写料でありましたり、一番下ですね、今度、頒布代でこうい

った額を計上しております。

次に、63、64ページをごらんください。真ん中どころになるんですが、上から22行目になります。光熱水費等使用者負担金のうち、下から16行目、15行目になるんですが、消雪ポンプと市道駅東西連絡線の関係で、こちらにあるように14万5,000円、4万6,000円を上げております。

最後でございます。69、70ページをお開きください。起債になります。上から2段目をごらんください。急傾斜地崩壊対策事業債2,290万円、内水処理施設整備事業債、こちら排水ポンプの福田の関係でございます、6,270万円です。その下です。道路整備事業債で、以下にあります6事業で2億450万円。その下、橋りょう整備事業債が、以下にあります3事業で1億8,010万円。下から2行目です。除雪機械整備事業債、先ほど申し上げました除雪ドーザーの更新です、1,050万円。一番下です。笑殺装置等整備事業債ということで1,700万円を上げております。

建設課の歳入の説明は以上です。（「原稿用意しとんるけええけども、これ説明しとったら、むしろ質問する時間あらへんで、これ。本当に」と呼ぶ者あり）

○分科会長（浅田 徹） もうちょっと要点絞って。

富森課長。

○都市整備課長（富森 靖彦） 24ページをお開きください。24ページのちょうど真ん中より少し上、総務管理使用料の中の説明欄のちょうど真ん中あたりにあります有償旅客運送使用料、これにつきましては、イナカーとチクタクの運賃ということで計上させていただいております。

続きまして、32ページをごらんください。32ページにつきましては国庫補助金ということで、一番上です、総務管理補助金、一番上の地域公共交通確保維持改善事業費補助金ということで、これはイナカーに係る国からの補助金となっております。

続きまして、36ページをごらんください。36ページにつきましても同じく補助金ですが、上から2段目、都市計画費補助金ということで、社会資本

整備総合交付金ということで、公園施設長寿命化事業費ということで、先ほどありました3,000万円の半分ということで、1,500万円を計上させていただいております。

同じページの一番下、地方創生推進交付金ですが、都市整備課分につきましては、歳出で説明いたしました但馬空港利用促進事業1,124万円の2分の1で、562万円を計上させていただいております。

続きまして、50ページをごらんください。50ページの下から3つ目の欄です。都市計画費委託金ということで、大きなものとしたしましては、都市計画基礎調査委託金ということで、毎年この調査費ということで県のほうから99万3,000円ということで計上させていただいております。

続きまして、60ページをごらんください。60ページの一番上になります。受託事業収入ということで、総務管理費受託事業収入、有償旅客運送事業受託収入ということで、これはイナカーの、香美町域を一部走ってる部分がありますので、香美町からの収入ということで、43万1,000円となります。

それから、1枚めくっていただきまして、62ページ、雑入です。ちょうど真ん中のあたり、委託料というのがありまして、その委託料の2つ目、建築確認業務ということで93万円。これにつきましては、建築確認の調査業務費ということで93万円を計上させていただいております。

続きまして、66ページをごらんください。同じく雑入ですが、ちょうど真ん中より下のあたり、補助金・交付金の欄ですが、その上から5つ目、トヨタ・モビリティ基金活動助成金ということで、これにつきましては、先ほど来言ってますイナカー、竹野海岸線の再編調査ということで1,137万3,000円をいただいております。

それから、次、68ページです。68ページにつきましては、真ん中のあたり、総務管理費です。これにつきましては、バス交通対策事業債、イナカーの車両更新分、それから鉄道交通対策事業債につきましては、北近畿タンゴ鉄道への補助金分というこ

とで計上させていただいております。

次に、70ページをごらんください。70ページの真ん中あたり、都市計画債です。これにつきましては、公園整備事業債ということで、先ほどの公園の整備工事分ということで5,930万円、それから稲葉川の区画整理の分ということで2,600万円を上げさせていただいております。

都市整備課は以上です。

○分科会長（浅田 徹） 山本課長。

○建築住宅課長（山本 正明） 23ページ、24ページをごらんください。総務管理使用料、上から4行目に書いております行政財産目的外使用料2,326万円、このうち303万4,000円は、所管しておりますお試し居住、大学生の入居、あとN T Tとか関電さんとか、そういったところの目的外使用料でございます。

めくっていただきまして、25、26ページをごらんください。中段になります。住宅使用料の2億5,975万8,000円。このうち、一番下、5行目に書いております移住促進住宅の使用料、これを除きました部分が建築住宅課の所管分で、その分としまして2億5,807万8,000円ということになります。記載のとおり、公営住宅、特公賃、あと出石改良住宅、それらの住宅使用料、そして駐車場の使用料でございます。

ちょっと飛びます。35、36ページをごらんください。上から3番目の欄、国庫支出金の住宅費補助金ということで、社会資本整備総合交付金2,440万円。内訳としましては、記載しておりますとおり、先ほど歳出で申し上げました簡易耐震診断、そして公営住宅等ストック総合改善、これ長寿命化計画に基づくエレベーターと申しました、これらの補助、あと民間の耐震改修助成事業費に係る補助、そして老朽危険空き家、それらに対する国の補助の分を計上しております。

その下、消防費補助金616万5,000円のうちの333万4,000円。これが1行目の社会資本整備総合交付金、崖地近接等危険住宅移転事業費ということで、歳出で申し上げました、土砂災害特

別警戒区域の住宅の除却等、付随する補助でございます。

47、48ページをごらんください。同様になります。土木費県補助金の住宅費補助金571万6,000円ということで、記載しております、国庫と同様のところがあります、簡易診断に係るもの、耐震改修助成ということで改修に係るもの、あと空き家に関するもの、それぞれ国庫支出金と同様の考え方で県の補助金でございます。

続きまして、めくっていただきまして49、50ページ、一番上の欄、消防費県補助金、災害対策費補助金407万4,000円、ちょっと先ほどダブっちゃいました、済みません。これ土砂災害特別警戒区域、住宅等の移転等に係る県の補助金ということで、国庫で説明したとおりの県補助分でございます。

57、58ページです。一番下に諸収入、住宅資金貸付金元利収入139万6,000円ということで書いております。それぞれ記載しております項目の現年度分及び滞納繰り越し分の元利収入ということで計上させていただくものでございます。

その他、財産収入、雑入等ございますけども、省略させていただきます。よろしく申し上げます。

○分科会長（浅田 徹） それでは、用地課、上野課長。

○用地課長（上野 吉弘） それでは、26ページをお願いいたします。26ページの上から2行目、法定外公共物占用料でございますが、これは里道水路等の占用に伴います使用料で、主な相手方と占用物件は、関西電力の電柱、N T Tの電線、豊岡エネルギーのガス管などでございます。これ非常に多く出てきてまして、前年度より10万円増額しております。

続きまして、50ページをお願いいたします。50ページの中ほどより下のほうの段、下から6段目でございますが、公共用地取得事務委託金でございます。これは県事業というか、県の公共用地買収事務を受託することによります県からの委託金でございます。委託金は実績額により算出されます。令和2年度の受託事業はまだ決定しておりませんけ

ども、前年度に予定しておりました実施できませんでした主要地方道豊岡竹野線、右岸取りつけの交付金事業、城崎町今津の、いわゆる城崎大橋の分ですけども、その分の10万円を計上しております。例年、100万円から200万円の実績がございますが、令和2年度につきましては、県事業の規模がぐっと縮小しているという状況でございます。

続きまして、62ページをお願いいたします。62ページの中ほど、諸収入の中の但馬空港周辺県有環境林管理委託金240万2,000円でございます。これは歳出でも申し上げましたが、公益社団法人兵庫みどり公社と管理委託契約を締結しているもので、先ほど申しましたように、巡視業務等の委託料でございます。これは35万円ほど減額しております。

ほかにつきましては細かくなりますので、省略いたします。以上でございます。

○分科会長（浅田 徹） それでは、債務負担行為について入ります。なしで。（「質問の時間がなくなっちゃうでな、要領よくやってえな」と呼ぶ者あり）

地方債も、こっち、地方債。

井垣参事、お願いします。

○建設課参事（井垣 敬司） 失礼します。8ページをごらんください。下から13行目です。急傾斜地崩壊対策事業費、その次です、内水処理施設整備事業費、1行飛んでいただきまして、道路整備事業費ということで、以下にある事業を上げております。

下から3行目をごらんください。橋りょう整備事業費ということで、次ページにまたがります3つの事業を計上しております。

9ページの2行目です。除雪機械整備事業債と、3行目、除雪装置整備事業債を計上しております。

建設課は以上です。

○分科会長（浅田 徹） 富森課長。

○都市整備課長（富森 靖彦） 8ページをごらんください。8ページの一番上、バス交通対策事業費、1つ飛びまして、鉄道交通対策事業費です。

それから、9ページをごらんください。9ページ

の上から4行目、公園整備事業費、それから1つ飛びまして、土地区画整備事業費。それから、一番下ですが、過疎対策事業債、これも一部、高校生通学バス補助ということで入っておりますのでご報告をさせていただきます。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 以上で説明は終わりました。

それでは、質疑はございませんか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 何ばかありますけども、まず、256ページ、八条道路のこの工事費なんですけども、用地買収は昨年度で全部終わったんですか。あそこ、お地蔵さんがあったでしょう。

○分科会長（浅田 徹） 井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 2019年度に用地買収も物件の補償も終えておるところです。

○委員（村岡 峰男） わかりました。

それから……（発言する者あり）いや、今から言うんだ。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 118ページ、毎回も言ってますけども、但馬空港利用促進の補助金の関係ですが、改めて内容を聞きますけども、まず、但馬空港推進協議会への1,500万円と補助金の7,700万円は違いますね、中身が。まず、それぞれの、どういうもんか、利用者はどう還元されるんかお聞かせください。

○分科会長（浅田 徹） 富森課長。

○都市整備課長（富森 靖彦） まず、但馬空港推進協議会への負担金1,515万9,000円、これにつきましては、但馬空港推進協議会では運賃補助も一部やっておりますが、飛行機が欠航したときの代替バスの運行であったり、空港利活用イベント、今年度につきましては25周年記念事業とかがありました。また、コウノトリ号の活用PR、フォトコンテストなどもしたりして、いろんなPRをされてます。また、旅行商品、あそこの屋久島などの旅行商品なども企画されて、実施をされております。特に屋久島の旅行商品なんかも昨年7月とかにや

られたんですけど、結構応募もあったということで聞いております。

それから、コウノトリ但馬空港利用促進協議会につきましては、先ほども言いましたが、主に利用者への運賃助成ということで、一般の利用者、それから当然ビジネスでの利用者、また、新成人になられた方であったりとか、小学生の社会見学フライトなど、さまざまな取り組みをさせていただいてまして、利用促進をしてるというような状況です。

ちなみに、利用者数につきましても、済みません、2月末現在で3万7,928人ということで、昨年度に比べましても、若干ですが、ふえておりますし、利用率につきましても67.2%ということで、昨年の同時期、昨年度、2018年度は66.5%でしたので、若干ふえてるというような状況です。

ただ、今年度につきましては就航率が全体的に悪かったということと、今ちょっと新型コロナの関係で、どうしても3月に入ってキャンセルであったり、利用が少ないというような状況がありますので、ちょっとこの先心配しているというような状況です。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 確認をさせてほしいんですけども、この運賃補助は豊岡市民に限るということですか。

○分科会長（浅田 徹） 富森課長。

○都市整備課長（富森 靖彦） 豊岡市民は当然ですが、あと、豊岡の会社とかに勤務されてる方、市民じゃなくても、という方も対象ですし、里帰り補助ということで、実家が豊岡であって、よそに出ておられるけど里帰りされるというような方も対象となっております。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） とすると、いわゆるインバウンドであるとか、観光で来る人と、よそのね、はもともとの本来の利用料金を支払ってもらったわけですね。

○分科会長（浅田 徹） 富森課長。

○都市整備課長（富森 靖彦） そのとおりです。

○委員（村岡 峰男） これは、それでいいです。

○分科会長（浅田 徹） ほかにございませんか。
椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 上野橋は、補正もあったりしてあれなんだけど、これいつできるの。予定は、完成は、ことしですか。これずっとやっとなと思うんだけど。

○分科会長（浅田 徹） 井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 令和4年には新橋を完成させたい、それ以降に旧橋の撤去が少し残るというふうな状況です。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 主な原因、1つぐらいでいいんで、何が原因かじゃあ言ってください。

○分科会長（浅田 徹） 井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） やはり川の中の工事でございますので、どうしても出水期に工事ができないということがございます。出水期、5月から11月までということになるのかと思いますけども、それを外した期間の工事である中、どういたしますか、仮設なんかの協議も、道路管理者である兵庫県さんとかになるんですが、あと関係権利をお持ちの方との協議とかというようなことではなかなか、特に仮設の関係が大きいかと思えますけども、そういったことが原因ではなかろうかと考えておるところです。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 幾つか道路の改良工事が上げとられるんだけど、基本的に側溝も入れたり、何かをいろいろ入れると単価も違ってくるし、それぞれの環境も違ってくると思うんです。およそ道路の工事費っていうか、道路の補修費は、メーター、以前聞いたら、45万円から50万円ぐらいだっけ聞いたんだけど、今の池上日吉線を見ると4,000万円だから、53メートルってさっきおっしゃったので、メーターで計算すると75万円ぐらいかかったらうんだけど、大体平均すると45万円とか50万円ぐらいですか、メーターは。どうでしょうか。

○分科会長（浅田 徹） 井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 池上日吉につきまして

は、どういいますか、ちょっと特殊なやり方という言い方もおかしいんですが、JRさんに、一つは近接しておるといことと、市道に農業用の用水路が結構大きいものがありまして、そちらを生かしながら、2次製品でふたをさせていただいて歩道部分を確保し、それに伴って、余分の土地がある部分で車道を造成していこうというふうなことで、少し通常の工事とは肌色の違う、特殊な工法で単価が高いんだというふうにご理解いただけたらと思います。

○委員（椿野 仁司） わかりました。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 余りめったに聞かない、今の用地課のほうにお聞きしたいんですが、というよりも、例えば森本中学校だとか、それから最近では乙女の湯だとか、いろいろと市有地でありながら、実はあけてみると、きちっと整理ができてない、土地のね。後から、そのことによって、せっかく事業を開始するのにおくれてしまうというようなことが間々あったり、後でしまったっていうようなことがよくあるんだけど、こういうことって、例えば都市整備部も含めてなんだけど、教育委員会もそうなんだけど、用地課に対して、何かそういうふうな、一応、投げかけていうんかな、多分、用地課が一番そういうことに対してはきちっと押さえてると思うんだけど、押さえてるから、ごめんな、だから、その辺は、一体そういった今までの横の連携っていうのはあるんですか、ないんですか。

○分科会長（浅田 徹） 上野課長。

○用地課長（上野 吉弘） 部署によって、事業によって、もう早目に相談に乗ってくるところやら、全く知らんとこで、全く我々、知らんとこで進めておりまして、去年の9月議会、それから12月議会、大騒動したわけですが、部署によってさまざまでございます。

それで、どういいますか、財産の管理というのが、いろんな議員さんにも聞かれるんですけども、財務という分野でして、用地課がやっておりますのは、新たに用地買収をする、道路つくるので新たに用地買収をするですとか、それから、里道水路の管理、

これはもともと財政課が持っておったものを26年度に用地課に押しつけられたわけですが、その2つが大きな2本柱でございますけども、それ整理をするという、話はわかりますので、中身はわかりますので、早目に相談してくれば、何ぼでも相談には乗るわけですが、ちょっと所管が違うということと、話があれば何ぼでも相談には乗っているというところでございます。ちょっと答えになってるかどうかわかりません。

○委員（椿野 仁司） わかりました。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 同じ市役所の中にあって、今言う、話があれば答えましようっていうことなんでしょうけども、応じましようなんでしょうけども、やはりこの辺はもうちょっと、ここだけの話じゃないんだけど、もう少しちょっときちっとその辺はルールを引くというか、情報がきちっとそういうことで交換できるようなコミュニケーションをとらないとおかしいと僕は思うんだけど、いかがですか。

○分科会長（浅田 徹） 上野課長。

○用地課長（上野 吉弘） おっしゃるとおりだと思います。この役目は、昔、私、財政課管財係というところにおりましたけども、そこで昔やってまして、そのときにはもうあらゆる土地に関することは一切引き受けておったんですけども、そういう部署が必要なのではないか、部署のこと、組織のことまで言うとなんなんですけども、そういう体制が必要であると思っております。

ただ、今の状態でも、わかれば、幾らでも、こっちからでも積極的に話はつついて、どないなっとなるんだというような話はしていきたいと思っております。あと2週間しかありませんけども。

○委員（椿野 仁司） そういう意味で聞いたんだ。

○分科会長（浅田 徹） 河本部参事。

○都市整備部参事（河本 行正） 委員、先ほど言われたとおりのことで、これから公共施設マネジメントで、こういうことに深く入っていきますので、その辺は原課と一緒に頑張って解決をスムーズにしていこうな、こちら心づもりでおりますので、よ

ろしくお願いいたします。

○委員（椿野 仁司） 委員長、いいですよ。

○分科会長（浅田 徹） ほかに。

青山委員。

○委員（青山 憲司） 済みません、258ページなんですけども、交通安全施設整備の事業費なんですけど、何カ所かあるということなんですけど、事業費そのものがちょっと少ないように思ったりするんです。

一般質問でもここの芦田副委員長からも、未就学児の事故防止対策で、数年前の事故を受けて78カ所のうち24カ所の対策が済んだということの報告もあったりしたんですけども、やっぱり交通安全対策についてはもっと予算も組んだりして、優先的にその事業をやってもらわなければならないかなと思うんです。

具体的に、このあたり予算が多い少ないもあるんですけども、地域要望で、そういった交通安全対策っていうのはもっともっていったい出てきとるん違うかなと僕、思うんだけど、そこに係る予算について、芦田議員の質問に対して、国の交通安全対策の補助制度もあるというふうな答弁だったというふうにメモをしとるんですけども、そういう意味では市内、特に市道の交通安全対策で、この予算で市内の各区長、地域から要望のあった対策のどれぐらいできてくるのかな、できるんかなっていうのちょっと教えてもらえませんか。何件ぐらい要望があって、交通安全対策に関する要望があって、今年度そのうちどれだけできるんかっていうのがわかりませんか。

○分科会長（浅田 徹） 部参事。

○都市整備部参事（河本 行正） ちょっと交通安全が幾らあって、こうという分類を分けてませんで、ご要望はあるっていうのが、極端に言えば、歩道をつけてほしいとかいうことで、当然、家の移転から始まらんとというんで、なかなか手出せないっていうのもかなり結構あったかと思います。その中でも、具体的に何とか実現できるようなものをピックアップして、予算要求はしております。

委員おっしゃいますように、足るか足らんかという話になると、お金のほうは幾らあってもいいですか、いいんですけども、やっぱりそこはいろいろとこの、市内、市の中での財政的なことも、当然、財政のほうの結果的には考慮してという格好でこういう予算のほうを上げさせていただくと、そういう状況でございます。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 交通安全対策ということであれば、優先箇所っていうのも出てくると思うですよ。事故が頻繁に起こるとか、あるいは人身事故が起こった場所だとか、あるいは今の学校の周辺の道路整備だとかいうことで、優先順位を決めてやっていくにしては、この予算で本当に十分足りるのかなっていうのはちょっと疑問として私あるんです。

やっぱり市民の命を守るっていうことを第一優先にされるのであれば、本当に交通安全対策4,900万円余りの予算っていうのは何か少ないような気がしてなるんです、私は。だから、何カ所かのグリーンベルトだとかいう説明もあったんですけど、もっともっと積極的に予算を組んでやってほしいなというふうには私は思うんです。これはもう本当に微々たるもんしかできない違うかなっていう気がしてなるんですが、そのことはちょっと意見として申し上げておきたいなというふうに思います。

○分科会長（浅田 徹） 河本部参事。

○都市整備部参事（河本 行正） ここは二種事業といたしまして、当然、区画線とか、そういった事業として、あと抜本的に、先ほど説明しました池上日吉につきましましては、あそこんところを何とか、路肩を歩いとる方が危険なんで、水路にふたをして歩道をつくるというのが目的でやとる事業であります。

それから、上野橋の、先ほどありました道路改良につきましても、あれも交通安全の一環ということで、歩道がないということで、そこに向けて道路改良をしておるといような側面も持ってますので、ちょっとこの費用については、ラインやなんかに

ついて、不足するといえは不足するんですけど、市の財政の中でやむなしなところで事業のほうをさせていただきとるということです、原課といたしましては、また一生懸命この必要性なんかはアピールしていきながら、少しでも、言い方変なんですけど、予算獲得に向けては努力をしていきたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 済みません、大分検討はされてると思うんですけども、地元の話で申しわけなんですけども、片鍋線の水路のふたについては、今、ふたの話が出たんで、ちょっと確認なんですけども、あそこの水路のふたについてはどんな進捗なんだろうね、歩道設置という意味での。

○分科会長（浅田 徹） 河本部参事。

○都市整備部参事（河本 行正） KTRからといいますか、今のKTRですね、あの近辺から……（「バイパスまで」と呼ぶ者あり）はい、バイパスに向けましては道路整備計画等に載せていって、何とか事業化できないかということで構造物の調査、それから次期の道路整備計画に下地として検討のほうを始めております。

私個人的にといいますか、KTRからスズキさんのところまでも非常に問題視はしております、そのところも何とか策がないかな。ただ、非常に民家の出入り口が、家の、要は水がつかないような高さに向けて橋がかかっていますんで、あれを整備しますと、出入りの問題と、それから歩行の問題で、平坦性の問題と、いろいろ両縛りのところを何とか解決方法がないかなということで、その辺についても検討のほうは、内部では行っております。

○委員（青山 憲司） よろしくお願ひします。

○分科会長（浅田 徹） よろしいですか。

○委員（青山 憲司） はい。

○分科会長（浅田 徹） 松井委員。

○委員（松井 正志） 予算につけられた資料の中の図面が大変見やすくなつて、最近。非常にわかりやすい図面つけていただいております。

1つだけ要望があつて、ルートがこうあつて、例えば吹き出しで2020年度施工とか書いてあつていいんだけど、書いてないところは太いところと細いところがあるんだけど、太いところはことし実施だと思ふんだけど、この細いところは実施済みなのか、これから実施するのかちょっとわからないところがあるので改善してほしい。図面は非常にきれいになってるし、わかりやすい。

○分科会長（浅田 徹） 井垣参事。

○建設課参事（井垣 敬司） 今、委員ご指摘いただきました、今後改善するように努めてまいりたいと思います。

○分科会長（浅田 徹） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（浅田 徹） それでは、質疑を打ち切ります。

以上で都市整備部の方は退席いただいて結構です。大変ご苦労さまでした。

暫時休憩をいたします。

再開は4時15分。

午後4時09分 分科会休憩

午後4時14分 分科会再開

○分科会長（浅田 徹） それでは、休憩に引き続き、建設経済分科会を再開したいと思います。

次は、上下水道部に関する審査を行います。

当局におかれましては、新規事業、前年度から大きな変更のあった事業及び主要事業等の議会説明を要する事業について、その概要を簡潔にご説明願ひます。

なお、順番は、歳出、歳入、それから債務負担行為、地方債の順でお願いしたいと思います。

質疑は、課ごとの説明が終わった後に一括して行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、水道課、下水道課の順に説明をお願いします。

なお、説明に当たっては、必要に応じて資料ページ番号をお知らせをください。

それでは、水道課、和田参事よりお願いします。

○水道課参事（和田 哲也） それでは、第32号議案、令和2年度豊岡市一般会計予算のうち、水道事業関係分についてご説明いたします。

一般会計予算書の203ページをごらんください。款4、衛生費、項1、保健衛生費、ページ中ほどになりますが、目10、水道費でございます。右ページの説明欄をごらんください。水道事業会計負担金を3億6,502万4,000円予定しています。これは水道事業への総務省及び市の繰り出し基準に基づくものでございます。

続きまして、歳入についてご説明いたします。

67ページをごらんください。下段の表の款23、市債、項1、市債、目4、衛生債でございます。右ページの説明欄をごらんください。水道施設整備事業債として、一般会計出資債3,270万円を予定しています。これは城崎・港給水区配水施設整備事業等の補助事業に対する繰出金に充当するものでございます。

続きまして、8ページをごらんください。第3表、地方債でございます。上から6つ目になりますが先ほど……。

○分科会長（浅田 徹） ちょっと待ってください。最初に歳出を……（「いや、もうこれで終わるんだろう」と呼ぶ者あり）

いい、このままで。

そしたらどうぞ、もうその順で言ってください。結構ですよ。

○水道課参事（和田 哲也） 済みません。3表、地方債でございます。上から6つ目になりますが、先ほど歳入でご説明いたしました水道施設整備事業費に係るものとして、一般会計出資債の限度額を3,270万円としています。

債務負担行為についてはございません。

以上、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○分科会長（浅田 徹） それでは、下水道、石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 32号議案、令和2年度豊岡市一般会計予算について、下水道課に関係します部分の説明をいたします。

まず、歳出でございます。

予算書の200ページをごらんください。環境衛生費の説明欄、最下段になります。浄化槽設置事業費補助金79万3,000円につきましては、浄化槽設置整備事業補助金交付規定に基づきまして、生活排水処理計画で定める合併浄化槽区域内の専用住宅への浄化槽設置に対し補助金を交付するものでございます。

次に、268ページをごらんください。最下段の下水道費の下水道事業会計負担金26億2,709万7,000円につきましては、総務省繰り出し基準等に基づく下水道事業会計への負担金としまして、雨水処理負担金、高資本対策に要する経費、企業債の元利償還金に対する交付税措置分、政策料金に係る料金不足額などが主なものでございます。

続きまして、歳入でございます。

34ページをお開きください。中央にあります衛生費国庫補助金の説明欄、循環型社会形成推進交付金26万4,000円につきましては、浄化槽設置事業に係るもので、事業費79万3,000円に対する補助率3分の1になるものでございます。

説明は以上でございます。よろしくご審議のほどお願いいたします。

○分科会長（浅田 徹） 説明は終わりました。

質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（浅田 徹） 質疑を打ち切ります。

これで、32号議案、令和2年度豊岡市一般会計予算について、説明、質疑は全て終わりました。

本来なら、ここで第32号議案に対する討論、表決を行うところですが、順序を入れかえ、先に第41号議案、第42号議案を審査したいと思います。ここで建設経済分科会を暫時休憩いたします。

午後4時20分 分科会休憩

午後4時20分 委員会再開

○委員長（浅田 徹） 建設経済委員会を再開いたします。

それでは、第41号議案の審査に入ります。

それでは、第41号議案、令和2年度豊岡市水道事業会計予算を議題とします。

当局の説明を求めます。

水道課、和田参事。

○水道課参事（和田 哲也） それでは、第41号議案、令和2年度豊岡市水道事業会計予算についてご説明申し上げます。

豊岡市特別会計予算書の203ページをごらんください。水道事業会計予算でございますが、203ページから205ページまでにつきましては、本会議で部長が説明したとおりでございますので、詳細につきまして、予算実施計画でご説明申し上げます。

207ページをごらんください。まず、収益的収入及び支出でございますが、収入では、水道事業収益として24億80万9,000円を予定しています。主なものといたしましては、その2つ下、営業収益の水道料金17億5,433万1,000円、4つ下の雑収益、下水道使用料徴収等受託金5,043万円でございます。営業外収益のうち、一般会計補助金は、先ほど一般会計予算で説明いたしました水道事業会計負担金の一部でございます。

208ページをごらんください。支出では、水道事業費用として21億8,256万4,000円を予定しています。営業費用は18億9,852万2,000円で、主なものといたしましては、中段あたりに原水及び浄水費の委託料として1億4,387万3,000円、これは佐野浄水場及び各浄水施設の運転管理業務等でございます。

次のページの中段あたりに配水及び給水費の委託料5,060万6,000円、これは各配水施設の保守点検等でございます。その少し下の修繕費5,676万6,000円、これは漏水修理等に係る費用でございます。

1ページめくっていただきまして、210ページ、中段少し下の総係費の委託料9,003万9,000円、これは料金等賦課徴収業務等でございます。

次に、212ページをごらんください。資本的収入及び支出でございますが、まず、上段の資本的収

入は7億9,624万4,000円を予定しております。これは企業債6億4,760万円のほか、一般会計出資金、負担金及び城崎・港給水区配水施設整備事業等の補助金を計上しております。

下段の資本的支出は18億5,650万2,000円を予定しています。建設改良費は9億6,343万6,000円を予定しており、うち工事請負費として9億65万円を計上しています。

先ほどお手元にお配りしました予定箇所図、A4の横長のもので2枚をお配りしましたが、こちらとあわせてごらんいただければと思いますが、資料1には管路工事の予定箇所、資料2には施設整備の予定箇所を示しています。

主な事業といたしましては、城崎・港給水区配水施設整備事業5,200万円、老朽管更新事業4億2,200万円、大見塚受水池・配水池改築事業1億100万円、岩中浄水場改築事業1億9,300万円を予定しています。

213ページから217ページまでにはキャッシュフロー計算書、給与費明細書を添付していますので、ご清覧ください。

続きまして、218ページをごらんください。債務負担に関する調書でございます。上の2つは以前に設定したもので、このうち老朽管更新事業につきましてはゼロ市債に係るものでございます。一番下の大見塚受水池・配水池改築事業につきましては、この事業のうち、敷地造成、進入路整備等に係るもので、限度額2,560万円を今回新たに設定しています。

219ページからは、予定貸借対照表、予定損益計算書及び注記を添付していますので、ご清覧願います。

なお、令和2年度の純利益につきましては、213ページにキャッシュフロー計算書をつけておりますが、こちらの一番上にありますとおり、1億4,037万1,000円を予定しています。

以上、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（浅田 徹） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

青山委員。

○委員（青山 憲司） 新年度予算なんですけども、私ちょっと一般質問でもお話をさせてもらって、十分質問時間がなくてあれだったんですけども、長期的に見て、これから人口減少が起こる、有収水量も、確保しようと思えばそれなりに経費もかかってくるということではあるんですけども、今後、長期的に見て、財政的に、来年度予算にも係ってくることなんですけど、平成30年に策定された水道事業の経営戦略を見るんですが、佐野浄水場の施設整備は、このときの予想でいくと、平成41年にかかってくるということなんですけど、これらも踏まえて、長期的に見ると、構造物の設備の見通しとか、管路の見通しで、かなりその年度によって多い少ないが出てくるんですよ。

だから、このあたりは全体的の平準化っていうんか、を図っていくような方法をとっていかないと、今の、年度によってすごく予算がオーバーしてくるようなときが出てくるのではないかと思うんですけども、そのあたりの基本的な考え方っていうのどうなんでしょうか。もっと平準化を図っていくような方針っていうのは考えられないのか、その点についての、今の水道事業に関しての方針は、ちょっと聞かせていただきたいんですけどね。

○委員長（浅田 徹） 岡田課長。

○水道課長（岡田 光美） おっしゃいましたように、年度によって凹凸が激しく出ております。それを何とか平準化しようということで、この経営戦略でもお示しさせていただきましたけども、耐用年数という考え方から実耐用年数という考え方に移行しようということで、管路ですと、平均40年もちますよということから、大体、実際には60年ぐらいもってるっていう実績がございますので、40年から60年に移行しつつ、その凹凸をなくして平準化しようというような考え方を取り入れております。以上です。

○委員長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） それと、もう一つは企業債残高なんですけど、水道事業の場合は、長期財政見通し

でいくと、平成でいくとちょっとぐあいが悪いんですけども、投資財政計画で見ると、平成41年です。何年になるんだ、10年後だから2030年か、2030年で、経営戦略ではぐっと上がって163億円ぐらいがまだ企業債残高として残るんですけども、一方で、長期財政見通しでいくと、企業債残高が、2030年でいくと70億円ぐらいになってるんですけども、このあたりがちょっと企業債残高の見通しとしてどうなのかなっていうの、ちょっと気にはなるとこなんですけどね。

○委員長（浅田 徹） 岡田課長。

○水道課長（岡田 光美） 今言われる企業債残高、この経営戦略で一番の注目点に置いておりまして、何とかこれを半減したいなという思いで対応を考えております。

といいますのも、収益に係る残高が、豊岡市の場合は750%程度あります。全国平均で350%から300%ぐらいというところで、何とかそれにしよう。それにするには半減しなくちゃならないということで、今ある貯金の分も使いながら、なおかつ借金を返す以上に借金をしないというのを目的に減らそうというふうなことで経営戦略を考えさせていただいております。以上です。

○委員長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 今度、水道事業、下水道事業もそうなんですけど、後で出てくる、水道事業の場合は料金改定が平成23年の4月からということであったんですけども、水道事業に係る経費を考えると、ぼちぼち料金見直しの提案がされるのかなと思ったりもするんですけども、その上で、しっかり今の事業に取り組まれているその実態、平成23年に値上げをしてきた以降の事業自体の経費節減というか、削減に伴う取り組みっていうのをしっかり押さえたいほしいなとは思いますが、そのあたりで、今示せるものっていうのは、こういった今の取り組みだと思うんですけども、その辺はちょっとしっかりまた説明できるものを準備しといていただきたいなというふうに、これはお願いとしておきたいと思っておりますけども、よろしくお願いします。

とりあえず。

○委員長（浅田 徹） ほかにございませんか。

椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 今、青山委員のことで、私もよくずっと同じようなことも言ってるんだけど、人口が減って行って、こんだけ広大な豊岡市を、水を今の状況でカバーしようと思うと、なかなか大変なんだろうな、借金の上に借金を重ねたくないという、誰しもそういうことは思ってるんだろうけど、でも、カバーしようと思うとというか、何かしなきゃいけないね。利用料金を上げるか、もしくはそれだけ何か考えていかないといけないということもあると思うんだけど、例えば兵庫県で一番安いのは赤穂ですよ。あそこは水も豊富だし、たくさん使ってくれる企業、大企業もあって、いわゆる水道使用料も、利用料金も入ってくる。それから、何より配水施設ですよ、水道の配水する施設ですね。それがやっぱり少ないってところを聞いているんですよ。そうすると、今いろいろと地図も図面もいただいたんだけど、将来的に、そういったやっぱりそういう努力をやっていかないと、今、現状維持でやっていこうと思ったら、到底無理があるのではないかなという。近い将来そうなるだろうということが予想されるね。今、青山委員が質問したんで、関連でちょっとつけ加えて、それをそういうふうに今、意見というか、思いを言うんだけど、その点はいかがですか。

○委員長（浅田 徹） 岡田課長。

○水道課長（岡田 光美） おっしゃるとおりだと思います。今ある施設をそのまま維持しようと思えば、当然それなりの費用が必要だと。見通しは、人口減少の中で、利用料金を上げないと、今ある収益は得られないというのはもう皆さん、ご周知のことだと思いますけども、その中で、今後、配水するのにどのぐらいの規模の施設が要するのか、同じ数の施設が要するのか、統合ができるのかというところを考えていきたいと。

それから、あと、兵庫県下でも管理者の中でも話ししてるんですけども、全部が全部1カ所から送る

んではなくて、プロパンガス方式と、ちっちゃなものをぽんとそこにつけるといったようなのもこれからは考えるべきじゃないかというようなことも出ておりまして、広くいろいろな情報を得たいなと思っております。

たまたまですけども、神戸大学のほうから、今、但東町のほうの施設において、プロパンガス方式みたいな形で、人口が少なくなったら配水池を一個違うところに持って行ってというような形ができないかというようなことを研究していただいております、またその成果がどのようなものが出てくるかわかりませんが、いろいろと検討していきたいと思っております。以上です。

○委員長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） だんだんよくなっているというのは考え方がいろいろとあるので、大変、私も今、気持ちよく受け入れをさせていただきます。

やっぱり市民に負担をかけるっていうことは極力避けていきたいなと私は思うんですよ。今の金額は、全国平均で安いのか高いのかっていったら一目瞭然だと思うんだけど、それは別に料金のことで言ってるわけじゃなくて、豊岡の人たちの市民の皆さんの暮らしがどんどんどんどん厳しくなっていくのはいかがなものかと。それは市が努力してもらって、やっぱりそういうふうにならないように努力を一つずつやっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（浅田 徹） 松井委員。

○委員（松井 正志） 発言の趣旨は、青山さんも椿野委員も、恐らく僕も一緒ですが、人口減少が確実に進んでいくんで、学校の統廃合と一緒に、やっぱり施設も規模縮小したり、例えば管路の経を小さくしたり、同じように全て現状のままで、支出も現状のままで想定をして利用料金を考えるじゃなくて、当然、全部スモールにして利用料金を考えるようにしないと成り立たないと思うので、今やっとなないとだめだと僕は思う。さらに、さっき管路の件で40年の耐用年数を60年に置きかえてやるって言ってたんだけど、その際に、管路っていうのは、

今の考え方でいくと、同じルートをずっと使うって
いうことなのか、今のプロパンガス方式のようなこ
とが出てくると、管路そのものもかえてきてもええ
ような気もするんだけど、そういうとこの辺まで
は踏み込んで考えはされとるかどうか、いかがでし
ょうか。

○委員長（浅田 徹） 岡田課長。

○水道課長（岡田 光美） 今すぐに管路をかえると
きにプロパンガス方式って言って、1個また浄水場
つくるっていうのはなかなか難しいので、長期見通
しの中で、人口減少を考えながら。今ある管路は、
昔のままの材質ではなくて、いろいろと技術の進歩
がございますので、今、60年って言いましてけど
も、業界の中では100年ぐらいもつんだというよ
うなものも出てきておりますので、そういったもの
を積極的に使っていきたいなと思っております。以
上です。

○委員長（浅田 徹） よろしいですか。

○委員（松井 正志） いいです。

○委員長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 村岡です。わからんもんで教
えてほしいんですけども、この予算書見ながら、市
の一般会計、衛生費の中から3億6,500万円ほ
ど入りますね、水道会計に。ところが水道、この収
入のほう見とったら、そんなお金どっこもあらへん
し。（「ここにある、2億6,400万円」と呼ぶ
者あり）いや、お金違うだろう。それは補助金だわ。
負担金だでね。（「負担金か」と呼ぶ者あり）一般
会計のほうは負担金になっとるから、補助金やなん
て分かれとるけども、負担金という名目で見たら3
41万円しかあらへんしな、どないして見たらええ
んかなと思って。

○委員長（浅田 徹） 和田参事。

○水道課参事（和田 哲也） 特別会計予算書の20
7ページをごらんください。

○委員（村岡 峰男） 200。

○水道課参事（和田 哲也） 207ページでござい
ます。その中で分かれてまして、まず、上のほうに、
済みません、中ほどですね、営業外収益の中の一般

会計補助金、付記欄には一般会計繰入金としてます
けども、その2億6,460万8,000円と、そ
の下の一般会計負担金341万9,000円、それ
と、済みません、212ページをごらんいただけま
すでしょうか。こちらの収入の分の一般会計出資金
ですとか、その下の負担金の一般会計負担金、その
あたり合算したものが一般会計からいただけるん
ということになってます。

○委員長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 一般会計のほうの負担の説明
欄は、あくまでも負担金1本なんですね。ところが、
受ける側は負担金があったり、補助金があったり、
出資金があったり、出資金だったか、というふうにも
ういろいろ分かれてるということですね。

○委員長（浅田 徹） 和田参事。

○水道課参事（和田 哲也） おっしゃるとおりです。

○委員（村岡 峰男） そんなもんか。（「内訳で目
的別というか性質別というか」と呼ぶ者あり）

○委員長（浅田 徹） よろしいか。椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 今の関係じゃないんだけど、
岡田課長、ちょっと。さっき松井委員が質問したら、
100年ももつって言いなっただけど、申しわけ
ないんだけど、40年、50年、100年先には、
ひょっとしたらその配管、立派な配管持っても、
その先には人がいない可能性、よく考えてください。
お願いします。（「はい」と呼ぶ者あり）立派なも
ん入れてもね。よう考えて、よろしく。

○委員長（浅田 徹） それでは、質疑を打ち切り
ます。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（浅田 徹） それでは、討論を打ち切り
ます。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決す
べきものと決定してご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（浅田 徹） ご異議なしと認めます。よ
って、第41号議案は、原案のとおり可決すべきも
のと決定いたしました。

ちょっと暫時休憩します。

午後4時42分 委員会休憩

午後4時47分 委員会再開

○委員長（浅田 徹） 休憩前に引き続き、委員会を再開します。

それでは、続きまして、第42号議案、令和2年度豊岡市下水道事業会計予算を議題といたします。

それでは、当局の説明を求めます。

石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 下水道課から、第42号議案、令和2年度豊岡市下水道事業会計予算についてご説明をさせていただきます。

既に部長が議場のほうで説明をしておりますので、予算実施計画で詳細を説明させていただきます。

230ページをごらんください。まず、収益的収入及び支出ですが、収入では、下水道事業収益として58億3,853万6,000円を予定しております。主なものとしましては、営業収益の下水道使用料17億2,280万4,000円、前年度対比2.42%減。次に、雨水処理及びし尿処理に係る他会計負担金1億6,192万9,000円、営業外収益の汚水処理に係る一般会計補助金24億7,456万2,000円、長期前受け金戻し入れ14億3,439万円、消費税及び地方消費税還付金3,478万1,000円などが主なものでございます。

231ページをごらんください。支出では、下水道事業費用として51億2,250万9,000円を予定しております。営業費用の主なものは、管渠費では異常通報や通信運搬費の1,769万2,000円、施設維持管理などの委託料4,135万円、施設修繕費4,723万1,000円、動力費5,471万円、ポンプ場費では、施設維持管理などの委託料885万7,000円、次のページ、232ページになりますが、処理場費では、運転管理や汚泥処理業務などの委託料4億7,040万6,000円、施設修繕費1億155万5,000円、動力費1億6,965万2,000円、薬品費3,474万1,000円などが主なものでございます。

233ページになります。総係費では、下水道台帳整備等の委託料1,171万5,000円、使用料徴収事務などの負担金5,110万4,000円などが主なものでございます。それぞれの目には、職員の人件費、賞与引当金繰入額等も計上しております。

次に、減価償却費では、有形及び無形固定資産の減価償却費31億9,956万8,000円、資産減耗費では、建設改良等に伴う固定資産除却損9,659万8,000円を計上しております。

営業外費用では、企業債等の支払い利息6億6,613万3,000円が主なものであります。

235ページをごらんください。資本的収入及び支出ですが、資本的収入は35億7,485万8,000円を予定しております。主なものとしましては、企業債24億6,040万円、建築改良事業に伴う国庫補助金11億565万円などでございます。

236ページをごらんください。資本的支出では、58億3,605万9,000円を予定しております。建設改良費の主なものは、管渠施設事業費では、統廃合基本詳細設計業務等の委託料1億921万5,000円、施設の統廃合、長寿命化などの工事請負費10億6,092万1,000円などでございます。処理場施設事業費では、施設の長寿命化対策事業等、委託料1億2,854万4,000円。次のページ、237ページですが、下水道処理施設工事請負費9億1,750万円が主なものでございます。

企業債償還金では、企業債償還元金35億6,799万9,000円を計上しております。

お手元にお配りしましたA3横長の、令和2年予定箇所図でございしますが、建築改良費の主なものとしまして、統廃合事業10カ所、青色のくくりで囲った部分になります。長寿命化事業8カ所、これは赤色でくくった部分になります。その他の事業としまして、雨水排水路等の整備が緑色のくくりの箇所、5カ所になります。全ての業務、工事の合計としまして22億1,340万円を予定しております。

もとの資料に戻ります。238ページからにつきましては予定キャッシュフロー計算書、次ページ以降、給与費明細書、予算貸借対照表及び予定損益計算書を、248ページからは予算説明書類に記載している事項に関する注記を添付しております。ご清覧ください。

以上で説明を終えます。よろしくお願いご審議のほどお願いいたします。

○委員長（浅田 徹） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

松井委員。

○委員（松井 正志） この図面で、左下に凡例が書いてあって、一番下に合併浄化槽、これは個別の合併浄化槽と思う、この上の個別排水っていうのはどういう処理の方法ですか。

○委員長（浅田 徹） 石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 左下の凡例のうち、下から2番目の個別排水処理区、水色で付した部分ですけども、例えば但東町のあたりで点在しています部分……。

○委員（松井 正志） 合橋とか高橋とか資母とか。

○下水道課長（石津 隆） はい、奥山とか。そういう小さな集落におきましては、個々で合併浄化槽を持つというエリアに指定をしております。そういう区分のものでございます。

○委員（松井 正志） その下の合併浄化槽とまた別なんでしょうか、凡例の下だね。上の個別排水と下に合併浄化槽ってあるでしょう。凡例のほう、凡例のほう。

○委員長（浅田 徹） 石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 下の合併浄化槽エリアにつきましては、例えば、ひのそのあたり、こちらのほうは小規模な集落ですけども……。

○委員長（浅田 徹） 暫時休憩します。

午後4時57分 委員会休憩

午後4時58分 委員会再開

○委員長（浅田 徹） じゃあ、再開します。

石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 失礼をいたしました。

一番下のくくりにつきましては、下水道課で所管をしていない部分になります。申しわけございません。集落何戸かを寄せた合併浄化槽でなく、個々で合併浄化槽を持っていたと思いますが、下水道課の事業以外の個排ということでございます。

○委員長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 先ほどの水道と同じことなんだけども、下水も同じように配管をしていって、今ここには集落排水も今度、公共下水と一緒にしようという計画もありますよね、城崎でもね。だから、そういう意味では、そういった施設と一緒にしようとする考え方は悪いことじゃない。そういう意味でいくと、人口がどんどん減っていく中で、公共下水に何が何でも接続をしなきゃいけないかどうかというところにも、いわゆる市街地とは別ですよ、今の個々の個別排水っていうものであるように、何が何でも公共下水に向かっていかなきゃいけないんかっていうのがいいのか、将来的に人口が減ってくる中で。要するに今、家庭で、自分のとこで浄化槽を持っておられる、そういうやり方ではいけない。そのかわり生活用水は流れちゃうけどね、そのかわり。だけど、そういうことを今後どう、今の水道と同じようなことを下水でも考えなきゃいけないのではないのかなと思うのが一つ。

それからもう一つは、これはちょっと可能か不可能か僕もようわかんないけど、この中に豊岡市浄化センター長寿命化対策っていうの、これ一日市のことですか。23号台風のときに、一日市のあそこの浄化センターが使えなかったですよ。結局、汚物、タンク、汚物かな、汚物ね、いわゆる。あれを一時、仮に城崎の公共下水の浄化センターに持っていったよね、たしか。いや、そうなんです。それは、処理するところがなかった、あそこの施設が壊れちゃって。僕はそういうふう聞いてます。それはだめなんですか、いけないんですか。何かルールがあって。

何が言いたいかっていうと、一日市の浄化センターがなくても、もしも余ってる、余裕のある、例え

ば浄化センターがあるとしたら、桃島の地区にありますよね、城崎ですね、城崎浄化センター。あれ、たしか余ってるはず。今、浄化能力が余ってるはずです、十分。そういうところに持っていけないのか、今の台風のとくみたいな緊急のようなことを考えるならば。それで、わざわざ一日市のあの浄化センターを長寿命化して、あれを残さなきゃいけないものなのか、そこら辺ちょっと、2つ意見というか、答えをお願いします。

○委員長（浅田 徹） 石津課長。

○下水道課長（石津 隆） まず、1つ、生活排水の中で、古くなったものを必ずエリア的に浄化槽処理をしなければいけないか……。

○委員（椿野 仁司） 公共下水につなげなきゃいけないかどうか。

○下水道課長（石津 隆） 公共下水道、市街地のほうの公共下水道につきましては、もう面的整備が整っておりますので……（発言する者あり）これは保存すべき、継続すべきものと思います。

小さな集落につきましては、また新しい技術も出るかわかりませんが、再整備をするほうがいいのか、それをもう一度、個別の合併浄化槽にかえるというほうがメリットがあるのか、その辺は次の更新のときに十分に検討して、新たな経費削減の方策として見きわめていきたいと思います。現状では、統廃合を今やっていますので、この事業が終息して、さらなる更新等が発生したときというふうに考えております。

もう一点、豊岡市浄化センター、市街地北部、一日市にあります浄化センターにつきましては、日量2万1,000トンの計画に対して、現在でも1万5,000近くの水が流れております。これを次の処理場に、例えば車両等で持っていくというのは物理的には困難でございます。

多分、台風23号のときの受け入れたというのは、し尿であったり、くみ取りの処理が一日市で間に合わないのか、城崎等をお願いしたといいますか、こちらで処理したということだと思っております。

ですから、一日市が被災したときには大変苦しい

ことになりますけれども、現在、被災水位までの水が上がっても機能が停止しないように電気設備を2階に上げたり、パラペットで輪中にしたりということで23号相当の水では問題がないように今、構築をしております。その辺が危機管理にかかって整理をした部分というふうに思っております。

○委員長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 違う、僕が聞いているのは、いやいや、だから、いわゆるそういう役割が果たせたから、規則的にも含めて、いわゆる公共下水の今の城崎の浄化センター、あとほかにもあるでしょう。余裕があるところには持っていけないんですか、そこで浄化してもらうわけには、そこで処理してもらうわけにはいかないんですかっていうこと、タンクローリーで持っていったやつを。そのことなんです。それは検討もできないことなんか、そこをちょっとお聞かせて。

○委員長（浅田 徹） 石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 一日市に関しましては、まず、物理的に不可能だと思います。

○委員（椿野 仁司） はい、わかりました。いいです。

○委員長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 済みません、ちょっと端的にお尋ねします。

下水道事業に関しては料金を平成27年度に見直して、28年度から料金改定がされておるというふうに認識しておるんですけども、今回、市長の総括説明の中でも、料金見直しをされるということを伺ったんですね、下水も一緒ですよ、たしか。下水は見直ししない。

○委員長（浅田 徹） 石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 市長の総括の中で申しましたのも、検討をしてみるということですので、決定事項ではございませんし、下水道は28年に料金改定をしております。5年ごとにもう一度見直すということで、令和2年度にその作業を、点検含めて、するということでございます。

○委員長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） それを踏まえてなんですけども、経営的に、今の財源が不足する年度っていうのはいつごろというふうに見込んでおられるんでしょうか。

○委員長（浅田 徹） 石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 平成27年度に料金改定を検討した折に公営企業審議会のほうからも長期見通し、これは10年間の見通しを立てております。11.3%の料金改定に伴いまして、そのときに試算をしたものとしましては、9年目に不足額が発生するというところに試算上はなっておりました。それを踏まえまして、平成28年から今年度までの実績が入りますので、実績を今見きわめた中で、曲線的には少し改善ぎみというふうな見通しではおりますけども、それを今回、令和2年に改めてシミュレーションをかけるということでございます。

○委員長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） これも下水道事業の経営戦略によると、補填財源が不足するのは平成36年。だから、今32年、令和2年とすると、向こう4年間、4年後に、ですから令和6年ぐらいに補填財源が不足するというふうな見通しを経営戦略の中で立てられてるんです。

それを今回、下水道も含めて、料金見直しというんかな、それにかかるっていうのはちょっと時期的にはどうなのかな、早過ぎるんじゃないかなというふうに個人的には思うんです。だから、それを今回、水道事業とあわせて料金見直しを、見直してっていうんか、検討するっていうふうに言われたのは、何か根拠があるのかなっていうふうに思うんですけど、その見直し事業を令和2年度にするっていうのは、何でこういう時期にされるっていうふうに言われたのか、そこのとこの根拠は、ちょっと教えてもらえますか。

○委員長（浅田 徹） 石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 先ほど言いましたように、平成27年度に公営企業審議会のほうで、10年というスパンの中の長期見通しをつくりました。そのときに、答申の中の一つの根拠としまして、5

年ごとに見直しを図ることということが付されております。それを受けまして、5年目が過ぎようとして令和2年にその作業を整えて、またそこから5年、さらに次の5年という計画をつくり直すということでございます。

○委員長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） わかりました。

先ほどの話で改善が見られるというふうなこともあったりしますし、下水道、水道料金の5年ごとの見直してっていうのはよく理解もしますけども、特に長期的な財政でいくと、水道事業とは比較にならないほど今の企業債残高があるというふうに思ってますし、見えますし、統廃合も含めて、できるだけ、将来世代に負担と言いながら、やっぱり現役世代も高齢化が進んでいる状況の中で、やはり料金見直しというのは慎重にしていきたいなというふうに思います。これはお願いとして言っておきたいと思います。よろしくお願いします。

○委員長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 平成27年の見直しのときに随分議論になったように思うんですが、今、過ぎちゃったけども、城崎の旅館の未加入問題というのがそのとき随分問題になったんですが、その後の状況、前進があるのかないかも含めて、ちょっと報告してくれませんか。

○委員長（浅田 徹） 石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 27年の当時、議会のほうからも水洗化率の促進ということで、動きをなささいということも付されておりました。当時、28年の城崎町の水洗化率でいいますと84.0、それから、2年後の30年ですと85.8ということで、1.8ポイントほど実績としてふえております。また、旅館組合のほうにつきましても、旅館の組合を通じて各組合員さんの中で未接続の部分を、勧誘といいますかお願いをしていただいたり、我々も組合の総会に出ていきましてお願いをさせていただいたりということで、随時、接続に向かって協力をお願いしておるところでございます。

○委員長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 28年から30年の間で1.8%ですね。それが何戸なのか、それはわかりませんけども、まだ未接続があるんですね。何戸というふうにはなかなか言えんでしょうけども。

○委員長（浅田 徹） 石津課長。

○下水道課長（石津 隆） 済みません、戸数につきましては、今、手元に持っておりませんが、城崎町につきましては、やっぱり供用開始が遅かったということで、既に単独浄化槽を整備されておって、今まだ機能しておられるところもございます。そういうところや、どこも一緒なんですけども、古い家屋、古いアパートで全棟をやりかえんなんようなところについては非常に困難だということも聞いております。豊岡市が一番早くから供用開始をしておるんですけども、それからの経過年数の曲線を追いますと、同じように経過することによって、当然、接続率は上がってまいります。その辺、急激にということがちょっとどこまで押せるかわかりませんが、その辺は我々も努力してまいりたいと思います。以上です。

○委員長（浅田 徹） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） いわゆる、今、単独っていうことを言われたんだけど、単独浄化槽の場合は家庭雑排水は出るんですね、外に。ということもありますので、この下水道の持つ意味を考えると、やっぱりお願いをもっと強力にやっていただきたいなど。特に個人の家庭の未加入と営業されておる旅館とは意味合いが違うと思うんですね。ですから、いろいろ経営の厳しさもありますけども、そうはいっても下水道法そのものを仮に厳密に適用したら、3年でしたかね、いうのもあるわけですから、その辺のところは、大変厳しいだろうけども、何とか頑張っ

て加入を促進していただきたいということを強くお願いをしたいと思うんです。（「そのとおり」と呼ぶ者あり）以上。

○委員長（浅田 徹） では、その他ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（浅田 徹） それでは、質疑を打ち切り

ます。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（浅田 徹） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（浅田 徹） ご異議なしと認めます。よって、第42号議案は原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で、上下水道部の職員の皆さん、大変長時間ありがとうございました。退席いただいて結構です。ご苦労さまでした。

午後5時15分 委員会休憩

午後5時15分 分科会再開

○分科会長（浅田 徹） それでは、次に続きまして、次は、建設経済分科会を再開いたします。

それでは、第32号議案、令和2年度豊岡市一般会計予算の討論、表決を行いたいと思います。

32号議案ですけども、討論はございませんか。村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 毎回毎回申し上げておりますけども、今回も申し上げます。コウノトリ但馬空港利用促進については、ゼロにしなくても、少なくとも補助率の見直しはすべきだということを言ってきましたが、一向に、地方創生だとかいろいろ言われて実現をしないんですけども、やっぱり補助率の見直しはせめてやっていただきたいなど。特に福田さんが資料要求しておる中に、1年間で最も多く利用した回数っていうのは何回だと、個人の1人が。80何回っていうことですね。80何回というのは、1週間に2回、平均すると。そういう人まであるんですけども、ちょっとこれは見直しを強く求めたいなど。率の見直しが全くされないという予算については同意しがたいと申し上げておきます。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） それでは、一般会計の予算の賛成の討論をいたします。

先ほど村岡委員がコウノトリ但馬空港のことに
ついての補助金、補助率のことを言われたんですが、
くしくも平成26年の空港整備の関係で、ごめんな
さい、違う、2026年です。兵庫県が滑走路の延
長をということを、今、提案というんでしょうか、
計画をのせようとしてくれています。やはり今やめ
るわけにはいかない。やはりコウノトリ空港をさら
に延長していただいて、我々の夢でもある東京直行
便というものの実現に向けて、我々の地域はそうい
う動きをしなきゃいけないときであります。大切な
ときでありますので、今、手を緩めることなく、当
然、でも利用率を上げるためには市民の皆さんが、
補助金とか補助をもらえるからといって乗るの
ではなくて、本来ならばやはり皆さんが我が村の、我
がまちの空港として利用を促進するべきだと思い
ますけれど、ただ、冒頭申し上げたように、今、手
を緩めることなく空港の利用を、夢に向かっての利
用をするためには、今、手を緩めずにやっていかな
ければいけないだろうというふうに思っておりま
すので、賛成討論とさせていただきます。以上です。
（「やめれとは言っていないんですよ。補助率の見直
しを求める」と呼ぶ者あり）

わかってる。だから、補助率を、別にあんたと会
話したって意味がない。また……（「よくわかりま
す」と呼ぶ者あり）そういうことです。

○分科会長（浅田 徹） それでは、賛成、反対の
意見がございますので、挙手により採決をしたいと
思います。

本案は、原案のとおり可決すべきことに賛成の委
員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○分科会長（浅田 徹） 賛成多数により、第32
号議案は原案のとおり可決すべきものと決定をい
たしました。

それでは、本日、令和2年度の豊岡市一般会計予
算案の説明、質疑、討論、表決が終了しました。

本議案について、分科会として付すべき意見、要
望がございましたら、ご発言のほうよろしく願い
たいと思います。意見、要望でございます。

松井委員。

○委員（松井 正志） 私、質問もしましたけども、
有害獣対策については何らかの意見を付して、農業
者の意欲を減退しないような対策というんか、成果
につながるように、やっておられるいろんな施策の
取り組みについては評価しますけれども、さらに、
一向に減る気配が見えないので、引き続き努力して
いただくとともに、農業者の意欲の減退につながら
ないようによろしくお願いしますということを意
見として入れていただきたいと思います。

ほかにも言っちゃってもいいですか。

○分科会長（浅田 徹） よろしいですよ。

○委員（松井 正志） さらに、専門職大学について、
これも質問しましたが、状況を見ると、但
馬に引っ張ってきた責任もあって、豊岡市が突出し
て負担がふえる懸念があるので、できるだけ財政の
ことを考えて、飛び出さないようにしていただきた
いというようなことを入れていただきたい。

それから、もう一つ、乙女の湯、椿野委員も言わ
れたんですけども、問題は、事業者が体力があん
まりない、財政的な体力が非常に、新しい会社なの
で乏しいので、今回のコロナウイルスでスタート失
敗すると、施設の維持にも懸念されるので、慎重に
といえますか、十分注意を払って受託者を指導して
いただきたいというふうなことも入れていただい
たらと思います。以上です。

○分科会長（浅田 徹） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 新型コロナウイルスの影響で
さらに市内の経済状況が悪化するようなことがあ
れば……（「あればじゃない。悪化しとるでしょう」
と呼ぶ者あり）あればじゃなくて悪化しとるんか。
悪化の一途にあるので、本予算案の中であっても柔
軟な対応をしていただきたいと思います。

○分科会長（浅田 徹） それは支出のほうですね。

○委員（椿野 仁司） 支出のほうです。柔軟な対応、
対策を講じられたいと。委員長、それでよろしくお
願いします。対応、対策を講じられたいと。済みま
せん、急に思いつきでいろいろと言いまして。

○委員（村岡 峰男） 木質バイオマスの関係で、チ

ップの製造やめたんだか、チップじゃないわ、ペレット。ペレットストーブが、ことしの冬1回も使わなんだというところが結構あるんですね。だから、それを大事に持っておかないかんのかどうか。いわゆる有効活用も含めて、売却も含めて、再検討すべきではないのかなということ、もし入れたら入れてください。こだわりません。

○分科会長（浅田 徹） 青山委員。

○委員（青山 憲司） じゃあ、私も一つだけ意見を言わせてもらいます。今の若者のUターン、Iターン、それからジョブ合同企業説明会とか活発にやられてますけど、特に若い女性のUターンを望む施策として、やはり求人、求職に見合うそういった今の若者の意見を取り入れた、施策につながるような予算執行に努めてもらいたいということをお願いをしたい。これは意見として入れたら、具体的な若者女性、若い女性に帰ってきてもらうような取り組みに取り組んでももらいたいということは、ぜひ意見として入れてほしいなというふうに思います。今、ジェンダーギャップの取り組みをよく声高に言われるんですけども、それは具体的にどういう取り組みとしてこの中に、予算に反映されているのかなとちょっと疑問に思うんで、求人と求職のミスマッチをしっかりと検証して、その取り組みを予算に反映するようにお願いをしたいというふうに思います。1点だけです。

○分科会長（浅田 徹） ほかに、一応そうしたらこのようなことで意見を……（「正副に任せるわ」「正副にお任せします」と呼ぶ者あり）
ちょっと暫時休憩します。

午後5時27分 分科会休憩

午後5時31分 分科会再開

○分科会長（浅田 徹） では再開をします。

それでは、分科会長報告についてでありますけども、先ほど、今、皆さんのご意見をいただいたものを要約するというふうなことを前提でご一任願いたいと思いますけども、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（浅田 徹） それでは、ご異議はございませんので、正副会長にご一任をいただきます。
ここで建設経済分科会を閉会します。

午後5時31分 分科会閉会

午後5時31分 委員会再開

○委員長（浅田 徹） それでは建設経済委員会を再開をしたいと思います。

本日、令和2年度会計予算案の説明、質疑、討論、表決が終わりました。

第39号議案、第41号議案及び第42号議案について、委員会として付すべき意見、要望がございましたら発言をお願いしたいと思います。上下水道の関係ですね。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 42号議案については、先ほど私も質問をしましたが、城崎地域の未加入については、特に個人じゃなくて営業をされてるところについては、ぜひ積極的な加入をしていただくようにさらなる努力をお願いしたいというような文面をぜひお願いしたいと思います。（「そうですね、収支に影響しますからね」「接続率でしょう」「接続率を高める」と呼ぶ者あり）接続率を高めるために一層の。

○委員（椿野 仁司） できたら、村岡さん、全部を言っておいて、その中で特についていってというような、ピンポイントで特にじゃない。豊岡全体の、一般的に接続を上げてほしいんだけど、努力する、特につけて入れてもらう。特に城崎っていうと、何かごっついあれなんで。それをちょっと入れていただきたいと思いますけど。（「いきなり城崎と言わずに」と呼ぶ者あり）そう。

○委員（村岡 峰男） 接続率を引き続き上げる努力をお願いしたいと、特にということで、よろしくお願いします。

○委員長（浅田 徹） 接続率アップ、水洗化率の向上に向けてのさらなる努力のことですね。

○委員（村岡 峰男） 下水道、水洗化率は違うで。水洗化はしとんなるんだから、合併処理槽だとか、

単独浄化槽で。だから、下水道の加入率。

○委員長（浅田 徹） だから、下水道を接続できてないところですよ。

○委員（村岡 峰男） だから、接続率を上げると、下水道じゃなくて。（「公共下水」と呼ぶ者あり）

○委員長（浅田 徹） 公共下水の接続率。

それでは、意見、要望。

○委員（青山 憲司） 水道等の改定検討がされる年度、20年度で料金改定の可否等、慎重に検討していきたいということですが、今の人口減少が進む中でなかなか厳しい経営状況にあるんですけど、両方ですよ、水道も下水道も。やっぱり今の、慎重にそのあたりは住民の意見も反映できる検討をして、施設の整備に当たっては、平準化をして、その年度に偏りがないように整備するように、長期財政見通しをしっかりと立てること。その上で料金の見直しというんか、検証をすること。

それから、毎年、建設のほうで上がってるんですかね、今の特別料金の見直し、工業団地とか。あれも去年は入れてなかったんかな。

○委員長（浅田 徹） 水道料金。

○委員（青山 憲司） 水道料金、下水道も。（「質疑の中で出てへんかったね」と呼ぶ者あり）出てなかった。あ、あれは違うんだ、こっちじゃないんだ。あれは、建設……。ちゃうわ。こっちやね。（「ここですよ」と呼ぶ者あり）今回入れてないもんな。その料金見直しに当たっては……（「じゃない」と呼ぶ者あり）いや、こっちだ、環境経済だ。環境経済部所管。今回入れてないから。

○委員長（浅田 徹） 環境経済部のほう。上下水道じゃなくて、向こうの施策でやってるんで。工場誘致で。工場誘致。

○委員（青山 憲司） 今の料金見直しの関係を入れてもらったらいいですわ。

○委員（松井 正志） 料金見直しの中に特別の料金のあり方を含めてとか何か入れてもらったら。

○委員（青山 憲司） そうですね。

○委員（松井 正志） それで、特別料金でいいか悪いかはなかなか我々が言えないんですわ。要するに、

条例を可決しとる立場があるんで。だから、あり方を向こう側がいいか悪いか検討せえということを入れたらええん違いますか。

○委員（青山 憲司） 料金見直しの中に。

○委員長（浅田 徹） それでいいですか、特別料金を入れて。

○委員（青山 憲司） 料金見直しを行う上では、検証する上では、料金改定の可否等を慎重に検討していきたいというふうに言われてるんで、議会としてそういった特別料金も踏まえた料金の長期財政をしっかりと立てて、今の言っておられた企業債の償還とか料金見直しを慎重に検討すること。（「正副委員長、大変ですな」と呼ぶ者あり）

○委員（椿野 仁司） 青山君の今のあれにちょっとつけ加えてほしいのは、できたら、今の人口減少下においてっていうところは同じなんけども、やっぱり既存の今の事業のあり方、利用にとどまることなく、やっぱり人口減少下における……。

○委員（青山 憲司） 設備のあり方を長期的に見直すようにっていうことね。

○委員（椿野 仁司） そう。

○委員（青山 憲司） それは大事やね。

○委員（椿野 仁司） そうそうそう。だから、既存のよりも新たなまた取り組みを、人口減少下でも新たな取り組みを模索していく。

○委員（青山 憲司） だから、広域であるがゆえに、やっぱり拠点施設というのか、設備の見直しもしていかなあかん。配管が長ければ長いほどやっぱりね。

○委員（椿野 仁司） 事業所もやっぱり減らしていかなきゃいけないし。

○委員（芦田 竹彦） 余りスポットでやっちゃうと、スポットでやると、コストがプロパーの都市ガスとは違うように、コストがスポットでやったほうが高くなるんですよ。それもあって、将来的に持続可能な経営という観点からも考えなきゃいけないですから。メーター当たり、それはつなげばもう、どんどん維持管理も含めて、メーター10万円かかったら、設備投資できませんから。だから、将来に向けては、料金体系もちょっと考えなあかん。

○委員（椿野 仁司） 今、豊岡が2, 500円ぐらいだと思うわ、20立米。

○委員（浅田 徹） 今の青山委員の件は、もう上下水道事業ですな。どっちも施設も関連するんでね。（「同じことですよね」と呼ぶ者あり）上下水道どっちも。（「それぞれ議案は別々やからな」と呼ぶ者あり）別々。（「そうだな」と呼ぶ者あり）

ただ、今言う借入金の収支のいわば、何か言っとったな、9年目、10年目の、それなんか持つとくなるでしょ、ぼんとうなる。それをないもんだから。

○委員（青山 憲司） 水道事業、下水道事業というのは経営戦略というのが出てるんですよ。経営戦略の中に管路の見通しとかあるんですわ。管路なんか平成39年で。

○委員（浅田 徹） それ、固有名詞どうなってます、お題目は。

○委員（青山 憲司） 題目、管路の見通しとか構造物設備の見通しとか。題目、水道事業の経営戦略。

○委員（浅田 徹） それは、つまり平準化というのは、その分では歳入部分になっているわけか。

○委員（青山 憲司） いや、これは法定耐用年数で更新すると一時期にどんと上がっちゃうという、これをやっぱり平準化して、今の耐用年数の見直しだとかそういうことをしながら平準化を図って事業を平準化していく。

○委員長（浅田 徹） 青山委員、その分だけちょっとコピー、今どっちみち、この後、青山委員が残ってくんなったらええけど。いやいや、書いてもらったらええ。

○委員（青山 憲司） 委員長、副委員長に任せますよ。

○委員長（浅田 徹） それでは、ちょっと再開はどこかで再開いたしまして、じゃあ、それでは、今の、特に上下水道関係の意見、要望の取りまとめについてでございますけど、これも案文につきまして正副委員長に一任願いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（浅田 徹） ご異議はございませんので、正副委員長にご一任をいただきます。

その他でございます。委員の皆さんから何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（浅田 徹） それでは、以上をもちまして本日の建設経済委員会を閉会いたします。

なお、次回の委員会は、明日17日火曜日の午前9時30分から、ここ第3委員会で開催いたしますので、よろしくお願いをしたいと思います。

それでは、事務局のほうから何かございませんか、よろしいか。

そうしたら、これで本日は閉会いたします。どうもご苦労さまでございました。

午後5時43分 委員会閉会
